学校法人 同志社

事業報告書

2025

The Doshisha
Social Responsibility Report
2025

完遂なき使命を果たすために



One purpose, Doshisha, thy name Doth signify one lofty aim;
To train thy sons in heart and hand To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine Shall be as branches to the vine;
Tho’ through the world we wander far and wide, Still in our hearts thy precepts shall abide!

学校法人 同志社

The Doshisha Social Responsibility Report 2025

1875-2025 150th ANNIVERSARY
The Doshisha



創立200年に向けて 世界へ羽ばたき貢献する “一国の良心ともいうべき人物”の 育成を目指す

同志社よ、その名はひとつの目的を意味しているのである。
その学徒を、精神的、身体的に導き鍛え
神のため祖国のために生きていくように願うという
ひとつの崇高な目的を。
親愛なる母校よ、同志社の学徒はぶどうの枝のごとくつながりゆくであろう。
たとえわれわれが、世界くまなく、遠くまた広く、
さまよい歩こうとも、
同志社で学んだいろいろな教訓はわれわれの心の中に、
この後もずっと生き続けることだろう。

学校法人 同志社 事業報告書2025 発行にあたって

官許同志社英学校として1875年に始まった同志社は、創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続け、現在では約42,500名の学生・生徒・児童・園児が学ぶ「一大総合学園」に成長し、日々刻々と進化を続けています。これもひとえに、ご父母等や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと感謝しております。

2025年11月29日、私学同志社は記念すべき150周年を迎え、2021年度に始動した150周年記念事業は、創立記念式典を執り行うことが出来ました。校祖新島襄は、「同志社教育の完成には数百年はかかるだろうと」という言葉を残したと言われています。

200周年に向けての次の50年も、同志社は一丸となって良心教育を遂行し、“一国の良心ともいうべき人物”を輩出し続けるため、邁進してまいります。

一方、同志社国際高等学校の研修旅行中に発生いたしました海難事故により、未来ある生徒の尊い命が失われました。このような痛ましい惨事を防げなかったことは、教育に携わり、大切なお子様をお預かりする立場として慚愧に絶えず、痛恨の極みであります。ご遺族の皆様、また、負傷された生徒や関係者の皆様に衷心より深くお詫びを申し上げますとともに、再発防止のための安全管理体制の徹底的な見直しを行ってまいります。

学校法人同志社は、今後も教育・研究に関する様々な改革を推し進めるべく学校法人運営に取り組み、ステークホルダーの皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

本報告書によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが、より一層促進されることを願っております。

2026年6月27日
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲
同志社法人部、ならびに大学から幼稚園までの各校。
数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間
2025年4月1日～2026年3月31日
（一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています。）
附属明細書　該当事項はありません

学校法人 同志社事業報告書2025

2026年6月27日発行
発行:学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
https://www.doshisha.ed.jp/
無断転載を禁止します。
All Rights Reserved.
Printed in Japan ©The Doshisha
The Doshisha Social Responsibility Report 2025
お問い合わせは
学校法人同志社 法人部法人事務部法人事務室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL　075-251-3006 / FAX　075-251-4980
E-MAIL　ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

CONTENTS

八田 英二 総長・理事長からのメッセージ ·· 03
創立200年に向けて
世界へ羽ばたき貢献する
“一国の良心ともいうべき人物”の
育成を目指す

法人の概要 ····· 05

法人の取り組み ····· 07

150周年記念事業について ····· 09

グラフで見る同志社 ····· 17

事業の概要
同志社大学 ····· 19
同志社女子大学 ····· 23
同志社中学校・高等学校 ····· 25
同志社香里中学校・高等学校 ····· 26
同志社女子中学校・高等学校 ····· 27
同志社国際中学校・高等学校 ····· 28
同志社小学校 ····· 29
同志社国際学院 ····· 30
同志社幼稚園 ····· 31

沿革 ····· 32

財務の概要
2025年度決算の概要・貸借対照表 ····· 33
事業活動収支計算書 ····· 35
資金収支計算書・
活動区分資金収支計算書 ····· 37
資金運用の状況・中期財政目標および
中期財政計画ならびにその達成状況 ····· 39

2026年度事業計画 ····· 40

創立200年に向けて世界へ羽ばたき貢献する“一国の良心ともいうべき人物”の育成を目指す



送歳休悲病羸身
鶏鳴早已報佳辰
劣才縦乏済民策
尚抱壮図迎此春

歳を送りて悲しむを
休めよ病羸(びょうるい)の身
鶏鳴(けいめい)早く已に
佳辰(かしん)を報ず
劣(れつ)才(さい)縦(たと)え
済(さい)民(みん)の策に乏しくとも
なお壮図(そうと)を抱いて此春を迎う

総長・理事長からのメッセージ

総長・理事長
八田 英二（はった えいじ）

150周年の節目を機に「良心教育」の再発見を

2025年11月29日、同志社は創立150周年を迎えました。同日、多くの方々のご臨席のもと、記念式を執り行うことができました。

2021年度に始動した150周年記念事業には、大きく三つの意義があると考え展開してまいりました。一つ目は、歴史を振り返り、正確に記録すること。二つ目は、同志社が新島襄の志を実現する、目指すべき方向に進めているのかを点検すること。三つ目は、創立200周年に向けて歩みを進めていくことです。

また、それらとは別に、記念事業を通して見いだすことのできた意義もあります。一つは、卒業生が再結集する一つの契機となったこと。「この機に青春時代を過ごした同志社に戻りたい」との思いを抱いた多くの卒業生が参加してくださり、感謝の念に堪えません。そしてもう一つは、良心教育への誇りを再認識する機会となったこと。時代の移り変わりにさらされながらも、150年にわたって同志社は、新島襄が理想とした、キリスト教主義精神に立脚した良心教育を継承してまいりました。

創設者の思いを共有し推し進めることが後継者の使命

私学の真価は、創立者の掲げた建学の精神、教育の理念に基づいた教育活動にあります。良心教育を標榜する同志社の特異性は、新島襄の生涯なくして語ることはできません。

そういう意味で、同志社にとって忘れられない日が五つあります。まずは新島の生誕日である2月12日。そして、新島が永眠した1月23日。同年の元旦に認めた詩、いわゆる「送歳の詩」は、新島が詠んだ中でも私が好きなものの一つです。病床にあってもなお、自らの意志を貫きたいとの強い思いが込められていました。

また、新島が国禁を犯して函館から脱国したのが1864年の6月14日です。私はこの日が、同志社という種が蒔かれた日であると思っています。その1年後、ボストンに上陸した後の新島を支援したのが、上陸の際に乗っていた「ワイルド・ローヴァー号」の船主であり、実業家であったアルフィーアス・ハーディー氏でした。プロテスタント会衆派の信徒であり、その海外伝道組織であるアメリカン・ボードの議長も務めたハーディー氏との出会いがあったからこそ、新島は会衆派との関わりが深い高校・大学で学び、会衆派の宣教師養成学校であるアンドーヴァー神学校で準宣教師の資格を取得することとなったのです。

1874年10月9日、アメリカン・ボードの集会において、新島は会衆派初の日本人宣教師として演説します。「日本でキリスト教主義の大学を設立したい」という涙ながらの訴えに5000ドルの募金が寄せられました。現在の1億円にも相当するこの寄付がなければ、後の同志社英学校設立は叶わなかったことでしょう。

そして同志社が誕生したのが、1875年11月29日。同志社英学校は、アメリカから派遣された日本人宣教師が創設した初めての学校です。宣教師としての側面を持ちながら、同志社においては宣教活動を行わず、キリスト教主義に基づいた知育・徳育・体育の三位一体を目指す教育を実践し、バランスの取れた人物の育成に邁進しました。

こうした同志社の歴史を振り返り、新島がどのような学校をつくりたいと考えていたのかを見直し、新島の思いを共有したうえで、その実現を目指し、創立200周年に向けて同志社教育を遂行していく。それが、私たち後継者の使命であると考えています。



多様性社会に即した教育を追求し国内外に強く発信していきたい

少子化が進み、教育機関を取り巻く環境はますます厳しいものとなってきました。この淘汰の時代にも選ばれる学校であり続けるため、同志社も進化し続けなければなりません。今後の学校経営において重要とされることの一つが、多様性社会への対応です。かつて規模拡大を主たる目的として開設した京田辺キャンパスでは、150周年記念事業の一つとして、さまざまな個性を育む場としてのリニューアルを図っているところです。



またこれからは、今出川・京田辺の両キャンパスにおいて、地域との連携をより活性化する必要があるのではないかと思っています。同志社・京田辺市・日産自動車の三者による電気自動車を活用した脱炭素化の促進と防災力強化に向けた取り組みをはじめ、すでにスタートしている取り組みもあります。社会と連携した学びは、学生たちに大きな成長をもたらしてくれるものと期待しています。

他の私学との差別化という意味において重要になるのは、「良心を手腕に運用する人物の養成」という建学の精神と、キリスト教主義・国際主義・自由主義という三つの教育理念に基づいた良心教育でしょう。同志社における幼稚園から大学までの一貫教育は、単に推薦制度があるということではありません。新島が追い求め、時代を超えて受け継がれてきた良心教育で貫かれていることを意味しています。同志社の誇りであり、唯一無二の強みでもある良心教育による一貫教育をより強く打ち出すことで、同志社教育をアピールしていきたいとの思いがあります。

200周年に向けて次の50年、さらなる飛躍を遂げるためには、日本国内にとどまらず、海外において同志社教育を実践することも、選択肢の一つとして持つべきであると考えています。日本はもちろん世界各地において、グローバルな視点を有し、それぞれの地域に密着しながら持てる力を発揮して、さまざまな課題解決や新たな価値創造に貢献することのできる、次代に求められる“一国の良心ともいうべき人物”を輩出し続けていきたいと考えています。

法人の概要

教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、現在では、同志社大学、同志社女子大学のほか、4つの高等学校、4つの中学校、小学校、国際学院、幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約43,000名、教職員は約1,740名となっています。また37万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大学設立の旨意」の中で次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂る良心を手腕に運用するの人物を出さん事を勉めたりき」(*)

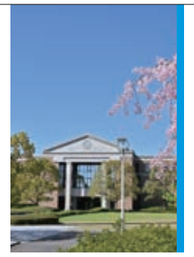
新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して学生・生徒が、型にはまらず独立心と才能あふれる倜儻不羈(てきとうふき)なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良心」となることを究極の目的としました。

同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義(リベラルアーツ)、国際主義を教育の重要な柱としています。また、学生・生徒の個性や自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成を目指します。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の精神が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(*)「同志社大学設立の旨意」『新島襄全集』より

法人内各学校

理事会
監事
評議員会
会計監査人



同志社大学 Doshisha University

学　部……神学部／文学部／社会学部／法学部／経済学部／商学部／政策学部／文化情報学部／理工学部／生命医科学部／スポーツ健康科学部／心理学部／グローバル・コミュニケーション学部／グローバル地域文化学部
大学院……神学研究科／文学研究科／社会学研究科／法学研究科／経済学研究科／商学研究科／総合政策科学研究科／文化情報学研究科／理工学研究科／生命医科学研究科／スポーツ健康科学研究科／心理学研究科／グローバル・スタディーズ研究科／脳科学研究科／ビジネス研究科(修士課程)
専門職大学院……司法研究科(法科大学院)／ビジネス研究科(ビジネススクール)



同志社女子大学 Doshisha Women's College of Liberal Arts

学　部……学芸学部／現代社会学部／薬学部／看護学部／表象文化学部／生活科学部
専攻科……音楽専攻科
大学院……文学研究科／国際社会システム研究科／薬学研究科／看護学研究科／生活科学研究科



同志社中学校・高等学校 Doshisha Junior and Senior High School



同志社香里中学校・高等学校 Doshisha Kori Junior and Senior High School



同志社女子中学校・高等学校 Doshisha Girls' Junior and Senior High School



同志社国際中学校・高等学校 Doshisha International Junior and Senior High School



同志社小学校 Doshisha Elementary School



同志社国際学院初等部・国際部
Doshisha International Academy Elementary School and International School



同志社幼稚園 Doshisha Kindergarten

(2026年4月現在)

理事・監事・評議員・会計監査人

理 事

【総長・理事長】 八田 英二
【大学長】 小原 克博
【女子大学長】 川崎 清史
【学校長等互選】 阪田 真己子　瀧 英次
【評議員互選】 新 茂之　木原 活信　南野 紫乃*　中村 友二*　西山 啓一　山川 寛之*　山下 智子
【学識経験者】 井上 礼之*　田端 信廣*　吉岡 康博

*学外者である理事

監事

大井 成夫　山下 泰生　百合野 正博

評議員

【議長】 宿久 洋
【教職員互選】 新 茂之　長谷川 健介　平田 有喜宏　本田 学　稲見 亨　加藤 憲　加藤 未知　木原 活信　松浦 純子　三宅 威仁　中嶋 政仁　沼田 和也　土屋 隆生　宿久 洋　山下 智子
【校友会選定】 船越 照平　長谷川 正治　井上 幸男　伊藤 範久　河内 一友　久保 行央　中村 友二　柴田 茂樹　大日 常男　山口 悟郎　山川 寛之
【同窓会選定】 南野 紫乃　志垣 のぞみ　小笹 由美子　余田 由香利
【理事会選定】 饗庭 一慶　北尾 哲郎　宮庄 哲夫　西山 啓一　高田 啓史　山田 美代子　吉田 進

(2026年4月1日現在)

会計監査人

有限責任監査法人トーマツ

責任限定契約、役員賠償責任保険について

■責任限定契約

私立学校法に従い、2020年4月1日から責任限定契約を締結しています。

1.対象役員の氏名(2026年4月1日現在の役員)

非業務執行理事(井上 礼之、南野 紫乃、中村 友二、西山 啓一、山川 寛之)、監事(大井 成夫、山下 泰生、百合野 正博)

2.契約内容の概要

理事又は監事が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金10万円以上であらかじめ定めた額と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結する。

■役員賠償責任保険制度への加入

私立学校法に従い、理事会決議により2020年4月1日から会社役員賠償責任保険に加入しています。

1.契約者
学校法人同志社

2.被保険者
個人被保険者 … 理事・監事等

3.補償内容
(1)役員(個人被保険者)に関する補償
法律上の損害賠償金、争訟費用等
(2)記名法人に関する補償
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

4.支払い対象とならない主な場合
法律違反に起因する対象事由等

5.保険期間中総支払限度額
5億円

一般事業主行動計画について

学校法人同志社では、次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を定めています。一般事業主行動計画では、所定外労働時間の削減、職業生活と家庭生活の両立支援制度を利用しやすい職場環境の整備、育児休業等の取得率及び管理職に占める女性労働者の割合の目標設定を行っています。2025年度は、労働者の各月ごとの平均残業時間数は23.8時間(目標30時間未満)、管理職に占める女性労働者の割合は15.3%(目標25%以上)、男性の育児休業の取得割合は42%(目標30%以上)、女性の育児休業の取得割合は75%(目標80%以上)になりました。

◆法人の取り組み

同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー　～創造の丘から世界へ～

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の「令和7年度次世代科学技術チャレンジプログラム（小中型）」に「同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー～創造の丘から世界へ～（期間2025年8月～2030年3月）」が採択された。

本プログラムは、同志社と伝統産業や最先端技術に関係する多数の企業が連携し、大学生・大学院生メンターによるカスケード型メンタリングを通して、「尖った研究者のタマゴ」を育成する取り組みを進めている。

1年目の事業は2025年9月より受講生募集を開始し、開校式を2025年10月11日（土）14:00から京田辺キャンパスローム記念館劇場空間で第一段階（スタンダードレベル）に応募された小学5年生から中学3年生まで43名の受講生が参加し、実施した。受講生は11月上旬から連携企業を2社訪問し、レポート作成と発表会に向けたプレゼンテーション資料作成に取り組んだ。

研究成果発表会は2026年3月7日（土）、14日（土）の二日間で発表する受講生を分けて実施した。会場には、連携企業関係者を招き、一般聴講者にも来場いただき、小中学生とは思えない研究成果プレゼンテーションが行われた。各回発表終了後には連携企業の方、協力教員から講評が述べられた。

2026年度からは第二段階（エキスパートレベル）もスタートし、研究成果発表会結果、企業訪問時のレポート等で選抜された14名が興味を持った研究課題を設定し、その研究課題の専門研究を行う協力教員とその研究科に属する大学生、大学院生から指導を受け、自分の研究課題に沿った研究、実験を行う予定である。

2026年9月に研究報告会を行い、優秀者は同年10月24・25日に東京・TOC有明Convention Hallで開催される国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）主催のサイエンスカンファレンスでの発表を行う。

2027年2月には第一段階、第二段階全ての受講生による研究成果発表会を予定している。








同志社一貫教育探求センター　教職員の自主的な研究会

同志社一貫教育探求センターでは、同志社法人内各学校の教職員がそれぞれ自主的に取り組んでいる教育に関する活動を一層促進することができるよう支援することで、各学校間における教育内容の相互理解、根幹部分の共通化等を促進することを目的として、「教職員の自主的な研究会」への支援をしています。

2025年度は以下の8つの研究会が活動しました。（後ろの数字は活動年度です。）

- Wild Rover Project（2019-2025）
- 同志社数学・算数教育研究会（2019-2025）
- 同志社フロントライン教育研究会（2019-2025）
- 同志社英語教育研究会（2020-2025）
- 七五三太（Shimeta）の会（2021-2025）
- 同志社宇宙教育研究会（2023-2025）
- 子どもの心が動く授業づくり研究会―実践と対話から生まれる創造的な授業構想―（2025-2027）
- music beyond project　（2025-2027）

成果物としてはWild Rover Projectの「同志社カルテット（カードゲーム）」、七五三太の会の「YouTube版『新島襄物語』」が報告され、他の研究会からは活動報告がなされました。

「子どもの心が動く授業づくり研究会―実践と対話から生まれる創造的な授業構想―」と「music beyond project」以外は本年度が最後の活動となりました。

YouTube版『新島襄物語』
①『新島襄物語』の各エピソードのサムネイルを作成し、4月より順次公開
②「The Purpose of Establishing Doshisha, Children Version」を公開
③『新島襄物語』番外編を企画・作成









内部統制システムにおける体制整備及び運用状況

①理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

理事会及び評議員会の議事録その他、理事の職務執行に係る重要な情報については、学校法人同志社寄附行為及び関係規則に基づき、所定の手続により作成・保存・管理しています。

理事会・評議員会は、改正私立学校法及び改正寄附行為に基づき適正に運営されており、理事長及び常務理事の職務執行状況については、原則として3か月ごとに理事会へ報告されており、監督機能の実効性確保に資するものとなっています。また、会議資料の配付、招集通知、出欠確認等については電子的手法を活用し、迅速かつ確実な情報共有を行っています。

②損失の危険の管理に関する規程その他の体制

法人運営に伴う各種リスクについては、「同志社リスク管理本部規程」等に基づき、法人全体及び各学校においてリスク管理体制を整備しています。

リスク管理連絡会を定期的に開催し、リスクの評価及び対応方針の共有を行っているほか、経営に重大な影響を及ぼすおそれのあるリスクについては、理事会において審議し、対応方針を決定することとしています。

また、個人情報保護については同志社個人情報保護規程に基づき体制を整備し、緊急時には同志社緊急対策本部規程に基づき、迅速に対応できる体制を構築しています。

③理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

理事会は、同志社理事会運営規則に基づき、定例及び必要に応じた臨時理事会を開催し、法人運営に関する重要事項について審議・決定を行っています。

各理事の職務分担及び権限については、同志社職務権限規程、理事長の決裁権限委任に関する規程等に基づき明確化され、迅速かつ効率的な意思決定が行われています。

また、あらかじめ年間の会議日程を理事・評議員・監事に周知し、十分な準備期間を確保することで、円滑な会議運営に努めています。

④職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

職員の職務執行については、同志社コンプライアンス指針及び関係規程に基づき、法令及び寄附行為の遵守を徹底する体制を整備しています。

教職員を対象としたハラスメント防止研修、研究倫理・コンプライアンス研修等を計画的に実施し、組織全体としてのコンプライアンス意識の醸成を図っています。

また、公益通報等に関する規程に基づき、法人内外に通報窓口を設置し、不正行為等を早期に把握・是正する体制を構築し、その実効性の確保に努めています。

⑤監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

監事は、同志社監事監査規程に基づき、理事会及び評議員会に出席し、理事の職務執行及び法人の業務・財産の状況について監査を行っています。

理事長と監事との間では定期的な意見交換の機会を設け、内部統制システムの運用状況等について情報共有を行っています。

また、監事が独立した立場で職務を遂行できるよう、必要な資料の提供や監査に要する費用の負担等、監査環境の整備を行い、監事監査の実効性確保に努めています。

学校法人同志社中期計画（2026年度～2030年度）

少子高齢化やグローバル化が急速に進行し、また、大学入学定員管理のさらなる厳格化が求められるなど私学を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。変化する時代の要請、社会的ニーズに応えるために、学校法人同志社は持てる力を結集し、建学の精神に基づく魅力ある学園づくりに邁進していかなければなりません。

同志社設立の目的と使命を果たすために、また、学内外の環境の変化の予測に基づき安定した経営を行うために、本法人は2026年度～2030年度までの中期計画を作成し、ホームページに公開いたしました（https://www.doshisha.ed.jp/works/index.html）。

本法人は、今後とも法人内各学校の自主性・自立性を尊重し、それぞれの将来構想、将来計画の実現のために、学園としての調和を図りつつ、総合学園としてのさらなる発展と、夢と希望に溢れる学園環境の整備を目指します。

安全管理体制の見直しについて

同志社国際高等学校の沖縄研修旅行中に海難事故が発生しました。沖縄研修旅行の実施プロセスにおける事実関係の解明、原因分析等を目的とする特別調査委員会を設置しました。適切な安全管理が実施できていなかったことを真摯に受け止め、これらの調査結果はじめ、様々な観点から、再発防止策を制定し、園児、児童、生徒、学生が安心して学べる教育環境の充実に取り組んで参ります。

学校法人同志社
創立150周年記念事業について

2025年に同志社は創立150周年の節目を迎えました。
学校法人同志社は三つの大きな意義を持ち、記念事業を展開してまいりました。
一つ目は、150年にわたって積み重ねられてきた歴史を正確に把握し、後世に伝えること。
二つ目は、建学の精神、教育理念を念頭に、同志社教育の現況を過去に照らし合わせて検証すること。
そして、三つ目はかつて勝海舟に問われた新島が
「同志社教育の理想の実現には200年の歳月が必要」と答えているように、
同志社教育の理想の実現とされる創立200周年（2075年）に向けて、
創立150周年を機に学生・生徒・児童・園児、卒業生、教職員が
一丸となって新たな歩みを強力に進めることです。
本特集では、『良心教育の浸透と拡散・発展』、
『同志社の繋がりの輪の強化・拡大』をテーマに
2021年度から実施された様々な記念事業を振り返ります。

※すべての事業は同志社創立150周年記念ホームページで詳細をご覧いただけます。
※肩書を含めた内容は、すべて当時のものとなります。
※二次元バーコードがある事業については、動画をご覧いただけます。

法人事務部　創立150周年記念事業事務室

同志社創立150周年記念アニメーション「二百年の夢を見た。」

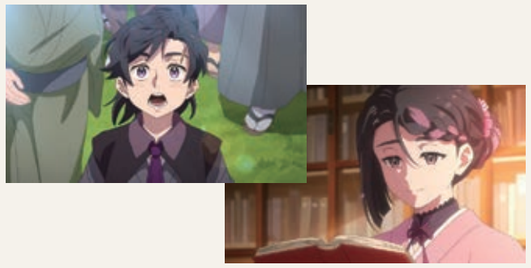
2025年11月完成

新島 襄は幕末、命がけで自由を求めてアメリカに渡りました。幸いにもかの地では、多くの善意の方々の支援を得て三つの学校で民主的で先進的な教育を受けることができました。留学中、新島は日本が近代国家となるためには自治、自由や良心の充満した人物を育成するための教育が不可欠であると考えて、日本に帰国するや、アメリカ流の学校を日本に移植することに尽力し、日本初の私立大学の設立に挑みました。

結果として、大学設立という彼の志と夢は存命中には叶いませんでした。しかし、その夢は現在の同志社に学ぶ学生や卒業生、教職員にも脈々と受け継がれています。

私たちは彼のような先駆者がいたことを学園内外のより多くの人に広く、深く知っていただきたいと願い、約10分3章立てのアニメーション『二百年の夢を見た。』を制作しました。





同志社創立150周年記念式・献茶式

日程:2025年11月29日（土）
場所:国立京都国際会館

まず、千 宗室氏（裏千家第16代家元／1980年大学文学部卒業）による献茶式、その後、記念式を挙行いたしました。第一部では、賛美歌『主の道を行こう』、聖書朗読ならびに祈祷、「同志社設立の始末」朗読、式辞／挨拶／祝辞、祝祷などを行いました。第二部では、新島 襄に関するアニメーションに出演の声優（新島 襄役:小林 親弘さん、新島 八重役:上田 瞳さん（大学政策学部卒業）、福士 卯之吉役:池田 雄介さん（大学文化情報学部4年次生）、加納 格太郎役:橋本 剛さん（大学文学部4年次生））の挨拶&第1部上映、そして、八田 英二総長・理事長による講演「創立200周年に向けてのメッセージ」と小原 克博大学長による講演「同志社150年の歴史と精神を語り継ぐ」を実施いたしました。約1,600名の皆様に参列いただきました。




八田 英二総長・理事長の式辞


千 宗室氏による献茶


同志社学生混声合唱団C.C.D.、同志社内中高聖歌隊による合唱

同志社創立150周年記念祝賀会

日程:2025年11月29日（土）　場所:ザ・プリンス京都宝ヶ池

香里中学校・高等学校ダンス部によるダンスパフォーマンスで華やかに同志社創立150周年記念祝賀会の幕が開きました。八田 英二総長・理事長による挨拶の後、テュービンゲン大学のカルラ・ポルマン学長とダイキン工業株式会社の井上 礼之名誉会長（1957年大学経済学部卒業）にご祝辞をいただきました。続いて、来賓紹介の後、和田 喜彦大学キリスト教文化センター所長による食前の祈祷、野田 遊小学校校長による乾杯により祝宴が始まりました。会場では楽しく歓談をする姿があちらこちらで見られ、会場は熱気に包まれました。最後に、大学應援團による演舞が披露され、次に瀧 英次香里中学校・高等学校校長（学校法人同志社常務理事）から謝辞を述べて、賑やかな祝賀会が幕を閉じました。来賓や同志社教職員（退職者を含む）約1,000名の参加がありました。





『同志社百五十年史』編纂

『同志社百五十年史』（全3巻）の編纂に取り組んでおり、同志社創立150周年の記念日にあたる2025年11月29日に最初の巻となる「各学校と関連団体」を刊行しました。

「各学校と関連団体」は、現在ある同志社の各学校や関連団体の概要、沿革、現況などを記したものです。

引き続き「通史I」「通史II」の編纂に取り組んでおり、2028年3月までに順次刊行する予定です。


同志社百五十年史第1巻

学校法人同志社 創立150周年記念事業について

良心教育の浸透と拡散・発展

同志社未来創造プロジェクトメンバー

同志社創立150周年記念事業は卒業生や在校生、教職員の意見やアイデアを集めて行うという方針であり、同志社内各学校の教職員からプロジェクトメンバーを毎年募ることになりました。自主的に応募してくれた15~20名のプロジェクトメンバーから寄せられた意見を検討し、企画・立案をして実行に移していきました。また、毎年夏にメンバーによるワークショップを行い、同志社創立150周年記念式で配布する冊子(The Next Doshisha)の内容について議論を行いました。


ワークショップの様子

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2021

日程:2021年11月29日(月)
場所:大学 今出川校地
寒梅館ハーディーホール

Doshisha New Day(DND)とは「同志社の未来をつくるための特別な1日」です。2024年までの毎年11月29日に開催しました。2021年度は、同志社創立150周年記念ロゴマークの発表と考案者 松井 美野さん(同志社中学校2年生)の表彰、本井 康博氏(元大学神学部教授)によるミニ講義「志を継ぐ―新島襄の同志《小新島》たらん―」、香里高等学校ダンス部によるパフォーマンス(映像紹介)がありました。Zoomウェビナーによるライブ配信で実施し、視聴者総数は約300名でした。


同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2021

同志社・新島かるた

2022年7月完成

国際学院初等部6年生が描いた絵をもとに大学漫画研究会の学生がリライトし、かるたの絵札を制作しました。子どもたちが、遊びを通じて同志社や新島 襄に親しみを持つことができることを願っています。同志社生協や同志社エンタープライズのオンラインショップなどで販売しました。(現在販売終了)


同志社・新島かるた

「新島襄寄港の地碑」建立30周年記念イベント in 風間浦村

〈風間浦村共催〉

日程:2022年10月30日(日)
場所:風間浦村立風間浦中学校 体育館

1864年新島 襄は、洋式帆船「快風丸」で江戸から函館に航海中、北風と激しい潮流を避けるため、現在の青森県風間浦村に寄港しました。1992年、風間浦村が新島 襄とのふれあいを永世に残し、後世に語り継ぐために「新島襄寄港の地碑」を建立してから30周年を迎えたことを記念してイベントを開催し、約100名の参加がありました。記念式典に続いて、本井 康博氏(元大学神学部教授)による講演「風間浦からの出発―ルビコン川を渡る新島襄―」、伊藤 誠氏(シンガーソングライター/1976年大学商学部卒業)によるミニコンサートがありました。

同志社人による写真&メッセージ企画

2022年11月公開

同志社の良心教育をアピールするために、『あなたにとっての良心とは』をテーマに、同志社の各学校の学生・生徒・児童・園児、卒業生、教職員からコメントいただき、同志社創立150周年記念ホームページの特設ページに掲載しました。習字や漫画、写真などで、表現した方もおられます。約200名の同志社人のメッセージをご覧ください。


同志社人による写真&メッセージ企画

同志社オリジナル賛美歌

2022年11月、園児から学生、卒業生までが一緒に歌うことができる同志社独自の賛美歌を制作しました。歌詞は公募を行い、応募のあった69作品から堀之内 涼さん(大学商学部2年次生)の作品が選ばれ、成田 和子教授(女子大学学芸学部)が作曲しました。

同志社手話

〈大学 学生支援センターSDA室協力〉

2022年11月完成

これまで、式典や重要な行事などの中で使われている「新島襄」「良心教育」「個儘不羈(てきとうふき)」にあたる統一された手話がありませんでした。この度、卒業生の協力を得て、新島 襄並びに新島の思いを表現するこの3つの言葉について手話を作成しました。


同志社手話

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2022

日程:2022年11月29日(火)
場所:大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

2022年度は、千 玄室氏(裏千家15代・前家元/1946年大学法経学部卒業)による講演「同志社の想い出」、同志社オリジナル賛美歌の発表と考案者 堀之内 涼さん(大学商学部2年次生)の表彰があり、約175名の来場者とオンライン参加がありました。


千 玄室氏

同志社紹介PV「One Purpose 志を同じくする者たち」制作

2023年5月完成

園児から学生まで総勢300名を超える皆さんにご協力いただきました。完成したPVは同志社創立150周年記念事業公式YouTubeで確認でき、同志社の雰囲気を感じていただけるものとなっています。


同志社紹介PV「One Purpose志を同じくする者たち」

VRキャンパス(大学今出川キャンパス)

〈学生団体「同志社バーチャルキャンパスプロジェクトD-verse」協力〉

2023年7月完成


VRキャンパス(大学今出川キャンパス)

大学今出川キャンパスをバーチャル空間で再現し、学生のみならず、OB・OGや教職員も自身が通ったキャンパスをバーチャル空間で体験できるようなシステムを構築しました。

同志社創立150周年記念講演会 in 会津若松市2023

日程:2023年9月23日(土)
場所:福島県立博物館 講堂

学校法人同志社は会津若松市との間で連携協力に関する包括協定を2012年に締結しました。2023年度より、毎年9月に行われる会津まつりにおいて同志社創立150周年記念講演会を開催し、2023年度は、山下 智子教授(女子大学現代社会学部)による講演「新島八重さんの贈り物―心の和きものその人は地を嗣かむ―」を実施しました。約60名が参加しました。


山下 智子教授

同志社ウエディング

〈NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク協賛、同志社エンタープライズ、LST WEDDING、TAKAMI BRIDAL協力〉

日程:2023年9月・11月
場所:大学 今出川校地 クラーク記念館

コロナ禍やその他様々な理由で結婚式を挙げられなかった方や同志社ウエディングへの強い気持ちをお持ちの方を対象に公募し、27組の応募があり、4組を無償で招待しました。司式は森田 喜基准教授(大学キリスト教文化センター)により執り行われ、恩師の列席や恩師からの色紙のプレゼントなどのサプライズがありました。


同志社ウエディング

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2023

日程:2023年11月29日(水)
場所:大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

2023年度は、朝原 宣治氏(北京オリンピック銀メダリスト/大学スポーツ医科学研究センター客員教授/2009年大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了)と田中 希実氏(陸上競技選手/2022年大学スポーツ健康科学部卒業)による対談、大学應援團による演舞が披露されました。


朝原 宣治氏、田中 希実氏

同志社大学設立の旨意(抜粋)の多言語化(英語、中国語、韓国語)

2024年2月完成

1888年、新島 襄は20をこえる新聞、雑誌に「同志社大学設立の旨意」を公表して大学設立への協力をよびかけました。前半で同志社諸学校開設に至る経緯をかたり、後半で今なぜその上に大学が必要なのか、いかなる大学であるべきかを論じた名文です。この度、設立の旨意(抜粋)を英語、中国語、韓国語に翻訳し、ホームページにて公表しました。また、子ども版(日・英)と合わせてご覧いただけます。


同志社大学設立の旨意

2023年度テレビCMコンテスト最優秀賞作品をKBS京都で放映

日程:2024年4月8日(月)~4月20日(土)

2023年度に開催した「法人内各学校の学生、生徒、児童を対象としたテレビCMコンテスト」の最優秀賞作品(同志社大学生制作)をKBS京都にて放映しました。


2023年度テレビCMコンテスト最優秀賞作品をKBS京都で放映

安中・同志社新島講演会2024〈安中市共催〉

日程:2024年6月22日(土)
場所:新島学園中学校・高等学校 礼拝堂

学校法人同志社は群馬県安中市との間で包括連携協定を2023年に締結しました。新島学園中学校・高等学校聖歌隊によるミニコンサートと百合野 正博大学名誉教授による講演「新島襄が私学同志社を設立した重要な意味~グレイス教会で頭の中を駆け巡ったこと~」と本井 康博氏(元大学神学部教授)による講演「安中市と同志社~交流150年のその先へ~」を行いました。約200名の参加がありました。


本井 康博氏

同志社創立150周年記念講演会 in 会津若松市2024

日程:2024年9月21日(土)
場所:会津若松市文化センター

吉海 直人女子大学名誉教授による講演「八重が結んだ会津若松と同志社」を実施し、92名の参加がありました。講演前には、会津若松市の高校生を対象としたバスツアーを実施し、新島 八重ゆかりの地を巡りました。


吉海 直人女子大学名誉教授

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2024

日程:2024年11月29日(金)
場所:大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

2024年度は、坊垣 佳奈氏(株式会社マクアケ共同創業者/取締役/2006年大学文学部卒業)による講演『「多様性」と「個」の時代に、アタラシイ感覚で、人生を豊かに生きる~ Makuakeの最新事例とそのヒットの秘密もご紹介します~』、大学能楽部観世会、女子大学おどり・京炎そでふれ「花風姿(はなふうし)」によるパフォーマンスがありました。

会場参加者数113名、YouTubeライブ配信時の視聴者数は99名、計212名の参加がありました。


女子大学おどり・京炎そでふれ「花風姿」

同志社墓地山道整備

2025年1月完成

若王子山頂にある同志社墓地への山道には、歩行者を助けるためにコンクリートの土台が設置されている個所もありましたが、多くは未整備の状態でした。歩行者が安全に、かつ歩きやすいように、同志社創立150周年記念事業の一環で山道の整備工事を行いました。


同志社墓地山道整備

『ふくしまサクラ』の植樹

日程:2025年1月17日(金)
場所:同志社墓地前広場等

学校法人同志社は福島県および会津若松市と福島復興のための包括連携協定を締結しています。同志社墓地への山道整備を記念して、小学校6年生90名がふくしまサクラ『はるか』の苗木を同志社墓地前の広場とその山道に植樹しました。


ふくしまサクラの植樹

学校法人同志社 創立150周年記念事業について

学校法人同志社創立150周年記念講演会『同志社と早稲田』〈大学体育会硬式野球部共催〉

日程:2025年3月22日(土)
場所:大学 今出川校地 良心館地下2番教室

同志社創立者の新島 襄と早稲田大学創立者の大隈 重信の交流は知られていますが、両校の交流はそれに限られません。「新島精神」を受け継ぎ、同志社英学校卒業後に早稲田大学の前身である東京専門学校に奉職した二人、一人はキリスト教社会主義者であり学生野球の父といわれる安部 磯雄ともう一人は哲学者で早稲田文学の基礎を築いた大西 祝の功績を振り返り、両大学と両野球部の将来を考察するために望月 詩史教授(大学法学部)による講演「同志社と早稲田をつなぐ人々とその精神」を開催しました。


望月 詩史教授

新作能「庭上梅」の上演〈同志社紫謡会共催〉

日程:2025年4月19日(土)
場所:女子大学、女子中学校・高等学校 栄光館

大学能楽部観世会創部100年と同志社創立150周年を記念し、創立者新島 襄を主人公とした新作能「庭上梅」を上演しました。上演前には、大学能楽部金剛会に学生時代所属されていた澤田 瞳子氏(作家/2002年大学大学院文学研究科博士前期課程修了)による講演『「庭上梅」をめぐって』を行いました。当日は天候にも恵まれ、450名の一般観客と100名の本学学生の来場があり、能の最後(キリ)の部分では、客席の学生、卒部者も共に謡に参加しての大連吟となりました。


新作能「庭上梅」の上演

同志社創立150周年記念シンポジウム『同志社・慶應・早稲田が考える教育の未来〜私学の役割と人材育成〜』

〈朝日新聞社主催、学校法人同志社共催〉
日程:2025年5月17日(土)
会場:大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

伊藤 公平塾長(学校法人慶應義塾)、田中 愛治総長(学校法人早稲田大学)及び八田 英二総長・理事長による講演とパネルディスカッションを行いました。

多様な視点から現代教育の課題や未来への展望が語られ、私学の根幹をなす建学の精神を再確認するとともに、今後の私学教育の在り方や人材育成のあり方について語り合いました。未来の教育環境や社会における役割について、それぞれの教育アプローチから特徴的な視点を示しました。


同志社創立150周年記念シンポジウム

同志社創立150周年記念講演会 in 函館

〈函館市、同志社校友会函館クラブ後援〉
日程:2025年6月14日(土)
場所:函館市民会館 小ホール

新島 襄が21歳の1864年に日本を脱国した函館において記念講演を行いました。八田 英二総長・理事長による講演「同志社の志を継ぐ〜良心教育と社会へのメッセージ〜」に加えて、保阪 正康氏(ノンフィクション作家・評論家/1963年大学文学部卒業)による講演「近現代史における同志社人脈を見つめて」を実施いたしました。当日は9時10分から、新島と関係の深い函館千歳教会において記念礼拝を行い、11時から「同志社創立者新島襄海外渡航の地」碑前祭を開催しました。


保阪 正康氏

同志社創立150周年記念講演会 in 札幌

〈同志社校友会北海道支部共催〉
日程:2025年6月15 日(日)
場所:ホテルポールスター札幌

北海道大学混声合唱団と北海道大学合唱団と同志社グリークラブによる演奏と、横田 篤氏(国立大学法人北海道大学理事・副学長)による講演「北海道大学のサステイナビリティ追求の歴史と現在地」、小枝 弘和氏(大学同志社社史資料センター社史資料調査員)による講演「William Smith Clarkと新島襄—両者が紡いだ北海道と京都の縁」を実施いたしました。


同志社創立150周年記念講演会in札幌

安中・同志社新島講演会2025〈安中市共催〉

日程:2025年7月12日(土)
場所:新島学園中学校・高等学校 礼拝堂

新島学園中学校・高等学校聖歌隊によるミニコンサートと山下 智子教授(女子大学現代社会学部)による講演「新島襄と安中、そして同志社—平和の使徒、150年の志と希望—」と中西 哲生氏(元プロサッカー選手/スポーツジャーナリスト/パーソナルコーチ/1992年大学経済学部卒業)による講演「新しい未来新しい自分」を実施いたしました。


中西 哲生氏

創立150周年記念講演会 in 会津若松2025

日程:2025年9月21日(日)
場所:会津若松市文化センター

学校法人梅花学園学園長であり、前女子大学学長の小崎 眞氏が「目に見えない賜物に誘われて〜新島八重と井深八重から引き継ぐもの〜」というテーマで講演を行いました。講演では、会津まつりの精神と同志社創立150周年の歩みに通じる姿勢が紹介されました。


小崎 眞氏

同志社創立150周年記念講演会 in 横浜

〈同志社校友会神奈川県支部共催〉
日程:2025年11月22日(土)
場所:横浜市崎陽軒本店 第1・2会議室

澤田 瞳子氏(作家/2002年大学大学院文学研究科博士前期課程修了)による講演「京都で小説を書くこと」と、森田 喜基准教授(大学キリスト教文化センター)による講演「同志社は、なぜ京都に創立されたのか」を行いました。


澤田 瞳子氏

熊本バンド結盟150周年記念特別講演会

日程:2026年3月20日(金)
場所:日本基督教団　熊本草葉町教会

熊本バンドの一人、小崎 弘道の末裔である小崎 眞氏(学校法人梅花学園学園長/前女子大学学長)による「「組合教会」「スピリチュアル・ユニヨン(ユニオン)」「信仰『協働態』」〜小崎弘道と新島襄のキリスト教(教会・聖書・神学)理解を巡り〜」と、岩井 善太氏(熊本大学名誉教授/元熊本県立技術短期大学校校長/熊本草葉町教会会員)による講演「熊本バンドと熊本洋学校—ジェーンズの貢献—」を実施しました。


小崎 眞氏

京都新聞広告・冊子及び公式サイトPR特集によるPR

京都新聞では文化、経済、宗教、教育など様々な分野の“日本人のこころ”がいまなお残る京都から、「日本人の忘れもの」を取り戻すキャンペーンを展開しています。この企画を通じ、以下の内容で同志社創立150周年事業や同志社の建学の精神について広く情報発信を行いました。

① 京都新聞別冊20頁特集紙面での企業・団体代表者の年始メッセージ掲載及び賛同企業掲載(2025年元旦)
②『未来との約束2025』〜京都の未来企業・団体〜:経済面特設枠に1回掲載(2025年11月6日)
③ 中学生向け冊子『京都の未来企業・団体2026』(京都府内の公立中学2年生を対象として各学校の送付)
④ 京都新聞公式サイトPR特集のページに『京都の未来企業・団体』公開

同志社人インタビュー

同志社内各学校の大学生、高校生がペアとなり、同志社の卒業生にインタビューを行います。数珠繋ぎで次にインタビューをする方を前の方からご紹介いただくことになっています。これまで17名の方にインタビューにご協力いただきました。写真は、第9回の川尾 朋子氏(書家/2000年女子大学生活科学部卒業)へのインタビューの様子です。


川尾 朋子氏

同志社の繋がりの輪の強化・拡大

同志社創立150周年記念ロゴマーク決定

日程:2021年11月29日(月)

150年の歴史と伝統、さらに200年の大計を目指す同志社の姿を広く社会に発信するため、創立150周年記念のロゴマークを公募しました。応募者337名、応募作品496件の中から、厳正な審査の結果、松井 美野さん(同志社中学校2年生)の作品が選ばれ、2021年11月29日に開催された創立150周年記念イベントDoshisha New Day において、ロゴマークの発表と表彰を行いました。


松井 美野さん、八田 英二総長・理事長

The Doshisha ロゴマーク

安中市と連携協定締結(記念講演と地元中学生対象の陸上教室)

日程:2023年7月17日(月)
場所:群馬県安中市役所、新島学園グラウンド

創立者の新島 襄が文化教育の領域で深い影響を及ぼしてきた群馬県安中市とのさらなる連携の促進に向けて包括連携協定を締結しました。同日午後には協定締結記念として本井 康博氏(元大学神学部教授)と北京オリンピック男子4×100mリレー銀メダリストの朝原 宣治氏(2009年大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了)による講演を実施、また朝原氏のスポーツイベント(陸上教室)を開催しました。以降毎年、安中市で安中・同志社 新島講演会を学校法人新島学園の共催で開催しています。


朝原 宣治氏によるスポーツイベント

同志社内の中学・高校生対象お菓子作り教室

〈同志社同窓会協賛〉
日程:2023年8月8日(火)
場所:女子中学校・高等学校 希望館地下1階 調理教室

同志社内の中学・高校生を対象にお菓子作り教室を開催しました。京都の洋菓子店「マールブランシュ」からパティシエの方をお招きし、お菓子作りを教えていただけるという贅沢な一日になりました。108名の応募があり抽選の結果40名が参加しました。


同志社内の中学・高校生対象お菓子作り教室

同志社オリジナル賛美歌PV

2023年9月完成

同志社オリジナル賛美歌のPVを撮影いたしました。
作詞:堀之内 涼さん(大学商学部2年次生)
作曲:成田 和子教授(女子大学学芸学部)
奏楽:佐川 淳教諭(中学校・高等学校/パイプオルガン)
合唱:同志社学生聖歌隊、同志社グリークラブ


同志社オリジナル賛美歌PV

「全同志社人がつなぐ150㎞」オリジナルTシャツのデザイン募集

日程:2023年10月

15作品の応募があり、最優秀賞のデザインのTシャツを「全同志社人がつなぐ150㎞」のイベント参加者に配布しました。

最優秀賞:沖津 佑紀さん(女子大学学芸学部1年次生)


オリジナルTシャツ

全同志社人がつなぐ150㎞

〈大学体育会陸上競技部協力〉
日程:2023年11月4日(土)
場所:大学 京田辺校地 陸上競技場

約250名の同志社人が協力して総走行距離150㎞走破を目指しました。1500m走、4×100mリレー、小学生以下対象のかけっこ教室が行われ在校生、卒業生、教職員とその家族が力を合わせて見事目標を達成することができました。実施に際しては、同志社大学体育会陸上競技部の学生100名以上に準備から運営まで協力をいただきました。


参加者全員での集合写真

同志社創立150周年記念トークショー

日程:2023年11月29日(水)
場所:大学 今出川校地 同志社礼拝堂

「卒業後の可能性は無限大!—わたしたちが理系からマスコミへ進んだ理由—」という演題で、桝 太一助教(大学ハリス理化学研究所)、山本 健太氏(日本テレビ放送網株式会社アナウンサー/2014年大学大学院理工学研究科修了)、横田 舞氏(株式会社毎日放送報道情報局報道センター記者/2021年大学大学院理工学研究科修了)の3名が在学生対象のトークショーを開催しました。最後には、参加した学生や生徒からの質問があり、桝助教と二人の先輩が優しく丁寧に答えてくださいました。


同志社創立150周年記念トークショー

法人内各学校の学生、生徒、児童を対象とした同志社創立150周年を盛り上げるアイデアコンテスト〈大学広告研究会add's共催〉

日程:2023年12月9日(土)

38個の応募があり、5個のアイデアを表彰しました。最優秀賞の企画は2024年度に実施しました。

最優秀賞:『同志社オリジナルトイレ用芳香剤の制作』

チーム名「今田辺」髙田 友里子さん(大学文化情報学部2年次生)、西田 楓さん(大学経済学部2年次生)


表彰者の集合写真

学校法人同志社 創立150周年記念事業について

法人内各学校の学生、生徒、児童を対象としたテレビCMコンテスト

日程:2023年12月

21作品の応募があり、最優秀賞の作品は2024年4月にKBS京都で放映しました。

最優秀賞:チーム名「☆ STELLA ☆」西村 領真さん(大学経済学部1年次生)、田谷 駿治さん(大学商学部1年次生)、朝倉 美咲さん(大学商学部大学1年次生)、村元 柚月さん(大学政策学部1年次生)、瓜田 心愉さん(大学心理学部1年次生)

プロジェクション・マッピング

2022年度 日程:2022年11月22日(火)
場所:大学 今出川校地
2023年度 日程:2023年12月12日(火)
場所:中学校・高等学校
日程:2023年12月14日(木)
場所:女子中学校・高等学校

2022年、中学校の生徒がプロジェクション・マッピングを制作し、大学今出川校地の彰栄館、良心館に投影しました。重要文化財である彰栄館には、「同志社の歴史」をテーマにした時代ごとのキャンパスの変遷を描いた作品が、良心館には聖書やイエスキリストの降誕節にちなんだ作品が、それぞれ投影されました。2023年には、中学校の生徒と女子中学校・高等学校の生徒が、クリスマスをテーマにした作品をそれぞれ制作しました。それらの作品は、中学校・高等学校のグレイス・チャペルと女子中学校・高等学校の静和館に、投影されました。


プロジェクション・マッピング(大学 今出川校地 良心館)

カウントダウンボードの除幕式、各学校キャンパスにカウントダウンボードを設置

日程:2024年7月17日(水) 創立150周年記念日の500日前
場所:大学 今出川校地 同志社礼拝堂

学生、教職員が集うチャペル・アワー内で、同志社創立150周年カウントダウンボードの除幕式を行いました。カウントダウンボードは、2025年11月29日の150周年記念日まで同志社内各学校に設置しました。


カウントダウンボードの除幕式

2023年度アイデアコンテスト最優秀賞企画(匂い香作り教室)〈香老舗 松栄堂協力〉

日程:2024年8月24日(土)
場所:国際中学校・高等学校 コミュニケーションセンター クリエイティブゾーン
日程:2024年8月25日(日)
場所:大学 今出川校地 至誠館S32教室

2023年度に開催した「法人内各学校の学生、生徒、児童を対象とした同志社創立150周年を盛り上げるアイデアコンテスト」の最優秀賞企画「匂い香作り教室」を実施しました。香老舗松栄堂協力のもと、同志社内の小学生から大学生までが匂い香作りを体験しました。両日合わせて109名の学生・生徒・児童が参加しました。


匂い香作り教室

新島襄のラットランド・アピール150周年記念ツアー

日　程:2024年10月10日(木)～15日(火)4泊6日
訪問先:グレイス教会、フィリップスアカデミー、アーモスト大学、オールドサウスチャーチ、ハーディー旧邸、コングリゲーショナルハウスなど

アメリカのアーモスト大学やフィリップスアカデミー等を巡るツアーを実施しました。新島が日本でキリスト教主義の学校を設立するための寄付を参加者にむけて訴えかけたラットランド・アピールから150周年にあたり、ヴァーモント州ラットランドのグレイス教会において10月13日に記念礼拝を執り行いました。27名の学生や生徒、卒業生、教職員、その家族が参加しました。


陶板(記念品)とツアー参加者一同

ペットボトル水『最裏級』の同志社創立150周年版ラベル

〈大学広告研究会add's共催〉

2024年11月完成

2010年に販売開始した「最裏級」は大学広告研究会がネーミングしたものですが、同団体からの申し出により創立150周年限定ラベルにデザインを刷新しました。


ペットボトル水『最裏級』の同志社創立150周年版ラベル

全同志社合唱祭

〈創立150周年記念全同志社合唱祭実行委員会共催〉

日程:2024年11月9日(土)
場所:京都コンサートホール 大ホール

同志社内各学校の23の合唱団が参加し、単独・合同併せて15ステージの合唱が繰り広げられました。827名の出演者全員による同志社カレッジソングなどの全体合唱では観客も交え、大迫力の合唱となりました。聴衆は1,288名でした。

*ハリス理化学館同志社ギャラリー第32回企画展として、「合唱の同志社—One Purpose DOSHISHA 合唱が紡ぐ150年 現在～過去～未来—」が2024年9月24日～11月17日まで大学今出川校地 ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室で開催され、来場者は6,161名でした。


全体合唱

「ザ・同志社スパークリングワイン」第一弾と第二弾

第一弾:2022年10月
第二弾:2025年2月

同志社ワインの製造・販売元として知られる丹波ワイン株式会社から、同志社創立150周年記念ラベル「ザ・同志社スパークリングワイン」の第一弾と第二弾が販売されました。(現在販売終了)

第二弾のラベルデザインは、新島 襄アニメーション『二百年の夢を見た。』のキャラクターを追加しました。

売上の一部は同志社大学生の奨学金に充てられます。



「ザ・同志社スパークリングワイン」第二弾

新島旧邸における八重茶会

〈大学茶道部共催、大学同志社社史資料センター協力〉

日程:第1回2024年10月19日(土)
第2回2025年2月22日(土)
第3回2025年6月1日(日)
場所:新島旧邸

大学茶道部との共催により行いました。掛軸には「紫気満」が掛けられました。「紫気」は吉兆の前触れを意味しています。同志社創立150周年の前触れを連想させます。菓子は同志社の徽章をイメージした「三友の集い」が用いられ、同志社人が絆を育むという思いが込められました。また茶会後には大学同志社社史資料センター調査員の案内による新島旧邸見学が行われました。


新島旧邸における八重茶会

新島襄の足跡を辿るアメリカツアー

〈一般財団法人同志社日本文化財団協賛〉

日　程:2025年8月22日(金)～27日(水)4泊6日
訪問先:アーモスト大学、グレイス教会、フィリップスアカデミー、アンドーヴァー、ラットランド、オールドサウスチャーチ、ハーディー旧邸など

同志社の源流を探るためのツアーを本井 康博氏(元大学神学部教授) のガイドで行いました。8月23日(土)にはアーモスト大学ジョンソンチャペルにおける同志社創立150周年記念集会と4名の同志社中学生のスピーチを実施いたしました。24日には、グレイス教会での礼拝と同志社による記念集会を実施いたしました。その後、八田 英二総長・理事長からグレイス教会の皆様に挨拶を行い、続いて同志社高等学校の4名の生徒が英語によるスピーチを行いました。


良心碑とツアー参加者一同

各学校のドローン撮影動画

2025年10月完成

同志社創立150周年の2025年時点の各学校のキャンパスを記録として残すため、ドローン撮影を実施しました。


大学 今出川キャンパス

同志社の恩人　セイヴォリー、ハーディー、デイヴィスを語る会—Remembering W.T.Savory, A.Hardy, J.D.Davis—

〈大学同志社社史資料センター、一般財団法人同志社日米文化財団共催〉

日程:2025年11月28日(金)
場所:大学 今出川校地 アーモスト館

大学同志社社史資料センター第一部門研究(新島研究)では、新島 襄がその生涯において様々な支援を受けた3名の方々のご子息をお招きし、特別研究会を開催しました。40名の参加がありました。

お招きしたのは、ウイリアム・T・セイヴォリー氏5代目子孫のアーサー・プリガム氏、アルフィーアス・ハーディー夫妻6代目子孫のショーン・ハークネス氏、ジェローム・D・デイヴィス先生4代目子孫のエレノア・ラネイ氏です。第一部門研究(新島研究)運営委員の大鉢 忠大学名誉教授がスライドを用いて、3名のゲストとそれぞれのご先祖との関係を紹介し、ゲストからスピーチをいただきました。

同志社創立150周年記念フェスティバル in IWAKURA〈同志社同窓会協賛〉

日程:2025年11月29日(土)
場所:中学校・高等学校

大学、女子大学の学生団体など17団体によるワークショップや、キッチンカーの出店、チャリティーコンサート、桂 笑金氏による落語、佐藤 優氏(作家／大学学長特別顧問(東京担当)／1985年大学大学院神学研究科修了)の講演会等を実施いたしました。晴天にも恵まれ、約2,000名の来場者にお越しいただきました。


佐藤 優氏

ハーディーホール ギター・コンサート

日程:2025年11月30日(日)
場所:大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

ニューヨークでギタリストとして活躍をされているショーン・ハークネス氏(アルフィーアス・ハーディー夫妻6代目子孫)と同志社ギタークラブの協演によるハーディーホール ギター・コンサートを行いました。今回の同志社訪問で、祖先の名前の付いているハーディーホールでの演奏を希望され実現することになりました。約150名の来場者にお越しいただきました。


ハーディーホール ギター・コンサート

同志社創立150周年記念大型ステッカー、横断幕、幟(のぼり)、ミニ幟(のぼり)の設置

設置期間:2024年12月～2025年12月

各学校および同志社と協定を締結している自治体などに横断幕、大学今出川キャンパス、京田辺キャンパスには大型ステッカーを設置しました。また、幟とミニ幟も同志社内各学校や同志社生協等に設置しました。横断幕の設置に協力いただいた自治体は以下のとおりです。
会津若松市、安中市、風間浦村、京田辺市、寝屋川市、函館市、福島県(五十音順)


大学 今出川キャンパスの大型ステッカー

同志社未来創造プロジェクト発行の広報メディア「Road to the 150th」Vol.1～Vol.4 の発行

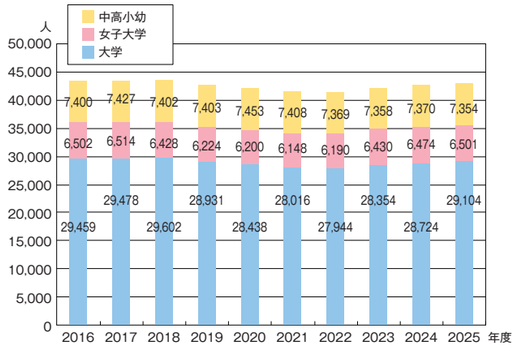
「Road to the 150th」は、同志社創立150周年を記念して企画・実施されるさまざまな事業をピックアップして、皆様にお伝えしていく同志社未来創造プロジェクト発行の広報メディアです。2025年11月29日に迎える150周年という節目を、同志社の建学の理念とともに歩んだ軌跡を振り返り、未来に向けた一歩を踏み出す機会とするべく、同志社とかかわるすべての人が、同志社の過去、現在、未来についてあらためて考えるきっかけとなることを目指して作成しました。

すべての事業は
同志社創立150周年記念ホームページで
詳細をご覧いただけます。

グラフで見る同志社

図1 学生・生徒・児童・園児数

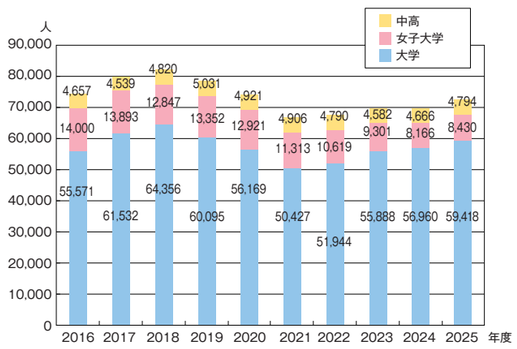
各年度5月1日現在



学生・生徒・児童・園児数は、40,000名を超える規模で安定しています。

図2 志願者数

各年度春学期および前年度秋学期入試の志願者数。大学、女子大学は大学院と学部の合計



志願者数は、2022年度から増加傾向にあり、堅調に推移しています。

図3 教員数

各年度5月1日現在

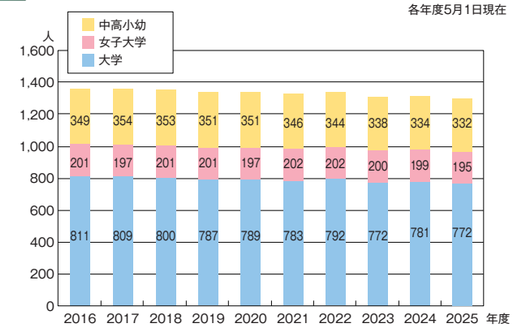
教員数は、専任、嘱託講師とも近年は3,600名規模で推移しています。また職員数については800名規模で推移しています。

図4 職員数

各年度5月1日現在

図5 専任教員数

各年度5月1日現在



専任教員数は、近年、1,300名規模で安定しています。内訳は、大学が最も多く約60%、女子大学が約15%と続き、残りを両大学以外の諸学校で占めています。

図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数

各年度5月1日現在

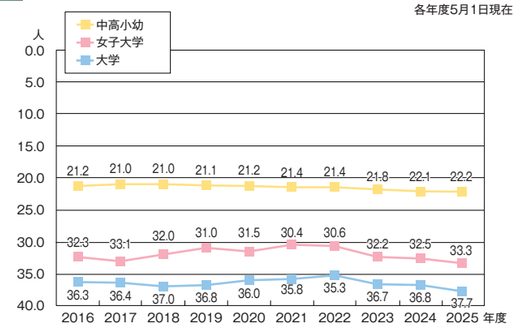
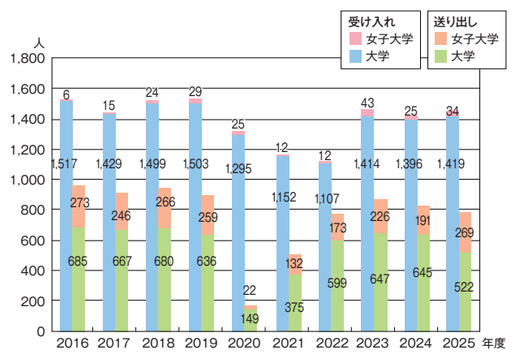


図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っています。

図7 留学生数

各年度5月1日現在。送り出しは年度内に出国した人数



近年、留学生の受け入れは、1,400名規模、送り出しについては北米を中心に大学、女子大学あわせて800名規模で推移していました。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、留学生の受け入れや送り出しが大きく減少しましたが、2023年度から従来の9割程度まで回復しています。

図8 留学生地域別状況

受け入れは5月1日現在。送り出しは年度内に出国した人数
小数点第2位を四捨五入

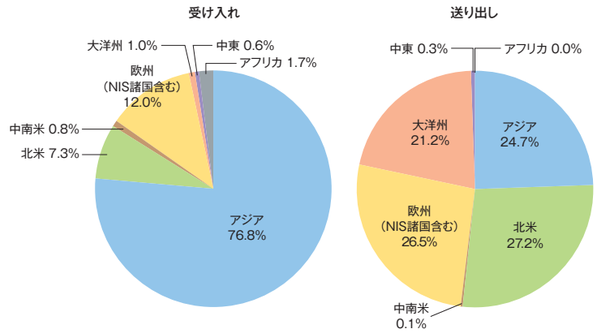


図9 奨学金

学内奨学金及び日本学生支援機構奨学金は堅調に推移しています。2025年度は多子世帯支援拡充により給付・貸与人数は増えています(授業料減免のため給付額には非計上)。支援体制については、給付制度奨学金の充実や募金を通じた奨学金確保等、引き続き学生、生徒等の勉学を支えてまいります。

図10 就職率(内定率)

就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学部において若干低下しましたが、2021年度より回復傾向にあり、2022年度以降にはほぼ以前の水準に戻りました。

図11 科学研究費助成事業

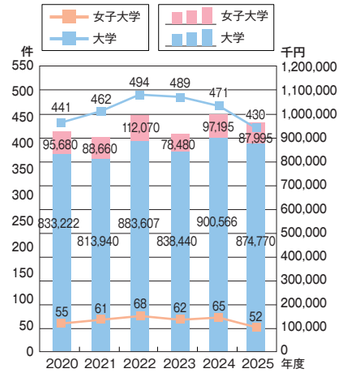


図12 受託研究費・共同研究費

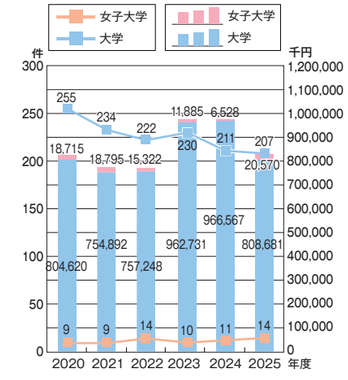
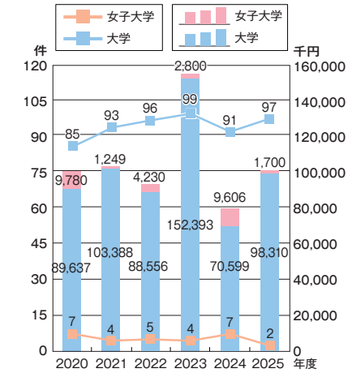


図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受け入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究支援の充実、産官学連携の推進を図っており、研究費に対する外部資金の導入は堅調に推移しています。

同志社大学

Doshisha University





小原（こはら） 克博（かつひろ） 学長

DATA

創立	1875年
所在地	〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入 玄武町601 TEL:075-251-3110 〒610-0394 京都府京田辺市多々羅都谷1-3 TEL:0774-65-7010
URL	https://www.doshisha.ac.jp/

創立150周年とその先に向け、同志社大学VISION2025を推進

2025年度に重点的に取り組んだ課題の達成状況

「同志社大学ビジョン2025 ―躍動する同志社大学―」中期行動計画（第3版）の着実な実行及びその他の課題に対応するため、2025年度は重点的に以下の課題に取り組んだ。

❶ 150周年とその先へ―未来に向けた基盤づくり―

2024年度にネクスト・ビジョン策定部会から最終答申を受け、新たな大学の指針となる『同志社大学ビジョン「共に知る、共に変わる ―With a Good Conscience」』を制定した。続いて、2026年度から2030年度を対象とする「同志社大学中期計画2030」を決定し、ビジョン実現に向けた方針を明確にした。ビジョンの社会的発信にあたっては、同志社創立150周年記念式典（2025年11月29日）において学長より公表し、あわせて特設ホームページ及び紹介パンフレットを作成した。パンフレットは校友会各支部総会等で広く配布し、ビジョンの理念と今後の方向性について深い理解を得るよう努めた。

創立150周年記念事業（大学事業）としては、記念シンポジウム第3弾「地球と宇宙を展望する―宇宙時代における大学の使命」（2025年6月27日、毛利衛氏招聘）、第4弾「デジタル社会における自由と多様性の未来 ― オードリー・タンと語り合う」（2025年10月13日、オードリー・タン氏招聘）を開催した。さらに、新図書館建設事業、スポーツ・コンプレックス建設事業、京田辺キャンパスリニューアル建設事業といった大規模建設事業についても、計画に沿って着実に実施し、それぞれの特設サイトを通じて本学の未来像を広く社会へ提示した。

また、大学事務組織を統括する事務局の設置、総合企画部の新設及び京田辺校地総務部の学長室への移管による機能強化、さらに、各機構に事務部の設置を決定した。加えて、多様な学術的営みを結合し新たな知と社会的価値を創出する使命を明示するため、研究開発推進機構のリサーチ・イノベーション推進機構への組織再編を決定した。あわせて、課外活動団体の支援組織と学生個人を支援する組織の機能整理を目的として、学生支援機構の組織再編も決定した。

❷「新たな教育」のための基盤強化

新学年暦は、前年度に実施したガイドラインの改定やシステム整備により、大きな混乱なく安定的に運用できた。オンデマンド授業や遠隔授業、面接授業の更なる質の向上を目指し、その質の評価に資するデータ収集、指標設計を進めている。

学修成果の把握にかかる取組として、「学びの実態調査」の学部平均回答率が30%超を達成するなど、公表する情報の信頼性を高めることができた。加えて、文部科学省の全国学生調査に正式参加した。また、学修成果の可視化として、DPの達成状況を単位数やGPAから把握できる「DO-MAP（Doshisha Outcome Mapping Progress System）」を2026年4月にリリースした。あわせて、教務システム（DUET）を中核に据えた教学システムの統合的な運用・管理体制を確立するため、2025年10月、教務部の下に「教学システム運用管理課」を新設した。これを機に、教学関連データの計画・統合的な蓄積と活用が進み、内部質保証や自己点検・評価の一層の高度化が期待できる。

データサイエンス・AI教育では、「同志社データサイエンス・AI教育プログラム（DDASH）」と「同志社イノベーション・ゲートウェイ（DIG）」の相互連携により、従前にない実践的な学習の機会として、「DDASH Hacks」を提供した。生成AI活用に関しては、推進と抑制のバランスに努め、全面禁止ではなく適切な利用を促す方針をもって、使用ルールを見直すとともに、AIライティング検知ツールの全学導入に向けた評価と予算措置を講じた。

研究科等連係課程による新学位プログラム（データ科学・AI）に関しては、設置決定には至らなかったものの、必要な事務体制や運営方法について検討を重ねており、今後の開設に向けた知見を蓄積した。

同志社スポーツの質的向上に向けて、デイヴィス記念館地下トレーニングルームの改修工事、同室の管理・運営方法を変更した。また熱中症対策としての正課用更衣室及び器具庫の改修計画を策定した。加えて、法人の一貫教育探求センターと連携し、法人内4中・高等学校を対象とした大学体育会の競技体験教室「2025同志社スポーツアカデミー」を実施した。

❸ 境界を越える次世代教育の展開

リカレント教育の新たな展開として、株式会社島津製作所との連携により、サイエンスコミュニケーターの養成に取り組むこととし、多忙な社会人が学びやすいオンデマンド型講座の作成に着手した。この取組を起点として、組織間連携を基軸としたより柔軟な教育・学修形態をつくり出す。

学部と大学院の境界を越える連続的な教育の展開に関しては、本学の学部教育の量的課題を認識し、「同志社大学中期計画2030」において、科目モジュールによる総合知教育促進や科目精選による資源再配分の方向性を示した。同時に第5期機関別認証評価の動向を踏まえたカリキュラム及び教学運営の構造改革による簡素化が必要になると捉え、本学の教育の基盤とも言える教務システム（DUET）更新計画の立案に向けた取組を進めた。

大学院教育の具体化としては、学部共通の副専攻のアドバンストとなる大学院共通「サイエンスコミュニケーションコース」を2026年度より新たに運用する。学部副専攻等の教育プログラム拡充が大学院の活性化に繋がる可能性を見出すべく、「同志社大学中期計画2030」において、学士課程と修士課程を通貫する5年一貫教育プログラムの検討を、大学院教育強化の一手段として位置づけた。

高校と大学の境界を越える取組に関しては、「大学を知る」を目的とする「授業公開」「卒業生からのメッセージ」は高い満足度を得たが、「在学生との交流」「学生アンバサダー」は検討段階に留まった。「探求学習サポート」は平日開催のため参加人数が伸びず、教員負担の課題も明確となった。

東京サテライト・キャンパスでは、社会連携拠点としての機能強化を図り、「同志社講座」を継続するとともに、新たに土曜開催の「Saturdayゼミ」に取り組んだ。また、首都圏で活動する学生に向けた就職支援を展開し、キャリア形成を後押しした。さらに、地域連携の一環として「中央区民カレッジ」に協力し、同志社の知を地域社会へ還元する取組を推進した。

❹ 教養と専門の調和した総合知の形成

教養と専門の調和した総合知の形成を一層推進すべく、全学共通教養教育、サービスラーニング、大学院教育の各領域において、制度設計及び基盤整備を中心とした取組を着実に進めた。まず、全学共通教養教育科目として新たに開講した「同志社イノベーション・ゲートウェイ（DIG）」は、初年度ながら質・量の両面で一定の成果を収めることができた。DIGでは、学生間及び学生と教職員等をつなぐコミュニティ形成を目的にコミュニケーションツール「Commune」を導入し、初年度に設定した目標値をいずれも上回る結果を得た。これにより、教養と専門を横断する学びを支える新たな学習基盤の構築を着実に進展させることができた。また運用面でも情報発信体制の整備が進み、DIGの円滑な実施に大きく寄与している。

次に、サービスラーニングについては、実施にあたっての制度的基盤の確立を必要とすることから、「同志社大学中期計画2030」において取組施策として明確に位置づけ、事業化を目指す。さらに、先行事例として立教大学サービスラーニングセンターの運営体制や科目設計に関する知見を得るなど、実施に向けての調査活動も進めた。

大学院教育における産学連携の多様化については、現行の教育プログラムや体制の範囲で具体的な連携事例の創出を目指した。その結果、株式会社島津製作所との協働を進める過程において、アドバンスト・リベラルアーツ科目群の下に大学院共通「サイエンスコミュニケーションコース」を新設することとなった。リベラルアーツのアップデートと産学連携の学びの多様化は着実に進展しており、これらの取組を大学院教育の活性化に繋げる。

❺ 新しい価値の創造と社会貢献のための研究基盤の強化・多様化

本学の研究基盤を再構築し、研究力の強化を図るための環境整備として、研究の推進や支援を担っている機能の再編に取り組み、2026年4月から研究開発推進機構をリサーチ・イノベーション推進機構に改組することを決定した。この再編では、研究組織間の連携・交流の促進や、事務組織との連関を強化するため、研究推進部とリエゾンオフィスの機能を統合したイノベーション創出クラスターを新たに設けるとともに、研究拠点の枠組みを変更した上で、各研究組織をイノベーション創出クラスターの下に置くこととした。個人研究や共同研究を基盤として多様な研究分野が融合するプロジェクト型研究を創出する環境の醸成等については、新たな機構の下、2026年度から着手する。大学が主導して取り組む研究領域の設定と、分野横断的に研究力を統合した特色ある社会貢献について、2025年度は、新たな教育研究プラットフォームの設置による重点領域の設定、京田辺市及び日産自動車株式会社との包括連携事業に基づく、京田辺スマートモビリティの実証運行、電気自動車を活用した脱炭素化や災害対策強化のための啓発活動への貢献を行い、2026年度以降も継続課題として取り組む。

2026年4月からの事務組織再編に伴い、産官学連携推進課に起業支援係を設置し、起業・アントレプレナーシップの支援体制を強化する。2025年度は、JST「スタートアップ・エコシステム共創プログラム【拠点都市プラットフォーム共創支援】（KSAC）」の事業推進に加え、INPIT「大学等の研究成果の社会実装に向けた知財支援事業（iAca）」の活用や三菱UFJリサーチ&コンサルティング等の協力を得て、特許活用を検討した。その他、ProduceTrialや中小企業基盤整備機構との共催による起業家教育イベント（Tips）等、各種セミナーを実施した。また、2025年度から企業等の協賛金を活用してベンチャーコンテストを再開し、D-egg内に法人登記が可能なシェアオフィスの新設を決定した。

❻ 国際主義とキリスト教主義の連携によるグローバル化の推進

同志社創立150周年を記念する諸事業を実施し、多方面において顕著な成果を収めた。まず、同志社大学とアーモスト大学の長年にわたる交流の歩みを紹介する歴史資料展示会「未来を切り拓く―アーモスト大学と同志社の交流史―」（10月1日～12月7日）を開催し、約9,000名が来場するなど、両大学の歴史的絆を改めて社会に発信する機会となった。さらに、台湾初代デジタル発展相であるオードリー・タン氏を招聘し、「デジタル社会における自由と多様性の未来」をテーマとするシンポジウム（10月13日）を実施した。さらに、ACUCA（アジア・キリスト教大学協会）によるStudent Camp（8月18日～22日）及びManagement Conference & General Assembly（10月14日～15日）を主催した。香港、インド、インドネシア、日本、韓国、フィリピン、台湾の7か国・地域から学生が参加し、多文化的かつ先端的なテーマに基づく交流が実現した。MC & GAにおいても8か国・地域から学生が参集し、国際的な大学連携の深化に寄与した。また、テュービンゲン大学学長の同志社創立150周年記念式典への参列機会を捉え、11月28日に両大学長による特別対談を開催した。両大学の歴史的な交流と独・日の高等教育の将来展望について語り合った内容を、日本語及び英語の字幕を付して世界の視聴者へ発信するなど、多様な記念事業を計画通りに完遂した。

テュービンゲン大学との協定事業の深化に向け、両大学間の協力関係の強化を目的とする国際共同シンポジウム（3月11日～12日）に、テュービンゲン大学から代表団が派遣され、研究交流の更なる創出に向けた議論を進めた。また、テュービンゲン大学にて開催した「Doshisha Week 2025」では、後期課程学生による研究発表を実施し、研究基盤に立脚した国際教育の実践を進展させた。

アーモスト大学からの新たな連携について、同志社新島スカラーの留学費用の永続的な無償化（費用はアーモスト大学側が全額負担）、交換留学生の受入人数の倍増、アーモストフェローへの奨学金増額の提示があった。

グローバル化推進について、留学モビリティ拡充策、国際共修環境の充実策、協定方針の再整理、ACUCA活動の評価等を行い、2026年度以降の基盤整備を進めた。

❼「深山大沢」としてのキャンパスの形成

環境推進について、専門業者へのエネルギー管理精査業務委託に基づき、空調設備・照明設備・中央監視盤データ等の運用状況及び図面・機器リスト等の設備情報を調査し、省エネルギーに資する改善点の整理ならびにエネルギーフローを作成した。これまで校地毎に策定していたエネルギー管理標準を統一的かつ体系的な基準として改訂・一本化するとともに、同志社大学カーボンニュートラルロードマップに掲げる温室効果ガス削減目標の達成に向けて空調設備等整備事業及び照明LED等整備事業を開始し、2030年度までに2013年度比46%以上の削減という中期目標の実現に向け、計画的に工事を進めた。加えて、環境推進パートナーとの共同事業の推進として、タイガー魔法瓶株式会社との連携によるステンレスボトル回収事業を新規に展開し、両校地に回収ボックスを設置するなど、環境負荷低減と資源循環を推進する取組を強化した。

ダイバーシティ推進について、2025年度は同志社大学ダイバーシティ推進宣言制定から5年の節目を迎え、教職員の意識変容を測定するため、2021年度と同一項目によるアンケート調査を行い、経年的傾向の分析を通じた施策形成に資する基礎資料を得た。また、6,000名を超える学生が履修する全学共通教養教育科目「同志社の良心とダイバーシティ」の3年間の実績を踏まえ、本学におけるダイバーシティ教育の意義を改めて問い直すことを目的に、基調講演とパネルディスカッションから成るシンポジウム（2026年3月28日）を開催した。

発達障がいのある学生への支援においては、学生同士による体験共有を促進するランチ交流会を開催し、合理的配慮の活用方法や大学生活における工夫を共有する機会を提供した。また、偏見・誤解の除去と支援への理解促進を目的として、障がいの種類、困難の具体像、合理的配慮例を紹介するパネル展を実施し、ニューロダイバーシティの視点も伝えた。

SOGI理解促進については、教員向けリーフレット「LGBTQ+の学生への配慮・対応について」の配付に加え、プライド月間にあわせて映画上映会、感想共有会、講演、学生団体とのトークセッションを行い、多層的な学内啓発を推進した。あわせて、学生が自由に意見を寄せる「シェアボード」を設置したパネル展も開催し、学生の主体的な学びと気づきを促した。さらに、10月には教職員を対象としたオンライン研修会を行い、LGBTQ+の学生支援に対する理解の深化を図った。

加えて、合理的配慮としての遠隔授業については、2024年度の制度開始から得られた知見をもとに、学内で統一的に運用できる提供基準を整備した。他大学の事例が少ない中で2年間にわたり課題を検討し、安易な適用を避けつつ学生の学修権を保障する制度的枠組みを確立した。

❽ DDX推進とブランディングの強化

DDX中期行動計画（2026～2029年度）（案）を策定し、情報化推進基本規程及び情報化推進委員会内規を制定して組織的推進体制を整備した。あわせて、情報システム運用基本規程を改正し、DX推進を制度・規程の両面から強固に支える基盤を構築した。

データ活用のあり方について、統合DB・分析基盤システムの高度活用に向けRFI等を実施し、システム柔軟性、データ匿名性、組織的情報活用のコンセンサス不足という課題を把握した。解決策として、インターフェイスとDBの分離調達やデータ匿名化機能の実装案を得たが、エンロールメントマネジメントシステム導入との関係性も含め、情報活用のあり方は多面的な検討を要し、2026年度以降の重要課題となる。

教務系システムについて、LMS、証明書発行システムの更新を完了し、いずれも安定稼働を実現した。今後の教務システム更新に向けては、製品調査や学部・研究科事務室等への課題ヒアリングを進め、教学システム運用会議において、カスタマイズを極力回避した形でのパッケージシステム導入と、更新時に一定期間の現行システム並行稼働の方針を打ち出した。

次期インフラ系情報システムについて、リプレース第1期として、ネットワーク・ユーザ管理・サーバ基盤各システムの事業者を選定し、基本設計を完了した。無線LANの使用感向上や全国の大学に先駆けての顔認証方式導入による情報セキュリティ強度と利便性の向上、サーバ基盤の2拠点クラウド構成などによる可用性・完全性の向上を目指す。また、基本仕様を取りまとめた教育研究支援システムにおいては、教卓PCと事務用PCの一括調達によるコスト削減を見込む。

業務DX推進プロジェクトでは、Microsoft Power Platformによるシステム内製化やBIツール活用を進め、成果報告会を開催するとともに、立教大学DXチームとの交流を通じ活動の深化を図った。文書管理の電子署名導入準備や生成AIの業務利用検証を進め、議事録作成や規程類の対話型検索等で実務利用可能な水準を確立した。また、窓口対応管理システムの運用を開始し、問合せ対応の迅速化と質向上に寄与している。

DDX推進人材の育成に向け、業務DX推進プロジェクトにおいてチームリーダー制の導入により主体的参画を促し、システム担当者会を年間12回開催してDX・情報セキュリティへの理解を深化させた。また、学内システム担当者向けのセキュリティ教育の改善を図り、セルフチェックシートをより実効性ある内容へと刷新した。

同志社ブランド力強化に向け、コンテンツの質向上、学内外への積極的発信、150周年記念事業の充実に重点を置いた。「同志社講座」動画や周年事業の各種コンテンツを発信するとともに、オウンドメディア"D"iscoverや公式ホームページ・SNS、デジタルサイネージ等を活用し情報発信を強化した。また、立教大学との連携

広告や新聞掲載、プロモーション動画、記者クラブとの懇談会など多面的な広報施策を展開し、本学の魅力を発信した。

⑨ 安定的財政基盤の確立

2026～2030年度を対象とする「学校法人同志社中期財政計画」を策定し、2030年度までに「事業活動収支差額比率8%（将来的には10%）の達成」と「減価償却額の累計額に対する自己資金の充足率90%を目標」とすることを決定した。

2025年度からの私立学校法及び学校法人会計基準の改正に対応するため、賞与引当金を含む勘定科目の新設や、新様式による計算書類作成の準備を進め、法人内各学校が円滑に移行できる体制を整えた。また会計監査人と綿密に協議を重ね、2026年度予算及び2025年度決算承認に向けた学内審議と手続きを滞りなく進めるための環境を整備した。

「同志社資金運用基本方針」に基づき、2020年度に開始した後、2024年度までの5年間に毎年60億円を拠出し、合計300億円となった委託運用の資産配分や運用商品構成、運用実績等について、運用助言会社の助言の下で点検した。点検結果及び2024年度に承認した2026～2030年度の委託運用の骨子を踏まえ、運用額の拡大や新たな運用利回り目標に基づく基本ポートフォリオの更新及びオルタナティブ資産の導入等について定めた資金運用中期計画を策定し、あわせて「同志社資金運用基本方針」を改正した。

2027・2028年度入学生の学費については、2025年度の財務部会における答申結果を報告した。また、国家公務員等の旅費制度見直しを受け、法人「旅費規程」の改定に伴う大学での運用変更について、交通費・日当・宿泊費の取扱いや旅費計算の起点・終点、旅行代理店への直接手配等を見直した。

現状の財政状況と将来の収支見通しを踏まえ、第3号基本金（同志社大学奨学金基金）及び第2号基本金（研究装置設備等整備資金、大学教学施設設備整備資金）の組入方針を検討した。その結果、第3号基本金については2025年度より組入額を1億円増額し6億円とした。第2号基本金については、学研都市キャンパス売却収入やALL DOSHISHA募金（使途指定なし）を教学施設整備資金へ充当するとともに、今後の大規模改修需要を見据え、2026年度から経常勘定からの組入額を2億円から5億円へ増額する方針を決定した。

私立大学等経常費補助金の増収を目指し、前年度実績の維持を前提に各指標の改善に取り組んだ。一般補助では、「教育の質に係る客観的指標」の増減率が1%改善する見込みとなった。また、特別補助においては、改革総合支援事業のタイプ2（特色ある高度な研究の展開）、タイプ3（地域社会の発展への貢献・プラットフォーム型）、タイプ4（社会実装の推進）の選定を目標として申請を進めた。

2026年2月末時点で「同志社大学ALL DOSHISHA募金」は累計27.2億円（達成率54.4%）となり、校友会との連携強化や企業訪問の推進により支援基盤を拡大した。特に、寄付未経験の卒業生向けに導入したコンビニ払込み方式が奏功し、新規寄付者は2,900名超、卒業生支援者は1万人に到達した。企業からは新たに55社が加わり累計476社となり、さらにダイキン工業株式会社、TOYO TIRE株式会社、株式会社ロゴスコーポレーション等との包括連携協定を締結し、研究・教育・採用に資する企業連携の深化と外部資金獲得の拡大に繋がる基盤を形成した。

同志社大学 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育	次世代教育の展開	【同志社データサイエンス・AI教育プログラム（DDASH:Doshisha Approved Program for Data science and AI Smart Higher Education）】 ・自然科学系科目区分に2026年度新設科目「データサイエンス・AI演習」の設置を検討。 ・学習サービス「LinkedInラーニング」の利用対象を拡大 ・DDASHとDIGの相互連携により、従前にない実践的な学習の機会として、ハッカソン形式による実践型学修イベント「DDASH Hacks」を開催 【同志社イノベーション・ゲートウェイ（DIG）】 ・学生間及び学生と教職員等をつなぐコミュニティ形成を目的にコミュニケーションツール「Commune」を導入 ・オンライン試験システム「Testable」の恒常的な導入を開始 ・メタバースを活用した全学教育周知イベントを開催
	全学共通教養教育科目の充実	・新しい全学共通教養教育科目体系の展開を開始 ・ライフデザイン科目区分に2026年度新設科目「ライフスキル・ベーシック」「キャリアリテラシーとジョブトライアル」の設置を検討 ・2026年度設置科目「トピック科目」の科目テーマ募集を開始
	グローバル教育の推進	・同志社・アーモスト大学歴史資料展示会（10月1日-12月7日）の実施:「未来を切り拓く―アーモスト大学と同志社の交流史―」 ・テュービンゲン大学・同志社大学 両大学長特別対談 ・テュービンゲン大学にて若手研究者育成と研究交流を目的としたDoshisha Week2025「Challenges of Next-Generation Researchers」を実施 ・ACUCA（Association of Christian Universities and Colleges in Asia）幹事校任務の遂行を通じてのアジア地域にあるキリスト教主義大学との連携の強化 ・同志社創立150周年記念事業オードリー・タン氏講演会「デジタル社会における自由と多様性の未来」を実施
	ALL DOSHISHA 教育推進プログラム	・2019年度採択の以下3プログラムの事後評価の実施 ・「社会実践のためのプレンディッド・ラーニングの構築-「地の塩」プロジェクト（神学部） ・「スポーツ・健康科学研究」を通して学力の3要素を育成する高大接続プログラムの開発とその強化（スポーツ健康科学部） ・「アカデミック・ポートフォリオを活用したセルフ・プロデュース型キャリア能力開発システムの構築（心理学研究科） ・全事業終了に伴う、今後の全学的プログラムへの参考となる、事業全体評価の実施
	同志社大学新島塾	・人物養成の指針で掲げる資質や能力を身に付け、それらを統合的に活用して発揮する力を養うプログラムを実施。14名の修了者を輩出
	大学院教育の充実	・本学と包括的連携協力協定を締結する企業の増加に伴い、アドバンスト・リベラルアーツ科目群における大学院生と社会人との共修環境が充実 ・2026年度開設「サイエンスコミュニケーションコース」の設置検討、規程およびプログラムの整備 ・アドバンスト・リベラルアーツ科目群カリキュラム・ポリシー制定、カリキュラムマップ更新、HPリニューアルによる履修促進
	「未来の大学教員養成講座」（プレFD）の実施	・大学教員を目指す大学院生のキャリア支援の一環として、「未来の大学教員養成講座（プレFD）」を試行的な集中プログラムとして実施
	企業との組織間包括連携に係る教育事業の展開	【ダイキン工業株式会社】 ・自然科学と人文・社会科学の文理融合による教育プログラム（「次の環境」協創コース）と、組織の壁を越えた「協創」を軸とする「組織」対「組織」の連携により、社会実装を目指して「次の環境」を担うビジョン・テーマの実践的研究開発を推進 ・ビジネス研究科の協力の下、企業の技術者上位層を対象とした「技術経営（MOT）コース」の本格実施 ・グローバル・リソース・マネジメント（GRM）プログラムとの共同実施となるオンサイト実習を2025年度にベルギー・オランダで実施。留学生、大学院生、社会人が海外において共通課題に取組む 【株式会社島津製作所】 ・サイエンスコミュニケーション分野における人材育成に共同で取り組むことで、産学連携による大学教育およびリカレント・リスキリング教育を推進し、研究指導や共同研究等を通じた相互の発展と社会への貢献を目的として、包括連携協定を締結 【株式会社ロゴスコーポレーション】 ・ビジネス研究科での特別授業を実施
	新たな教育を支える基盤整備	・学修成果の可視化を一層充実させるため、入学時から卒業又は修了時に至るまで、定期的に学修成果の評価を行うことを目的とした、「同志社大学アセスメント・ポリシーの策定に関する基本方針」の改正 ・学修成果の可視化の取組として、ディプロマ・ポリシーの達成状況を、修得単位数やGPAを通じて把握可能とする「DO-MAP（Doshisha Outcome Mapping Progress system）」導入決定（2026年4月運用開始） ・教務システム（DUET）を中核とする教学システムの統合的な運用・管理体制を確立するため、2025年10月に教務部の下に「教学システム運用管理課」を新設 ・教務系システムに関して、LMS（Learning Management System）、証明書発行システムを更新
研究	企業との組織間包括連携に係る研究事業の展開	【ダイキン工業株式会社】 ・自然科学と人文・社会科学の文理融合による教育プログラム（「次の環境」協創コース）と、組織の壁を越えた「協創」を軸とする「組織」対「組織」の連携により、社会実装を目指して「次の環境」を担うビジョン・テーマの実践的研究開発を推進 【京田辺市及び日産自動車株式会社連携】 ・持続可能なまちづくりに向け電気自動車（EV）を活用したカーボンゼロシティとモビリティサービスを推進する連携事業を実施 【TOYO TIRE株式会社】 ・「新たな共同研究の創出と実施」「技術相談対応を含めた同志社大学からTOYO TIREへの学術指導」「同志社大学における各種制度を活用した同志社大学在学生、TOYO TIRE社員に対する教育」「キャリア形成支援」の取組を主軸とする連携事業を実施
	若手研究者の育成	・日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」に基づき日本学術振興会特別研究員-PDとして雇用し、「同志社大学における若手研究者の育成方針」に即してその育成を支援 ・第一三共株式会社「『はばたく次世代』応援寄付プログラム」の支援を得て「同志社大学次世代研究者支援パッケージ」を展開し、同志社大学所属のポストドクターの研究活動を支援 ・科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的プログラム」に採択された「同志社大学博士後期課程次世代研究者挑戦的研究プロジェクト」を展開し、博士人材のキャリア形成を支援
	起業支援体制の構築	・関西スタートアップアカデミア・コアリション（KSAC）が実施するGAPファンドプログラムの運営に参画し、学内研究者の申請支援を含む支援体制を整備 ・中小企業基盤整備機構および京田辺市と共同で運営するインキュベーション施設「D-egg」内に、教職員および学生が事業活動に利用でき、法人登記も可能なシェアオフィス「Doshisha Startup Base（D-Base）」を2026年度より開設。起業支援を専門的に担う新組織を新設し、本学におけるスタートアップ創出支援体制を拡充。 ・「同志社イノベーション・ゲートウェイ」に加え、課外においても、学生の起業マインド醸成および実践的な起業能力の向上のため、起業家育成プログラム「Produce Trial」、ビジネスプランコンテスト「同志社ベンチャーコンテスト」、「学生起業家によるトークイベント」等、学生の起業意識の段階に応じた多様なプログラムを実施
	ダイバーシティ研究環境の推進	・研究者のライフイベントやワーク・ライフ・バランスに配慮し、教員が妊娠や育児で研究活動が難しい場合、助成金を受けてリサーチ・アシスタント等を雇用することにより、研究を継続できるようサポートする「リサーチライフ支援助成事業」を継続
	次世代研究を支える基盤整備	・本学の研究基盤の再構築及び研究力の一層の強化を目的として、2026年4月から研究開発推進機構をリサーチ・イノベーション推進機構への再編を決定

同志社大学 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
学生支援	継志寮の運営	・地域社会との関わり等を通した実践学習に参加し、その成果の発表や振り返りを通して自己の成長を確認する取組としての「Residential Learning Program（RLP）」を実施 ・地域連携・地域交流活動機会の創出を目的としたプログラムとして「上京区民ふれあいまつり×継志寮まつり」を上京区役所と共催
	スポーツ支援	・デイヴィス記念館地下トレーニングルームの全面リニューアル、同室の管理・運営方法の変更 ・熱中症対策としての正課用更衣室及び器具庫の改修計画を策定 ・法人の一貫教育探求センターと連携し、法人内4中・高等学校を対象とした大学体育会の競技体験教室「2025同志社スポーツアカデミー」を実施
	学生のダイバーシティの尊重	・発達障がいのある学生への支援として、学生同士による体験共有を促進するランチ交流会を開催 ・LGBTQ+の学生への支援を目的とした学生団体の協力を得て、理解啓発パネル展を実施 ・合理的配慮としての遠隔授業について学内で統一的に運用できる提供基準を整備
	在学生への経済的支援	・国の高等教育の修学支援新制度に基づく授業料等減免の円滑な運営と本学独自の奨学金制度に加え、大規模自然災害等による被災学生に対する授業料等の減免制度により、在学生への経済的支援を包括的に実施
	他大学・企業との組織間包括連携に係る学生支援事業の展開	【立教大学との連携事業】 ・立教大学との合同イベント「同志社大学×立教大学 つながる!学生交流サマーキャンプ」を同志社びわこリトリートセンターにて開催 ・1949年から実施している大学体育会による「同志社大学・立教大学総合定期戦」を、同志社創立150周年記念イベントとして開催 【株式会社ロゴスコーポレーション】 ・京田辺グローバー祭での防災ブース出店 ・ハロアゲプロジェクト「座学 de キャンプ」の共催
学生の受入れ	志願者数	・一般選抜入試44,828名（昨年度比2,158名増）、大学入学共通テストを利用する入試10,716名（昨年度比659名増）
	高大接続プログラムの展開	・学部・学科の学びがイメージできる授業の科目を高校生に公開する「授業公開」を実施 ・法人内の4高等学校の高校生を対象とした大学開設科目（データサイエンス概論）履修制度を活用した科目履修 ・「キリスト教主義学校連携ネットワーク」の高校生を対象としたアクティブ・ラーニング型の高大接続プログラムの実施
キャンパス整備	大規模建設事業	・新図書館建設事業（今出川校地）について、2027年4月のグランドオープンに向けた工事実施中 ・スポーツ・コンプレックスについては、2026年3月に山本覚馬記念アリーナを竣工。引き続き2027年3月竣工に向けて「デイヴィス記念多目的コート」の工事実施中 ・京田辺キャンパスリニューアルについては、知真館2号館（203、204教室）、知真館3号館（103～105教室、203～205教室）、恵道館（201教室）、日糧館1階（京田辺Dining Hall、コンビニ）、日糧館2階（キャリアセンター、学生ラウンジ、教職員ラウンジ）が完成。
	ダイバーシティの推進	【整備事業】 ・良心館エレベーター扉への、利用上の配慮を示す優先ピクトグラムの施工 ・今出川キャンパス屋外における、視覚障がい者の円滑な移動を支援する誘導用ブロックの敷設 【啓発事業】 ・教員向けリーフレット「LGBTQ+の学生への配慮・対応について」を作成 ・教職員の意識や実態を把握することを目的とした、ダイバーシティに関するアンケート調査の実施 ・ダイバーシティ教育の意義と課題を多角的に検討するための、ダイバーシティシンポジウム「私たちは何を「教える」のか―大学におけるダイバーシティ教育の意義と課題―」の開催
	環境活動推進	・校地毎に策定していたエネルギー管理標準を統一的かつ体系的な基準として改訂・一本化 ・空調設備・照明設備・中央監視盤データ等の運用状況及び図面・機器リスト等の設備情報を調査し、省エネルギーに資する改善点の整理ならびにエネルギーフローを作成 ・同志社大学カーボンニュートラルロードマップに掲げる温室効果ガス削減目標の達成に向けて空調設備等整備事業及び照明LED等整備事業を開始 ・同志社大学環境推進パートナーとの連携事業の開始（ステンレスボトル回収事業）
大学運営の基盤整備	中期計画の策定	・「同志社大学ビジョン「共に知る、共に変わる ―With a Good Conscience―」及び2026年度から2030年度を対象とする「同志社大学中期計画2030」の策定 ・2026年度4月に向けて、大学事務組織を統括する事務局の設置、総合企画部の新設及び京田辺校地総務部の学長室への移管による機能強化、各機構に事務部の設置を決定 ・DX推進を制度・規程の両面から強固に支えるために、情報化推進基本規程及び情報化推進委員会内規を制定して組織的推進体制を整備 ・オウンドメディア"D"iscoverや公式Webサイト&公式SNSを活用したブランディング事業の展開
財政	寄付金	『同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金』 個人:11,911人、18億2900万円 法人・団体:683件、9億7200万円 合計:28億100万円（2017年10月1日～2026年3月31日の累計
	第2号基本金組入	大学教学施設設備整備資金51億円、情報基盤整備資金2億円
	第3号基本金組入	同志社大学奨学金基金6億円、疋田幸治郎奨学基金1億円
記念事業（法人）	創立150周年記念事業	・同志社創立150周年記念式・献茶式を実施 ・新作能『庭上梅』の上演 ・朝日教育会議シンポジウムを実施 ・同志社創立150周年記念アニメーション『二百年の夢を見た。』制作 ・新島襄の足跡を辿るボストンツアー

施設設備整備事業の内容

（事業費は2025年度の金額）

事業		内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川校地	新図書館の整備	建設工事	2024年度～2026年度	39億5,000万円	学生生徒等納付金・第2号基本金・補助金
	正門周りの整備	改修工事	2024年度～2025年度	2億9,400万円	学生生徒等納付金
	その他整備	弘風館空調等改修工事	2025年度	4,700万円	学生生徒等納付金
		学生会館空調改修工事	2025年度	4,400万円	学生生徒等納付金
		深水館空調等改修工事	2025年度	4,200万円	学生生徒等納付金
京田辺校地	スポーツ・コンプレックスの整備	建設工事	2023年度～2026年度	23億2,600万円	学生生徒等納付金・第2号基本金
	キャンパス全体の整備	改修工事	2024年度～2029年度	28億3,800万円	学生生徒等納付金・第2号基本金
	体育施設の整備	改修工事	2024年度～2025年度	1億6,500万円	学生生徒等納付金
	その他整備	夢告館空調改修工事	2025年度	8,400万円	学生生徒等納付金
		医心館特定天井改修工事	2025年度	4,800万円	学生生徒等納付金・補助金
		高圧ケーブル更新工事	2025年度	4,600万円	学生生徒等納付金
		特別高圧電力改修工事	2025年度	4,400万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

（2025年5月1日現在）

学部・研究科名		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
学部	神学部	63	63	252	280
	文学部	705	722	2,820	3,037
	社会学部	442	496	1,768	1,935
	法学部	893	932	3,572	3,642
	経済学部	893	842	3,572	3,706
	商学部	893	906	3,572	3,699
	政策学部	420	443	1,680	1,809
	文化情報学部	294	299	1,176	1,290
	理工学部	756	813	3,064	3,324
	生命医科学部	265	286	1,060	1,062
	スポーツ健康科学部	221	224	884	935
	心理学部	158	159	632	650
	グローバル・コミュニケーション学部	158	156	632	637
	グローバル地域文化学部	190	207	760	847
合　計		6,351	6,548	25,444	26,853
大学院（博士前期・修士）	神学研究科	20	14	40	27
	文学研究科	47	23	94	50
	社会学研究科	37	23	74	48
	法学研究科	130	70	260	134
	経済学研究科	50	8	100	15
	商学研究科	65	10	130	18
	総合政策科学研究科	70	30	140	72
	文化情報学研究科	30	20	60	44
	理工学研究科	315	383	630	746
	生命医科学研究科	110	107	220	222
	スポーツ健康科学研究科	8	6	16	19
	心理学研究科	10	8	20	18
	グローバル・スタディーズ研究科	45	46	90	97
	ビジネス研究科	45	42	90	90
合　計		982	790	1,964	1,600

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

（2025年5月1日現在）

学部・研究科名		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
大学院（博士後期）	神学研究科	5	2	15	16
	文学研究科	17	7	51	39
	社会学研究科	18	6	54	44
	法学研究科	15	5	45	19
	経済学研究科	5	5	15	15
	商学研究科	5	2	15	4
	総合政策科学研究科	15	15	45	45
	文化情報学研究科	5	6	15	17
	理工学研究科	30	21	90	49
	生命医科学研究科	14	9	42	24
	スポーツ健康科学研究科	3	2	9	18
	心理学研究科	6	0	18	11
	グローバル・スタディーズ研究科	18	10	54	63
合　計		156	90	468	364
大学院（一貫制）	脳科学研究科	10	5	50	27
	総合政策科学研究科	-	-	-	-
合　計		10	5	50	27
大学院（専門職）	司法研究科	70	63	210	156
	ビジネス研究科	30	34	60	104
合　計		100	97	270	260
総　計		7,599	7,530	28,196	29,104

教員数、職員数

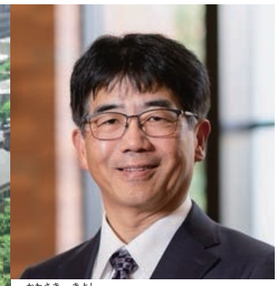
（2025年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
772	1,520	2,292	353	214	567	2,859

同志社女子大学

Doshisha Women's College of Liberal Arts





川崎（かわさき） 清史（きよし）学長

DATA

創立　1876年
所在地　〒610-0395
京都府京田辺市興戸南鉾立97-1
TEL:0774-65-8411
〒602-0893
京都府京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1
TEL:075-251-4111
URL　https://www.dwc.doshisha.ac.jp/

創立150周年に向けた事業推進と社会共創による教育・研究の発展

同志社女子大学創立150周年記念事業の推進

2026年10月24日の創立150周年に向け、下部組織である「同志社女子大学のはじまり」編纂委員会、同志社女子大学創立150周年記念行事等実施委員会において、事業計画策定を含めた事業を実施しています。2025年度中には、キャンパス内各所に設置するフラッグを創立150周年記念ロゴマーク仕様のデザインに一新し、在学生や教職員間で創立150周年への機運を高めています。入学式・卒業式・ホームカミングデーなどのイベント時にはパネル展を実施し、起源となる女子塾創設当時から現在までの本学のあゆみを多数の写真史料で紹介することで、興味関心を寄せていただく機会を設けました。特に卒業生を迎えるホームカミングデーは、創立150周年の「アニバーサリーイベント」と位置づけ京田辺キャンパスで開催し、ゲストを迎えた記念トークセッションの実施や卒業生によるブース出展企画等により、例年を大幅に上回る卒業生等のご来場があるなど、翌年の創立150周年を前に卒業生と本学とのエンゲージメント向上に繋がっています。創立150周年記念特設Webサイトでは、記念メッセージを卒業生等から広く募集し、寄せられたメッセージ全件をWebサイト上で公開しました。これらの企画により、卒業生や在学生、教職員などがつながりを持ち、ビジョンや価値観を広く共有し、共感を育む場となっています。その他、オリジナルデザインハンカチ制作・販売等、記念グッズの発表を行い、2025年度に着手した今出川図書館リニューアル工事は、2026年9月の竣工に向けて進行中です。引き続き2026年度中に迎える創立150周年記念日に向けて各事業を継続し、在学生・在学生ご父母等、卒業生、教職員らに加えて、これまでの本学のあゆみ支えてくださった地域・社会の皆さまに感謝の意を伝え、未来へのあゆみに期待を寄せていただけるよう、取り組んでまいります。

教育研究

(1)新教務システムの導入・稼働開始

2025年9月25日より新教務システム（「Doujo passport (D-pass)」）の運用を開始しました。2025年度秋学期の登録修正、成績開示、年度末の卒業査定等をD-passで行い、大きなトラブルもなく円滑に運用を進められています。さらにD-passでは連帯保証人の皆さまにIDおよびパスワードを発行し、学生の履修状況や成績をWeb上で確認できる機能を有しており、2026年度から導入する計画をしています。

D-passは授業関連のLMS機能にとどまらず、時間割確認、休講補講や教室変更連絡、大学からのお知らせ配信など、学生生活を多面的にサポートする多様な機能を備えています。今後、学修ポートフォリオの導入など拡充を予定しており、学生一人ひとりの学びと普段の生活を支える重要な基盤となることを期待しています。

(2)「登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関」に認定

2024年に施行された「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」に基づき、令和7(2025)年度第1回の登録審査に申請し、2025年10月31日付けで「登録実践研修機関」および「登録日本語教員養成機関」として文部科学大臣により登録されました。これにより、2026年度以降に本学に入学し、登録日本語教員養成課程（養成課程および実践研修）を修了した学生は、「日本語教員試験」における基礎試験が免除され、応用試験に合格することで「登録日本語教員」の資格を取得することが可能となりました。

(3)韓国・東亜放送芸術大学との学術連携協定締結

2025年10月に、韓国・東亜放送芸術大学（Dong-Ah Institute of Media and Arts／DIMA）と学術連携協定を締結しました。この協定は、教職員の交流や学生の交流、共同研究プロジェクト、共同文化プロジェクトをとおして、両学校間の協力関係の発展と強化を図り、教育・研究その他の分野における学術的および文化的交流を促進することを目的としています。放送・映像・音楽・演技・舞台・K-POPの領域で韓国エンターテインメントを牽引し、多くのアーティスト、プロデューサー、音楽専門家を輩出した、アジア屈指のエンターテインメント専門大学である東亜放送芸術大学との協定締結によって、両大学の学生が、韓日バイリンガル環境下での学修・共同制作を通じて国際交渉力・異文化協働力が磨かれ、卒業後の進路が国内外へ広がっていくことを期待しています。

(4)学生を主体とした連携事業の推進

2025年4月から10月にかけて開催された大阪・関西万博会期中には、学芸学部メディア創造学科・現代社会学部社会システム学科および現代こども学科の計3つのゼミが、日本の伝統文化をテーマにした展示・ワークショップや、アート制作等とおして多世代交流を図るイベント、物流の視点で考える未来社会を提案するステージ発表及び聴衆参加型ワークショップを、それぞれ関連団体や企業とともに企画・実施しました。このほか、キャリア支援部と産学連携包括協定を締結している株式会社JTB京都支店および大塚製薬株式会社京滋北陸支店の協力のもと開講したPBL科目「キャリアのためのプロジェクト演習」は、前年度に引き続き現場での課題をテーマとして提供してもらい、グループ演習を経て、最終的には解決策を企業担当者に提案し、実社会の課題を自分ごととして考える機会となりました。学部学科の専門性を軸とした学びやキャリア教育の中で、関連企業等との協働で社会課題の発見とその解決策を探り、企画提案や実行に至るプロセスを学修するプログラムを多数展開することで、学内外に止まらない学びの場と機会の提供につながっています。

施設設備

今出川キャンパスにおいては、「同志社女子大学創立150周年記念事業」の一貫として、図書館改修工事および図書館東側外構整備工事に着手し、2026年9月末の竣工を目途に整備を進めています。また、照明のLED化、地下2階書架室の整備および地下1階のトイレの整備が完了しました。京田辺キャンパスの空調設備については、2022年度に策定した「京田辺キャンパス空調機にかかる更新計画」に基づいて、2023年度より段階的な更新を実施し、3か年にわたる整備工事を経て、2025年度に空調設備の個別化を完了、省エネルギー効果およびCO_2削減効果の向上を実現しました。また、年次計画に基づき継続的に実施している非構造部材の耐震対策工事については、新島記念講堂ホールおよび友和館ヒバードホールの天井脱落防止対策工事を行い、安全性の一層の向上を図っています。さらに、省エネルギーの施策の一環として進めている照明設備のLED化工事については、京田辺キャンパスでは頌啓館および新島記念講堂全体、今出川キャンパスではジェームズ館全体および純正館の一部において更新を実施し、エネルギー削減に取り組みました。

同志社女子大学 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	定員変更	(収容定員) 薬学部医療薬学科 750名 学芸学部音楽学科演奏専攻 280名 学芸学部音楽学科音楽文化専攻 180名
教職員採用	教員採用(21名)	専任教員 学芸学部音楽学科 1名 現代社会学部現代こども学科 1名 生活科学部食物栄養科学科 1名 特別任用教授(規程第2条第1号) 薬学部医療薬学科2名 特別任用教授(規程第2条第2号) 現代社会学部現代こども学科 1名 薬学部医療薬学科 1名 看護学部看護学科 1名 表象文化学部英語英文学科 1名 生活科学部食物栄養科学科 1名 任期付教員 表象文化学部英語英文学科 1名 表象文化学部日本語日本文学科 1名 特別任用助教(無期) 薬学部医療薬学科 1名 特別任用助教(有期) 薬学部医療薬学科 3名 実習助教(有期) 看護学部看護学科 1名 特別任用助手 薬学部医療薬学科 2名 実習助手(有期) 看護学部看護学科 2名
教育・研究	教務システムの更新・運用(第Ⅱ期)	2024年度春学期から順次データ移行を進めており、2025年度秋学期に新システムを稼働した。 本システムの導入により、LMS(Learning Management System)、学生ポータルサイトや学修ポートフォリオの充実を図ることで、学生サービスの向上につなげた。
	テーマ別講義(Vision150:自分らしく生きるヒントDEIの観点から)」の開講	「Vision150」第2期アクションプランとして承認された「Vision150特別授業の開設」に係る具体的なプログラムとして、ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンを開講し、Vision150のコンセプト「21世紀社会を女性の視点で『改良』できる人物の育成」を具現化した。
	同志社女子大学データサイエンス・AI教育プログラムDWCLA-Educational Program for AI and Data science as Liberal Arts:(DWCLA-ADa)の開講	2025年度は3年次生3名、2年次生1名が修了証を取得し、これまでの修了生数の合計は38名となった。(参考:2024年度は4年次32名、3年次2名が修了証を取得)。
	「登録実践研修機関・登録日本語教員養成機関」に係る申請検討	2024年4月1日より施行された「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」に基づく、いわゆる「登録日本語教員」資格に係る実践研修機関・登録日本語教員養成機関としての申請を2025年6月に行い、10月末に2つの機関としての登録を受けた。
	教職課程自己点検評価 受審	2024年度中に作成・公表する「教職課程自己点検・評価報告書」を、一般社団法人全国私立大学教職課程協会に提出、審査を受け、「教職課程自己点検評価『完了証』」の交付を受けた。
	佛教大学との連携による小学校教諭二種免許状取得	本学で取得する中学校教諭一種免許状または高等学校教諭一種免許状の取得に係る科目の一部を、小学校教諭二種免許状取得に必要な科目に充当した上で、不足分を、佛教大学教育学部教育学科(通信教育課程)との連携プログラムにより修得し、小学校教諭二種免許状を取得することを可能とした。
	佛教大学との連携による特別支援学校教諭一種免許状取得	本学で取得する小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状を基礎資格として、特別支援学校教諭一種免許状取得に必要な単位を佛教大学教育学部教育学科(通信教育課程)の特別科目等履修生として 4 年間の在学中に修得し、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状または幼稚園教諭一種免許状とともに、特別支援学校教諭一種免許状を取得することを可能とした。
	観光実務士資格課程開設	科目履修規程に従って所定の科目の単位を修得し、手続きを完了することで、一般財団法人全国大学実務教育協会より、観光業務で活かせる知識と実務能力を身に付けた者であるとして「観光実務士」の称号の使用が認められた。
	各学部・学科が実施する海外研修プログラム	学芸学部国際教養学科では「国際教養プロジェクトA」として、世界規模で現代社会が抱える課題とSDGsの関わりについて学ぶため、2025年8月にカンボジアにて、また、生活科学部人間生活学科では「人間生活海外事情」として、海外の生活デザインや生活文化・社会システム等を学ぶため、2026年2月にフィンランドにて海外研修を実施した。
入試制度	推薦入試における変更	2026年度入試(2025年度に実施)において、推薦入学試験Lで表象文化学部英語英文学科の募集を開始した。
	推薦入試における変更	2026年度入試(2025年度に実施)において、推薦入学試験S・Cで薬学部医療薬学科の「理科」の出題科目に「生物」を加え、「化学または生物から1科目選択」とした。
	一般入試における変更	2026年度入試(2025年度に実施)において、薬学部医療薬学科の「理科」の出題科目に「生物」を加え、「化学または生物から1科目選択」とした。
学生生徒支援	障がい学生支援	「スチューデントサポートセンター」の専属コーディネーターを2025年度より1名増員して支援の充実強化を図った。
財政	募金事業	募金事業として、同志社女子大学サポーターズ募金"ぶどうの樹"を実施した。
	第2号基本金組入計画の変更	教育施設設備環境整備資金2億円の固定資産取得予定年度(2020年度～2026年度から2020年度～2031年度)、これに伴う組入計画年度の延長(最終年度を2026年度から2030年度)及びこれに伴う所要見込総額(12億円から20億円へ)を変更した。
その他	連携事業の促進	・キャリア教育の一環として、ビジネス現場の具体的な課題に対して学生が解決策を検討・提案するPBL科目(科目名:「キャリアのためのプロジェクト演習」)を京田辺・今出川キャンパスで開講し、計48名の学生が受講した。 ・日本女子大学との連携事業として「じぶん発見Festival」を共催し、両大学の学生たち12名(本学学生8名、日本女子大学4名)が参加し、混成グループで交流することで、多様な価値観に触れるなか、自己理解を深める貴重な機会となった。 その他の内容は本文に記載のとおり。
	同志社女子大学創立150周年記念事業	2026年度の創立150周年に向けて2022年度に創立150周年記念事業委員会を設置しており、下部組織である「同志社女子大学のはじまり」編纂委員会、行事等実施委員会において周年事業を計画・実施した。具体的な内容は本文に記載のとおり。

施設設備整備事業の内容　(事業費は2025年度の金額)

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川キャンパス	図書館改修工事(150周年事業)	2025～2026年度	6億1,780万円	2号基本金
	換気・快適性向上 純正館空調設備更新	2025年度	1,716万円	学生生徒納付金
	安全対策 エレベーター耐震対策	2025年度	1,467万円	
	省エネ　LED化推進	2025年度	1,595万円	
京田辺キャンパス	快適性向上　知徳館・聡恵館東館個別空調化	2023～2025年度	11億5,000万円のうち4億2,000万円	
	法令遵守、省エネ　新島記念講堂特定天井改修およびLED化、ヒバードホール特定天井改修	2025年度	1億318万円	
	法令遵守、省エネ　新島記念講堂維持保全対策および空調設備更新	2025年度	4,991万円	
	インフラ安定化 電気設備(受変電設備、分電盤)更新	2025年度	4,091万円	
	省エネ　LED化推進	2025年度	1,973万円	
	安全対策 エレベーター耐震対策	2025年度	1,463万円	

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数　(2025年5月1日現在)

学部・研究科名		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
学部	学芸学部	325	332	1,300	1,319
	現代社会学部	410	423	1,640	1,739
	薬学部	125	139	750	791
	看護学部	90	95	360	367
	表象文化学部	270	313	1,080	1,187
	生活科学部	230	250	920	1,000
	合　計	1,450	1,552	6,050	6,403
研究科	文学研究科	31	10	70	28
	国際社会システム研究科	10	4	20	9
	薬学研究科	4	1	16	6
	看護学研究科	9	6	21	20
	生活科学研究科	13	10	26	25
	合　計	67	31	153	88
専攻科	音楽専攻科	20	10	20	10
合　計		20	10	20	10
総　計		1,537	1,593	6,223	6,501

教員数、職員数　(2025年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
195	579	774	71	80	151	925

同志社中学校・高等学校

Doshisha Junior and Senior High School





中澤 圭（なかざわ けい） 校長

DATA

創立　1875年
所在地　〒606-8558
京都市左京区岩倉大鷺町89
TEL:075-781-7121
URL　https://js.doshisha.ac.jp/

ネットワーク強化の一助となる、大局的な視点に立った学びを創造する

学外との多様なコラボレーションが実現

学びにおいて重視してきた、生徒の気づきや成長を喚起する“社会とつながり”を、2025年度はさらに拡充しました。

新たな取り組みの一つは、同志社大学サイエンスコミュニケーター養成副専攻との連携です。国際賞「京都賞」の意義や魅力を広めることを目的とした“京都賞企画”を展開しました。サイエンスコミュニケーターとは、研究者と一般の人々との間に立ち、科学を分かりやすく伝える役割を担う人のこと。受賞した研究内容について、学生から高校の有志生徒に解説してもらったり、生徒から受賞者の方に英語で質問したりする機会を持ちました。

企業との新たな連携としては、書店とのコラボレーションが挙げられます。きっかけは高校の「国語表現法」で、個々が手作りした本冊子。2025年度、書店からそのクオリティを評価していただき、書店併設のギャラリーにて作品展を開催していただきました。

さらに同志社中高同窓会との共同企画として、同志社150周年記念イベントを実施。中高の有志生徒が、各分野で活躍する卒業生によるパネルディスカッションを聴講しました。

設備を更新し、学びの環境をバージョンアップ

2025年度より各種設備のリニューアルに着手しました。まずは中学の教室の電子黒板や、「知創館」にある高校生用パソコンを一新。次年度は、中学校の図書・メディアセンターや高校の教室などの設備について検討し、更新を順次進めていく予定です。

世界中に広がるアソシエーションの一員として

同志社は元々、志を同じくする者が集う結社です。学校は、その志の表現の一つに過ぎません。同志社とはいわば、卒業生をはじめ関わりのあるすべての人によって構成されるアソシエーションといえるでしょう。150年という歴史の中で築かれた同志社のネットワークは今や、葡萄の木の枝のように世界中に張り巡らされています。それは例えば、誰かがどこかで何かに挑戦する時、一人ぼっちではないということ。同志社が進むべき未来に向けた次のステップは、そうした枝一つひとつを強化し、太い幹へと育てていくことではないでしょうか。その一助となるべく、社会に広く開かれた学校づくりに邁進したいと考えています。

同志社中学校・高等学校 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	高等学校 英語科専任教員 1名 高等学校 専任職員 1名	退職者補充 新規採用
教育・研究	高等学校 土曜日特別補講	2年生対象（国語・数学・英語）、 3年生対象（化学）
	高等学校 短期交換留学	オーストラリア・ウェズリーカレッジへ 1年生派遣及び受け入れ
	高等学校 国際交流プログラム	ヌエバスクール受け入れ・派遣
	高等学校 研究誌発行	彰栄別冊「教育・実践研究」
	中学校 国際交流プログラム	ヌエバスクール受け入れ・派遣 オーストラリア語学研修等
	中学校 「同中学びプロジェクト」	ワークショップ、フィールドワーク、工作、実験、研究室・企業訪問等
学生生徒支援	奨学金制度	給付:四方秀和奨学金 同志社高等学校特別奨学金 同志社中学校新島基金・新島会奨学金 同志社中学校司鐘担当奨学金 貸与:同志社高等学校学資貸与金 同志社中学校桑の実貸与奨学金
	修学支援事業	あんしん修学支援金

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
情報通信環境整備	ネットワーク管理サーバ更新	2024年度	744万円	特定支出準備金
	認証システム更新	2024年度	413万円	
教職員PC更新	中学校教職員PC更新	2024年度	2,743万円	
校務システム更新	高等学校校務システム第3期更新追加	2024年度	219万円	

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数（2025年5月1日現在）

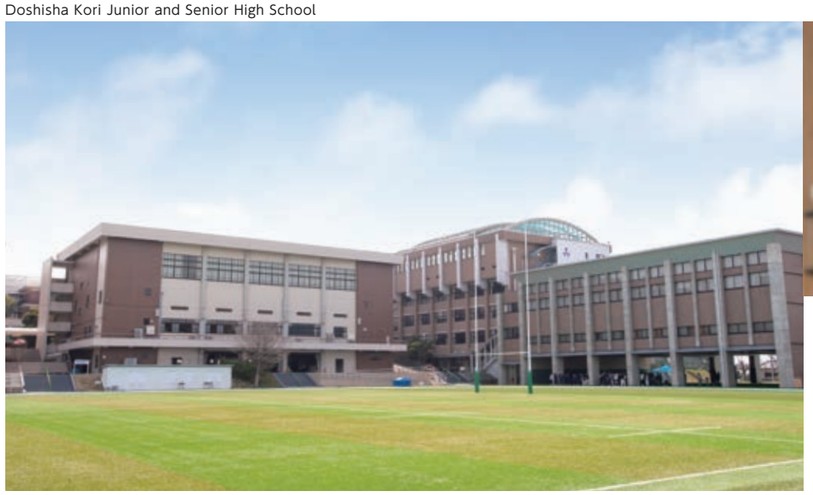
	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	288	292	864	875
高等学校	360	365	1,080	1,088
合　計	648	657	1,944	1,963

教員数、職員数（2025年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
81	72	153	12	11	23	176

同志社香里中学校・高等学校

Doshisha Kori Junior and Senior High School





瀧 英次（たき えいじ） 校長

DATA

創立　1951年
所在地　〒572-8585
大阪府寝屋川市三井南町15-1
TEL:072-831-0285
URL　https://www.kori.doshisha.ac.jp/

「世界に通用するしなやかな人間力の涵養」の具現化を目指す

海外交流プログラムのバージョンアップを推進

2025年度は海外交流の新プログラムとしてバリ島研修を実施しました。テーマは『『地球にとっての人・自分の役割って何だろう』を考える』。現地の課題・活動など“リアル”に触れた上でチームごとに設定した仮説に沿ってアクションプランを練り、施設・団体でのインタビューを通して自然との共生について考えました。

また、高2のハワイ修学旅行では様々な学校との交流を行っていますが、2025年度は新たな訪問先を開拓。トップ校の一つ、イオラニハイスクールを加えた全5コースに分かれて活動しました。

2025年度は、海外プログラムに参加した生徒がコンテストで受賞したり、その逆のパターンも見られたりと、自信や挑戦心を育む、学びにおける相乗効果を実感した年でもありました。今後も体験の質を追求した良いプログラムづくりに取り組んでいく所存です。

生徒参加型の広報活動が定着

広報活動においては、受験生や保護者の方に未来のストーリーを描けるよう、生徒の生き生きとした姿を見ていただくことを重視。2025年度も、2024年度から始めた生徒主体のオープンキャンパス「香里プレゼンテーション」を開催しました。ポスター制作も生徒と共に進めており、2026年度のデザインは生徒の応募作品から選出したものです。協力してくれる生徒・卒業生の姿から感じるのは「学校のために」「受験生のために」という姿勢。後輩たちにその思いをつなぐ、良い循環が生まれていると感じます。

三つの教育理念すべてを体現した教育を貫くために

同志社創立150周年は、歴史や伝統が多くの人々によって紡ぎ出されるものであることを再認識する機会となりました。良心教育の実践は、キリスト教主義・自由主義・国際主義が三位一体となってこそ成し得るもの。三つの柱を体験して初めて、生徒たちは成長を遂げることができるのです。そうした本校の思いを明文化したのが「VISION2030」。教育の変革期にあっても明確なビジョンを持ち、「VISION2030」に掲げた「世界に通用するしなやかな人間力の涵養」を具現化することが使命であると考えています。

同志社香里中学校・高等学校 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員 2名 採用	英語科 2名
教育・研究	海外交流プログラム	年間留学生派遣（1年間） 6名（AFS2名、YFU4名）
		留学生受け入れ（半年間） 2名（AFS1名、YFU1名）
		夏期カナダ語学研修プログラム（21日間） 34名
		オーストラリア・ピンブルレイディースカレッジ短期交換留学プログラム（30日間）2名
		夏期バリ島サスティナブル探求プログラム（9日間） 13名
		ニュージーランドターム留学（3か月間、中学生） 7名
		アメリカ・サンフランシスコ　ヌエバスクール交流プログラム（高校生4名、中学生7名）
		アメリカ・サンフランシスコ ヌエバスクール 受け入れ 高校生4名、中学生7名
		春期イギリス語学研修プログラム（11日間）19名
	国際交流イベント"The Small Planet 2025"	12月13日（土）に実施。留学報告発表、校内英語スピーチコンテストを実施。愛知県安城市で外国にルーツを持つ子どもたちの支援団体「あんじょうまざりん」の代表を務める本多悦子さん（日本語学校・県立高校・行政委託事業で日本語指導、語学支援に従事）による講話を聴講。
	アドバンス講座	登録生無しのため中止
	キャリア教育	中学3年生のリベルタスの時間に、様々な分野で活躍する社会人講師を招き、実践的キャリア教育を実施。
	人権アッセンブリー	7月18日（金）実施。明治大学法学部教授 村上和弘氏より「NHK朝ドラ「虎に翼」に描かれた日本国憲法第14条とジェンダー」というテーマで講演いただいた。高校生と中学3年生は香真館（講堂）で聴講、中学2年生は教室でライブ配信視聴。
	福祉体験授業	10月21日（火）と22日（水）に中学1年生を対象に寝屋川市福祉協議会・ボランティア団体・PTAの協力で車椅子体験学習を実施。
学生生徒支援	同志社香里高等学校就学支援奨学金	大阪府の就学支援推進校指定に伴う授業料負担分
	学内奨学金（給付制）	同志社香里奨学金・同志社香里PTA奨学金・同志社校友会支援金

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	WBGT熱中症監視システム設置	12月	約134万円	学生生徒納付金
	雷警報装置	7月～1月	約507万円	
校舎整備事業	第二体育館空調設備設置工事	7月～11月	約4,700万円	学生生徒納付金・補助金

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数（2025年5月1日現在）

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	249	720	763
高等学校	315	307	945	911
合　計	555	556	1,665	1,674

教員数、職員数（2025年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
66	45	111	7	14	21	132

同志社女子中学校・高等学校

Doshisha Girls' Junior and Senior High School





なかむら くみこ 中村 久美子 校長

DATA

創立　1876年
所在地　〒602-0893　京都市上京区
今出川通寺町西入玄武町602-1
TEL:075-251-4305
URL　https://www.girls.doshisha.ac.jp/

女子校のメリットを最大限に活かしながら、真の学びの追求へ

多文化共生社会に貢献する人を育む教育を実践

本校では、キリスト教主義に基づいた人のために輝ける女性を育む教育の一環として、礼拝を大切にしています。毎朝の礼拝・終礼で祈りを捧げるとともに、同志社創立150周年を冠したものを含む様々な特別礼拝を守りました。また近年は、国際交流に高い関心を持つ生徒のニーズに応えるべく、希望者を対象とした海外語学研修・留学プログラムの拡充に注力しています。2025年は新たに、他校との合同プログラムとして、ブリティッシュコロンビア大学の学生寮に滞在するカナダ・バンクーバー研修を実施しました。

より良い教育を創造するプロジェクトが活性化

本校では大学進学後を見据え、各教科における探究的な授業が浸透しているほか、中学の総合的な学習の時間には科学的な視点を育む学びを盛り込んだカリキュラムを展開しています。本校の魅力アップを目的に、中堅・若手の教員が中心となり、目指す生徒像や育成手法をはじめとするファンダメンタルな議論も行っています。

女子校としての良き伝統を継承するために

2026年、同志社女子部は創立150周年を迎えます。それに先駆けて校舎のリニューアルを計画的に進めてきました。加えて2025年は学校案内動画を一新したほか、2種のロゴを作成して広報活動に使用。本校の150周年史の編纂にも着手しました。在学中の生徒の保護者によって組織される「父母の会」と同窓会「同志社ゆかりの会」からは、計3台のグランドピアノをご寄付いただいています。2026年は生徒主体の記念イベントの開催を予定しており、生徒たちがどのようなプランを提案してくれるのか、今から楽しみです。

女子校を取り巻く環境が厳しさを増していく中でも、女子校ならではのメリット、進路に応じた2コース制という特色を最大限に活かした教育活動を貫く姿勢に変わりはありません。次代に即したビジョンを打ち立て、その実現に向けたさらなる授業力アップ、より良い授業づくり、選ばれる学校づくりに邁進していきたいとの思いがあります。女子部創立150周年を一つの契機とし、女子部や本校の歴史を再確認しながら、未来への確かな歩みを進めていく所存です。

同志社女子中学校・高等学校 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員1名	社会1
教育・研究	国際交流プログラム	スプリングイングリッシュプログラム(中1) 東京国内語学研修(中2・中3) 国際交流講演会(中学) オーストラリア語学研修(中2・中3) ニュージーランドターム留学(中3) ヌエーバ校派遣プログラム(中3) ヌエーバ校受け入れプログラム(中学) イギリス語学研修(高2・高3) カナダバンクーバー研修(高校)
	TOEIC受験	高校1年生 Bridge、2年生BridgeおよびIP、3年生 IP
	新入生交流プログラム	中学1年生修養会(2泊3日 ユントピア穂山)
	宗教交流プログラム	中学2年生・3年生修養会、高校修養会(希望者1泊2日　びわこリトリートセンター)
	福祉教育プログラム	車椅子バスケット体験・交流授業、収穫感謝の日福祉施設訪問
	芸術鑑賞	劇団四季(全校生徒)
	チューター制度	本校卒業生の指導による中学生の英語・数学の学力向上
入試制度	中学 前・後期日程実施	志願者 前期259名 後期342名 自己推薦66名
学生生徒支援	奨学金制度	同志社女子中学校・高等学校奨学金(給付5名、貸与1名)
		古田務奨学金(給付2名)、金岡利子奨学金(給付2名)
	修学支援事業	あんしん修学支援奨学金(給付116名)
	クラブ活動費補助	全国大会等学校が認めた行事への活動費補助を強化
財政	特定支出準備金繰入	教育機器整備準備金1,000万円と、女子部創立150周年記念事業4,000万円を繰り入れ 教育機器整備準備金より約2,829万円(各教室のプロジェクター更新、電子黒板導入、図書館生徒用PC更新等)と、女子部創立150周年記念事業より約1,998万円を取り崩し
	第2号基本金組入	教学施設整備資金1億円
その他	学校説明会・見学会	小学生、中学生、父母等参加

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
校地整備	体育科準備室改修工事	2025年度	4,795万円	学生生徒納付金経常
	ダンス室スロープ設置工事	2025年度	1,989.9万円	
	150周年事業(静和館改修)	2025年度	1,997.6万円	
教育環境整備	普通教室・特別教室プロジェクター更新	2025年度	1,272.5万円	
	職員・嘱託講師・教科・図書等PC更新	2025年度	1,900.6万円	

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数　(2025年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	246	720	728
高等学校	270	271	810	803
合　計	510	517	1,530	1,531

教員数、職員数　(2025年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
67	35	102	9	25	34	136

同志社国際中学校・高等学校

Doshisha International Junior and Senior High School





にしだ きくお 西田 喜久夫 校長

DATA

創立　1980年
所在地　〒610-0321
京都府京田辺市多々羅都谷60-1
TEL:0774-65-8911
URL　https://www.intnl.doshisha.ac.jp/

すべての教育活動の礎となる、安全管理体制の強化に全力を注ぐ

より多様な国際交流プログラムの実現に向けて

本校の国際交流プログラムは、語学研修と異文化体験を兼ねたものと、高い英語力を有することを前提としたものの、大きく2つに分けられます。以前から欧米のプログラムを展開してきましたが、これらの費用高騰を受け、近年は欧米以外の地域の交流校の開拓を進めています。2025年度は、新たにオーストラリアのプログラムをスタート。また、アジア圏の学校の下見を行いました。今後は、アジア圏の交流校選定に向けて世界情勢の変化を踏まえて検討を重ねるとともに、特にニーズの高い短期留学先の開拓を加速させたいと思っています。

本校の特徴である帰国生と国内一般生徒がともに学び、国際社会で通じる自己を形成していくための教育を追求していきたいと考えています。

探究学習・情報教育のブラッシュアップを推進

新しい教育のあり方を追求する「教育開発センター」が中心となり、“主体的・対話的で深い学び”のさらなる充実を図ってきました。その実践の一つが、高校の各学期に設定した「探究の日」における取り組みです。高1はSSS(Sustainable Society Study)という形で年間を通して「まちづくり」について探究。京田辺市長による講演を聴講したり、生徒の考えた京田辺市のまちづくり案を市役所職員に講評していただいたりと、地域とも関わる形で取り組んでいます。

並行して、DXハイスクール(高等学校DX加速化推進事業)指定校として、プログラミング学習では、3Dプリンターやドローンといった先進的な機器を導入。それらを自らの手でプログラミングして操作するという、机上の情報教育とは異なる“実社会に直接つながる学び”を展開しています。

教育活動の基盤を成す安全管理の徹底が急務

昨年度末、本校の研修旅行において発生した海難事故により、生徒1名の尊い命が失われ、生徒16名が負傷する事態となりました。このような痛ましい惨事を防げなかったことは、大切なお子様をお預かりする立場として、痛恨の極みであります。ご遺族の皆様、また負傷された生徒や関係者の皆様に深くお詫び申し上げますとともに、本校として、再発防止のための安全管理体制の徹底的な見直しを行ってまいります。

同志社国際中学校・高等学校 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	ワールド・ワイド・ラーニング採択	高度かつ多様な科目内容の開発と実践
	高等学校DX加速化推進事業	ICTを活用した文理横断的・探求的な学びの強化
	国際交流プログラムの実施	NUEVA MIDDLE SCHOOL交換プログラム(8名)
		NUEVA UPPER SCHOOL交換プログラム(6名)
		Phillips Academy Andover Summer Session(3名)
		International Summer Program UK(26名)
		Spring Program Australia(15名)
		Harvard Summer School Secondary School Program(2名)
		Summer Program in Boston & Amherst(11名)
		WSC program in korea(15名)
	校内英語試験の実施	生徒全員が実用英語検定またはTOEFLを受験
	平和教育	中学2年生 長崎研修旅行
		高校2年生 沖縄研修旅行
学生生徒支援	奨学事業の実施	海外長期留学奨学金(給付5名) First Semester留学奨学金(給付4名)
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援金(給付83名)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
有隣館整備事業	更衣室・トレーニングルーム冷暖房設備設置工事	2025年6月7月	891万円	学生生徒納付金

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数　(2025年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	130	121	420	401
高等学校	270	271	810	815
合　計	400	392	1,230	1,216

教員数、職員数　(2025年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
55	83	138	7	18	25	163

同志社小学校

Doshisha Elementary School





内山 伊知郎（うちやま いちろう） 校長

DATA

創立	2006年
所在地	〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷺町89-1 TEL:075-706-7786
URL	https://www.doshisha-ele.ed.jp/

約20年にわたる蓄積により形づくられた道草教育の発展に力を尽くす

本校の基盤となる道草教育の意義を再確認

発達段階に応じた知徳体の全人教育を実践する同志社一貫教育において、小学校は極めて重要な位置づけにあります。その基盤となるのが、児童の心を動かす道草教育。互いの個性や考えを尊重し、伸び伸びと楽しみながら学ぶ中で、知識・興味・視野を広げ、知的好奇心や意欲を引き出していく教育です。

道草教育を通して育まれる力は、実に多岐にわたります。例えば、タブレット端末の活用と並行してノートをきちんと取る。目標設定や評価は個々の状況に合わせて行う。そうした“丁寧さ”の中で、仲間と共に学び、共感し、互いにアシストもしながら成功体験を重ねます。結果、基礎学力はもちろん、主体性、努力する姿勢、コミュニケーション能力、思いやりの心、仲間との絆といった、生きていく上での礎を着実に築いていきます。

道草教育の意義を実感させてくれるものの一つが卒業生の存在です。2025年春の高校卒業者を含め本校卒業生には、小学校時代の成績の良し悪しに関わらず難関大学合格者が多数います。自己管理力や目標に向かって頑張る力による賜物でしょう。それらは人生のあらゆる場面に応用できるものであると確信しています。

国内外の連携のさらなる拡充を推進

本校では国際交流の場を数多く設けています。2025年度は、コロナ禍以前に交流実績のあった台湾・国立台東大学附属小学校への訪問が復活しました。また本校は、トロント大学教育研究チームが研究対象とする日本の3校の一つです。研究対象の学校同士のつながりから、タイの国立小学校との交流も実現しました。

卒業生や教員のネットワークを起点に、首都圏私立小学校との連携・交流も生まれつつあり、現在、検討を進めているところです。

法人内の交流としては、同志社150周年記念事業として実施されたアメリカツアーへの参加があります。有志児童がグレイス教会での記念集会等に出席しました。その際に児童が着用していたTシャツは、本校が150周年に向けた取り組みの一環として作ったものです。2025年度の「スポーツフェスティバル」ではプログラムの一つとして全校児童によるマスゲームを復活。教員・児童がおそろいのTシャツを着用し、全校で150周年を体感しました。

唯一無二ともいえる教育こそが本校の強み

2026年4月より「同志社小学校アフタースクール」がオープンします。学童保育と英語・スポーツ関連のプログラムを提供する施設で、すでに多くのご家庭からお申込みいただいています。

今後も、選ばれる学校づくりを推し進めていく姿勢に変わりはありません。本校を特徴づける、教員が一人ひとりの児童に向き合い柔軟かつきめ細かく指導する道草教育の継続とたゆみない発展をもって、良心教育を体現していきたいと考えています。

同志社小学校 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育研究	宿泊体験学習	学年毎の合宿実施 4年生:琵琶湖 5年生:熊本・長崎 6年生:修学旅行が宿泊体験学習を兼ねる
	修学旅行	6年生:北海道
	国際交流・国際理解教育	同志社大学の留学生を招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施するとともに友好協定を締結した海外の小学校との交流活動を積極的に進めた
	大学附属を生かした教育活動	今出川校地で課外活動などを実施した
児童支援	奨学事業の実施	同志社小学校奨学金の給付
財政	同志社小学校教育支援および施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
施設整備	同志社小学校放課後学童施設新築等工事	2025年度	3億8,000万円	学生生徒等納付金、寄付金、特定支出準備金
	明心館空調更新工事（2期）	2025年度	4,601万円	
	エレベーター改修工事	2025年度	418万円	
設備整備	給食室回転釜更新	2025年度	341万円	
情報環境整備	校務システム教職員用iPad端末リプレイス	2025年度	52.7万円	
備品整備	印刷機の更新	2025年度	85.8万円	
	給食食器の整備（2種類）	2025年度	199万円	
施設整備	エレベーター改修工事	2025年度	341万円	

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数 （2025年5月1日現在）

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
小学校	90	89	540	536

教員数、職員数 （2025年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
28	15	41	2	3	5	46

同志社国際学院

Doshisha International Academy - DIA





和田（わだ） 喜彦（よしひこ） 校長

DATA

創立	2011年
所在地	〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1 TEL:0774-71-0810
URL	https://www.dia.doshisha.ac.jp/

建学の精神を礎として、次代を担う人材を育むことが使命

初等部（DIAES）の教育内容と児童募集

初等部では、「一条校」「バイリンガル教育」「探究的な学び」を三本の柱としています。バイリンガル教育は、6年間を通じて約50%の授業を英語で実施します。探究的な学びは、2019年IB（国際バカロレア）にPYP（Primary Years Programme）校として認定されたものです。2025年度も引き続き、三本柱の充実に取り組みました。

児童募集に関しては、新1年生入学試験と年2回の編転入試を行うことにより、各学年における定員の充足を図っています。また、本校の教育を知っていただく機会として、2025年度は学校説明会、個別相談会、PYPエキシビジョン一般公開を実施しました。

国際部（DISK）の教育内容

国際部DISK（Doshisha International School, Kyoto）は、インターナショナルスクールとして、すべての授業を英語で行っています。また、IB（PYP・DP（Diploma Programme））認定校として、国際基準の教育環境にあります。現在、9年生以上の学年に生徒が在籍中（新入生募集停止）です。

初等部の校外/宿泊学習・探究学習

今年度は全学年、大阪・関西万博へ校外学習に行きました。2年生以上は宿泊学習を実施しました。2年生は滋賀県、3年生は奈良県川上村、4年生は京都府美山町・宮津市、5年生は東京・群馬方面へ。6年生は修学旅行として熊本・広島方面を巡りました。

6年生による探究型学習の集大成として、1月28日～30日にPYPエキシビジョンを開催しました。今年度も一般公開には、300人以上のお客様に来校いただきました。

大きな変化の時代だからこそ「良心教育」を

同志社は創立150周年を迎えました。一方、同志社国際学院は2026年度に創立15周年を迎えます。

今日、国際情勢は流動化し、将来が見通せなくなってきています。さらに、AI（人工知能）をはじめとする新たな科学技術が急速に進展し、社会のあり方そのものを変えつつあります。このような大きな変化の時代は、明治維新の転換期を想起させます。これまでの知識や常識だけでは対応できない時代に、私たちは生きています。だからこそDIAは、江戸時代末期から明治期への激動期を生き抜いた同志社創立者・新島襄の建学の精神を受け継ぎ、一人ひとりが良心に基づき行動し、すべての人々のウェルビーイングの実現に貢献できる人物を育ててまいります。

同志社国際学院 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織	初等部宿泊体験学習	2年生:滋賀、3年生:川上村（奈良）、4年生:美山・宮津、5年生:東京・群馬、6年生:熊本・広島
	PYPエキシビション	初等部6年生による探究学習の集大成として卒業研究発表会を1/28～30に実施
	IBワークショップ	国際バカロレア教育プログラム理解・促進のため、教員のIBワークショップへの参加、及び学内研修会の実施
	※国際部　2018年9月入学者から生徒募集停止	
児童・生徒支援	同志社国際学院奨学金	校友会寄付金及び新島基金奨学金を財源とする
	同志社国際学院国際部生徒に係る高等学校等就学支援金相当の助成	
	同志社国際学院国際部大学進学関係試験に係る受験料助成	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
施設整備	ICTシステムリプレース（クライアントPC、ネットワーク機器等（事務用、教員用）リプレース）	2025年度	4,922万円	学生生徒等納付金・寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数 （2025年5月1日現在）

			入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
国際学院	初等部		60	59	360	353
	国際部	grade8～12	25	0	125	18

教員数、職員数 （2025年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
38	5	43	2	4	6	49

同志社幼稚園

Doshisha Kindergarten





矢田（やた） 貴美代（きみよ） 園長

DATA

創立　1897年
所在地　〒602-0844 京都市上京区寺町通石薬師下る染殿町665番地1
TEL:075-748-0027
URL　https://kinder.doshisha.ac.jp/

一貫教育の入口として、良心とすべての学びの礎を築く学びを実践

連続する生活における積み重ねを大切にする学び

幼稚園の学びにおいては、日常生活の中で体験を積み重ねていくことを大事にしたいとの思いがあります。そこで2025年度より新たに、保育時間の中に「探求の時間」「協同の時間」を設けました。

前者は、遊びを生み出す時間で、園児一人ひとりが「好き」を見つけて自由に遊ぶプログラムです。園庭で虫を探したり、花で色水ジュースを作ったり、鬼ごっこをしたり、家庭から寄せられた空き箱などを使った廃材制作をしたりと、人それぞれ。得意なことを発見するきっかけや興味関心を広げる機会ともなる、大切なひとときです。そして後者は、遊び込む時間で、友だちと一緒に過ごし協力するプログラム。礼拝や各クラスでの保育・活動、異年齢での合同保育などがこれにあたり、幼稚園の醍醐味といえるでしょう。

共通しているのは、言われたことをやるのではなく能動的に取り組んでいる点。自信が芽生える様子が見られ、こうした学びこそが、小学校以降の主体的な学習・探究的な学びや生きる力につながると考えています。

新たな二つの試みを取り入れて運動会を実施

2025年度の運動会における園児全員によるダンスの練習において、同志社大學應援團チアリーダー部の方にご協力いただきました。まずは演技を披露していただき“本物”の魅力に触れた上で、ポンポンを持っての練習を開始。指導もしてくださり、園児たちの意欲はもちろん、楽しむ気持ちもアップしました。

また、運動会当日は、年長組の園児が交代でアナウンスを担当。本番のためにしっかりと暗記してくれました。これからも、園児と一緒に行事を創り上げる機会を設けていきたいと思っています。

猛暑に備え、園庭へのテント設置を計画中

猛暑日が続いた2025年の夏は、園庭でのどろんこ遊びやプール遊びなどが十分にできませんでした。そこで2026年夏に向けて現在、園庭の一部にテントを張れるよう準備を進めているところです。2026年度は「探求の時間」における外遊びを含め、園児がワクワクするような保育環境で夏を迎えることができそうです。

本園ならではの学びを発信し、選ばれる場所へ

広報活動を通して痛感しているのが、同志社一貫教育の入口という重要な位置づけにある本園の魅力がまだまだ認知されていないという事実です。2025年度より保護者対象の園だよりに園長コラムを設け、本園の学びについて発信しています。

また、2026年度からは広報活動を強化。本園での生活や在園児との触れ合いを体験していただける未就園児対象の「こひつじクラス」は、0歳から参加可能とし、月2回の定期的な実施を予定しています。

2025年度、2年後に迫った本園創立130周年に向けた事業の一つとして、オリジナルグッズや記念冊子の制作が始動しました。園の歴史を振り返る中で高まるのは、この伝統を受け継がなければという思い。真に選ばれる園を目指すべく、教育のさらなる可視化と発信に努めます。

同志社幼稚園 2025年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員の園長採用 嘱託教諭 3名採用	教育充実のため必要な教職員採用
教育・研究	専門講師による英語キッズ・体操キッズを全園児が学ぶ。	全園児対象に、専門講師から指導を受ける。
	一人ひとりの特性を育む。	縦割のチームで、園児の得意とする内容に分かれて取り組む。
財政	教育援助募金	教育内容を充実するために募集

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
施設整備	保育室内整備	2025年度	68万円	園費・補助金

入園定員、入園者数、収容定員、在籍者数　（2025年5月1日現在）

	入園定員	入園者数	収容定員	在籍者数
幼稚園	30	22	100	85

教員数、職員数　（2025年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託教員	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
1	6	7	0	3	3	10

沿革 History

1875（明治 8）年 11月29日	官許「同志社英学校」を開校 新島襄初代社長に就任
1876（明治 9）年　9月	今出川校地（相国寺門前の薩摩藩邸跡）に 校舎、食堂を建て寺町から移る
10月	京都御苑内の旧柳原邸 （現・京都迎賓館の一部）で女子塾を開設
1877（明治10）年　4月	同志社分校女紅場を開設
9月	女紅場を同志社女学校と改称
1883（明治16）年　2月	「同志社社則」を制定
1884（明治17）年　4月	新島、2度目の海外旅行に出発（翌年12月帰国）
9月	同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工 （国の重要文化財）
1886（明治19）年　6月	新礼拝堂（チャペル）竣工（国の重要文化財）
1887（明治20）年 11月	書籍館（現・有終館）開館（国の重要文化財） 同志社病院・京都看病婦学校の開院、開校式
1888（明治21）年 11月	「同志社大学設立の旨意」を 全国の主要雑誌・新聞に発表
1890（明治23）年　1月23日	新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠（46歳）
7月	アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの 寄付によるハリス理化学館竣工（国の重要文化財）
9月	ハリス理化学校開校
1891（明治24）年　9月	政法学校開校
1892（明治25）年　6月	[女学校]本科を普通科、高等科を 専門科（師範科、文学科、神学科）に改める
1893（明治26）年 10月	同志社徽章（校章）を制定
1894（明治27）年　1月	神学館（現・クラーク記念館） 開館式（国の重要文化財）
1896（明治29）年　4月	普通学校を同志社高等普通学校と改称し、 新たに同志社尋常中学校を開設
1897（明治30）年　3月	M.F.デントン、出町幼稚園 （現・同志社幼稚園）を開園
1900（明治33）年	出町幼稚園を今出川幼稚園と改称
1901（明治34）年　3月	[女学校]普通科を高等普通部と改め、 新たに専門学部を設置
1904（明治37）年　4月	専門学校令による神学校と専門学校を開校 政法学校廃校
1906（明治39）年　4月	同志社病院・京都看病婦学校閉鎖 ハリス理化学校廃校
1908（明治41）年	同志社カレッジソングができる
1912（明治45）年　4月	専門学校令による同志社大学 （予科、神学部、政治経済学部、英文科）、 女学校専門学部（英文科、家政科）を開校
1920（大正 9）年　4月	大学令による同志社大学 （文学部、法学部、大学院、予科）の開校
1922（大正11）年　4月	専門学校令による大学を専門学校 （神学部、英語師範部、高等商業部、 政治経済部）として再編成
1928（昭和 3）年　1月	[女学校]普通学部を女学校高等女学部と改称
1929（昭和 4）年　4月	[専門学校]高等商業部を岩倉に移転
1930（昭和 5）年　6月	[女学校]専門学部を女子専門学校と改称
9月	[女学校]普通学部を高等女学部と改称
12月	[専門学校]高等商業部を高等商業学校と改称
1943（昭和18）年　4月	中学校令による中学校開校
1944（昭和19）年　4月	工業専門学校 （電気通信科、機械科、化学工業科）開校
1947（昭和22）年　4月	新学制により新制中学校、女子中学校発足
1948（昭和23）年　4月	新制大学（神学部、文学部、法学部、経済学部） 新制高等学校、新制定時制商業高等学校、 新制女子高等学校を設置
1949（昭和24）年　4月	商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる 女子大学（学芸学部）開校 高等学校が岩倉校地へ移転
1950（昭和25）年　4月	[大学]大学院修士課程 （神・文・法・経済・商各研究科）を開設 [大学]短期大学部（夜間2年制） （英語・商経・工各学科）を開設
1951（昭和26）年　3月	[大学]教養学部解散（1948年4月発足）
9月	香里学園を合併し、香里中学校、同高等学校を開校
1953（昭和28）年　4月	[大学]大学院博士課程開設
1954（昭和29）年 4月	[大学]短期大学部を発展的に解消、大学2部（4年制） （文・法・経済・商・工各学部）を開設
1955（昭和30）年 4月	[大学]工学研究科修士課程開設
1967（昭和42）年 4月	[女子大学]文学研究科修士課程開設
1968（昭和43）年 4月	[女子大学]家政学研究科修士課程開設
1975（昭和50）年 4月	創立100周年を迎え、記念事業を行う [女子大学]文学研究科博士後期課程開設
1976（昭和51）年 3月	商業高等学校廃校
1980（昭和55）年 4月	国際高等学校開校
1986（昭和61）年 4月	田辺校地（現・京田辺校地）開校 大学・女子大学の授業が開始 [女子大学]短期大学部開設
1988（昭和63）年 4月	国際中学校開校
1989（平成 元）年 4月	[女子大学]学芸学部に 日本語日本文学科開設
1991（平成 3）年 4月	[大学]アメリカ研究科開設
1994（平成 6）年 4月	[大学]工学部および工学研究科、 理工学研究所を田辺校地（現・京田辺校地）に統合移転
1995（平成 7）年 4月	[大学]総合政策科学研究科開設
1997（平成 9）年 4月	[大学]昼夜開講制を実施
1999（平成11）年 4月	[大学]留学生別科を開設
2000（平成12）年 4月	創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学]現代社会学部開設、短期大学部募集停止
2002（平成14）年 4月	[女子大学]学芸学部に情報メディア学科開設 [香里中学]共学化
2004（平成16）年 4月	[大学]政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、環境システム学科開設 司法研究科（法科大学院）開設 ビジネス研究科（ビジネススクール）開設 [女子大学]現代社会学部に現代こども学科開設 国際社会システム研究科開設
2005（平成17）年 4月	創立130周年を迎え記念事業を行う [大学]文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学]薬学部開設
2006（平成18）年 4月	同志社小学校開校
2007（平成19）年 4月	[大学]文化情報学研究科開設 [女子大学]学芸学部に国際教養学科開設
2008（平成20）年 4月	[大学]生命医科学部開設、スポーツ健康科学部開設、 工学部を再編し理工学部開設、 理工学部に数理システム学科開設、生命医科学研究科開設
2009（平成21）年 4月	[大学]心理学部・心理学研究科開設 [女子大学]表象文化学部開設
2010（平成22）年 4月	創立135周年を迎え記念事業を行う [大学]スポーツ健康科学研究科開設、 グローバル・スタディーズ研究科開設 [中高]中学校・高等学校統合
2011（平成23）年 4月	[大学]グローバル・コミュニケーション学部開設 同志社国際学院開校
2012（平成24）年 4月	[大学]脳科学研究科開設 工学研究科を理工学研究科と改称 [女子大学]薬学研究科開設
2013（平成25）年 4月	[大学]グローバル地域文化学部開設 [女子大学]音楽専攻科開設
2014（平成26）年 4月	[大学]ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 修士課程開設
2015（平成27）年 4月	創立140周年を迎え記念事業を行う [女子大学]看護学部開設
2017（平成29）年 9月	[大学]留学生別科廃止 [大学]アメリカ研究科廃止
2018（平成30）年 4月	[女子大学]看護学研究科修士課程開設
2020（令和 2）年 4月	[女子大学]看護学研究科博士後期課程開設 [幼稚園]移転
2024（令和 6）年 3月	[大学]グローバル教育センター及び日本語・日本文化教育センターを国際教養教育院に再編 理工学部実験実習センター廃止
2025（令和 7）年 3月	[大学]総合政策科学研究科技術・革新的経営専攻一貫制博士課程廃止

（2026年4月1日現在）

財務の概要

2025年度決算の概要

2025年度は、世界各地では紛争が長期化し、不安定な世界経済や先行き不透明な国内情勢が続いていますが、本法人においては、創立150周年を迎え、大学の「同志社大学ビジョン2025」、女子大学の「Vision150」を着実に実行し、良心教育を基軸とした教育研究活動の高度化、活性化を推し進める一年となりました。

法人内各学校の学生・生徒・児童・園児数は、特に大学および女子大学では入学定員を厳格に管理しつつ、2024年度の42,568名から本年度は391名増加の42,959名（各5月1日現在）となり、学生生徒等納付金の安定的収入を確保することができました。

また、主に大学における入学志願者数の見込からの増における手数料の増収、同志社創立150周年記念事業募金、同志社大学 2025 ALL DOSHISHA募金や同志社女子大学サポーターズ募金“ぶどうの樹”、などによる寄付金の増収、主に大学、女子大学における経常費等補助金の増収、受取利息・配当金の増収、私立学校施設整備費補助金の受入によるその他の特別収入の増収などにより、事業活動収入計は予算を大きく上回る額を確保することができました。

支出では、人件費はやや予算額を下回りましたが、教育研究経費及び管理経費は、執行増により予算額を超過しました。また、施設設備整備事業では、大学の今出川新図書館改築工事、スポーツ・コンプレックス建設工事および京田辺キャンパスリニューアル工事、女子大学の今出川図書館改修工事などを実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の本学の財政状況を説明します。

（文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入等調整し、百万円単位で表しています。）

学校会計の用語解説

学校法人が作成する書類

学校法人は、私立学校法に基づき計算関係書類を作成しなければなりません。計算関係書類のうち、主要なものとして貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、活動区分資金収支計算書を掲載しています。

学校会計と企業会計

企業会計の計算書類の主な目的は経営成績を明らかにして利益を測定することですが、学校会計の計算書類では収支の対応を明示して財政の均衡状態を表すことに主眼が置かれています。教育研究活動を事業目的とする学校法人は公共性が高い公益法人であり、その安定性、継続性が強く求められていることから、学校法人会計基準も長期にわたる収支の均衡を求める内容となっています。

貸借対照表

一定時点（3月末現在）の財産の状態を明らかにするものです。

1 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実と既存建物の取替更新により推移してきました。2019年度は、女子大学いづみ寮、幼稚園シャローム・ハウス、2020年度は大学致遠館、2021年度は大学継志寮、香里中学校・高等学校繋真館などを整備しました。2022年度から2023年度にかけては、主に大学の教室棟（寧静館）および教室・研究室棟（新創館）の改築工事を実施しました。2024年度から2025年度にかけては、大学の今出川新図書館改築工事、スポーツ・コンプレックス建設工事および京田辺キャンパスリニューアル工事、女子大学の今出川図書館改修工事の実施に伴い、建設仮勘定が、大幅に増加しています。

特定資産は、第2号基本金、第3号基本金、退職給与および減価償却に係る引当特定資産について、必要額をそれぞれ設定しました。

本年度末の固定資産総額は、有形固定資産が増加し、前年度から89億6,800万円増加し、2,479億9,500万円となりました。

流動資産は、現金預金などの減少があるものの、未収入金の増加により、本年度末は前年度から3億2,200万円増加し、417億7,500万円となりました。

2 負債・純資産の部

固定負債の主な内容は退職給与引当金で、その全額を退職給与引当特定資産として保有しております。

流動負債は新入生学費の前受金が大部分を占めています。

なお、本学では2019年度末に短期借入金を完済し、2025年度末現在も借入金残高は0となっております。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得で、前年度から89億4,100万円増加し2,411億1,900万円、第2号基本金は計画に基づく組入と建設事業への充当の結果、前年度から20億9,900万円減少し85億6,600万円、第3号基本金は既存基金への組入れ及び新たな基金の設定により前年度から7億円増加し225億5,300万円、基本金全体では、75億4,200万円増加し2,766億1,500万円となっております。

収支差額は、大規模な建設事業を自己資金で賄っていることもあり、依然として支出超過の状況ですが、昨年度から1,600万円収支が改善し、翌年度に繰り越す支出超過額は160億4,600万円となりました。

なお、減価償却額の累計額は1,089億9,300万円で、減価償却額の累計額に対する自己資金の充足率については、85.3%となっております（2023年度81.9%、2024年度85.1%）。

表1 貸借対照表

2026年3月31日現在 (単位:百万円)

資産の部 科目	本年度末	前年度末	増減
【固定資産】	**247,995**	239,027	8,968
（有形固定資産）	**132,509**	125,107	7,402
土地	**16,802**	17,452	△ 650
建物	**73,566**	75,820	△ 2,254
構築物	**3,149**	3,153	△ 4
教育研究用機器備品	**7,536**	6,388	1,148
管理用機器備品	**101**	103	△ 2
図書	**19,058**	18,936	122
車両・舟艇・航空機	**19**	22	△ 3
建設仮勘定	**12,278**	3,233	9,045
（特定資産）	**114,039**	112,366	1,673
第2号基本金引当特定資産	**8,566**	10,665	△ 2,099
第3号基本金引当特定資産	**22,553**	21,853	700
退職給与引当特定資産	**13,920**	13,848	72
減価償却引当特定資産	**69,000**	66,000	3,000
（その他の固定資産）	**1,447**	1,554	△ 107
借地権	**208**	208	0
電話加入権	**20**	20	0
施設利用権	**23**	24	△ 1
ソフトウェア	**296**	168	128
ソフトウェア仮勘定	**0**	67	△ 67
有価証券	**20**	20	0
長期貸付金	**794**	962	△ 168
支払保証金	**85**	84	1
出資金	**1**	1	0
【流動資産】	**41,775**	41,453	322
現金預金	**26,154**	28,075	△ 1,921
未収入金	**3,725**	1,522	2,203
短期貸付金	**0**	0	0
金銭信託	**11,000**	11,000	0
前払金	**402**	419	△ 17
仮払金	**220**	206	14
修学旅行費預り資産	**274**	231	43
資産の部合計	**289,770**	280,480	9,290

負債の部 科目	本年度末	前年度末	増減
【固定負債】	**13,935**	13,868	67
長期未払金	**0**	1	△ 1
退職給与引当金	**13,920**	13,848	72
受入保証金	**15**	19	△ 4
【流動負債】	**15,266**	13,601	1,665
未払金	**1,495**	1,328	167
前受金	**10,587**	10,349	238
預り金	**1,743**	1,679	64
修学旅行費預り金	**274**	231	43
仮受金	**16**	14	2
賞与引当金	**1,151**	0	1,151
負債の部合計	**29,201**	27,469	1,732

純資産の部 科目	本年度末	前年度末	増減
【基本金】	**276,615**	269,073	7,542
第1号基本金	**241,119**	232,178	8,941
第2号基本金	**8,566**	10,665	△ 2,099
第3号基本金	**22,553**	21,853	700
第4号基本金	**4,377**	4,377	0
【繰越収支差額】	**△ 16,046**	△ 16,062	16
（翌年度繰越収支差額）	**△ 16,046**	△ 16,062	16
純資産の部合計	**260,569**	253,011	7,558
負債および純資産の部合計	**289,770**	280,480	9,290
減価償却額の累計額の合計額	**108,993**		
基本金未組入額	**56**		

表2 貸借対照表の推移（2016～2025年度）

（単位:百万円）

資産の部

科目	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
固定資産	222,646	222,507	225,394	226,303	228,992	231,579	233,616	232,960	239,027	247,995
有形固定資産	137,481	137,846	134,245	132,918	131,553	128,576	127,561	125,522	125,107	132,509
特定資産	80,180	80,133	87,191	89,905	94,503	100,633	104,024	105,681	112,366	114,039
その他の固定資産	4,985	4,528	3,958	3,480	2,936	2,370	2,031	1,757	1,554	1,447
流動資産	27,908	30,895	30,454	32,540	34,581	37,256	37,761	42,270	41,453	41,775
資産の部合計	250,554	253,402	255,848	258,843	263,573	268,835	271,377	275,230	280,480	289,770

負債および純資産の部

科目	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
固定負債	15,229	14,916	14,819	14,546	14,311	14,328	14,145	13,944	13,868	13,935
流動負債	13,237	12,842	12,295	12,369	12,798	13,223	12,949	13,732	13,601	15,266
負債の部合計	28,466	27,758	27,114	26,915	27,109	27,551	27,094	27,676	27,469	29,201
基本金	253,553	255,296	256,998	260,064	263,536	264,895	265,758	266,632	269,073	276,615
繰越収支差額	△ 31,465	△ 29,652	△ 28,264	△ 28,136	△ 27,072	△ 23,611	△ 21,475	△ 19,078	△ 16,062	△ 16,046
純資産の部合計	222,088	225,644	228,734	231,928	236,464	241,284	244,283	247,554	253,011	260,569
負債および純資産の部合計	250,554	253,402	255,848	258,843	263,573	268,835	271,377	275,230	280,480	289,770

減価償却額の累計額の合計額	84,363	87,277	91,387	94,906	98,984	101,340	103,664	105,606	107,531	108,993
基本金未組入額	673	251	144	100	85	89	65	86	73	56

財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。
以下の表は本学と全国平均の比較です。

表3 貸借対照表財務関係比率の推移（2016～2025年度）

貸借対照表関係比率では、固定比率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己資金に対する負債、すなわち他人資金の割合です。また、基本金比率は、基本金組入の対象となる資産に対して組入れ済みの基本金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、各種引当特定資産の充実と資金運用の効率化を図りつつ、安定的に200%以上を常に保っています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本金比率はほぼ100%に近い数値を保っています。

教育の質向上をより一層推進するための教学改革を収支均衡の範囲内で継続的に行う「フローの安定化」と自己資金の安定的確保、基本金の増額、借入金等外部負債の減少を実現する「ストックの充実」の継続的な両立を実現すべく、財務比率の推移にも留意しながら、今後も健全な財政運営を通じての強固な財政基盤の確立を推進してまいります。

（単位:%）

	算式（×100）	評価指標	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	全国平均
固定比率	固定資産 / 純資産	↓	100.3	98.6	98.5	97.6	96.8	96.0	95.6	94.1	94.5	95.2	97.4
純資産構成比率	純資産 / 総負債+純資産	↑	88.6	89.0	89.4	89.6	89.7	89.8	90.0	89.9	90.2	89.9	88.4
流動比率	流動資産 / 流動負債	↑	210.8	240.6	247.7	263.1	270.2	281.8	291.6	307.8	304.8	273.6	265.6
負債比率	総負債 / 純資産	↓	12.8	12.3	11.9	11.6	11.5	11.4	11.1	11.2	10.9	11.2	13.1
総負債比率	総負債 / 総資産	↓	11.4	11.0	10.6	10.4	10.3	10.2	10.0	10.1	9.8	10.1	11.6
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	↑	99.7	99.9	99.9	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	97.6

評価指標:↑高い方が良い　↓低い方が良い

全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2024年度数値

事業活動収支計算書 [( )内は予算比:+は増加、△は減少]

当該年度の経常的な事業活動(教育活動収支、教育活動外収支)と臨時的な事業活動(特別収支)に区分して、それぞれの経営状況および収支の均衡状態を表したものです。教育活動収支は、学校本来の経常的な教育研究活動にかかる収入および支出です。教育活動外収支は、経常的な財務活動および収益事業の活動にかかる収入および支出です。特別収支は、施設設備の整備などにかかる臨時的な収入および支出です。

学校会計の用語解説

教育研究経費と管理経費
物件費は、直接教育研究に要するものとそれ以外の経費に分類します。前者を教育研究経費、後者を管理経費といいます。管理経費に該当するものは、役員の業務遂行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、学寮(全寮制を除く)に要する経費などです。

事業活動収入
事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の収入の部を合計したものです。当該年度の収入のうち、学校法人の負債とならない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

事業活動支出
事業活動収支計算書の教育活動収支・教育活動外収支・特別収支の支出の部と予備費を合計したものです。人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

基本金組入額
基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、以下の第1号から第4号に該当するものです。
これは事業活動収入と事業活動支出の差額(=基本金組入前当年度収支差額)の中から充当します。これを基本金の組入(くみいれ)といいます。
第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1ヶ月分の運転資金相当額です。

当年度収支差額
事業活動収入と事業活動支出の差額(=基本金組入前当年度収支差額)から基本金組入額を控除した額で、当年度の財政の均衡状態を表します。
これがマイナスであると、支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

1 事業活動収入計

717億6,800万円(+91億3,300万円)
教育活動収支における学生生徒等納付金、手数料、寄付金および経常費等補助金などの増収、教育活動外収支における受取利息・配当金の増収、特別収支における資産売却差額、私立学校施設整備費補助金の受入によるその他の特別収入の増収などにより、予算比14.6%の増加となりました。前年度と比べても65億1,300万円、10.0%増となっています。

2 事業活動支出計

642億1,000万円(+28億8,800万円)
教育研究経費・管理経費の増加などがあり、事業活動支出計としては予算を上回りました。予算に対して4.7%の増、前年度からは44億1,100万円、7.4%増となっています。

3 基本金組入前当年度収支差額

75億5,800万円(+62億4,500万円)
予算では13億1,300万円の収入超過で基本金組入に十分な額を確保できていませんでしたが、事業活動収入が大幅に増加する一方で事業活動支出の増加が一定程度に収まったことにより、予算に対して62億4,500万円収支が改善しました。前年度比では、21億200万円収入超過が増加しました。

4 基本金組入額合計

81億3,100万円(+41億9,000万円)

■ **第1号基本金組入額**
17億3,100万円(+2億1,300万円)
当年度の固定資産増加額は施設および設備関係支出、現物寄付で139億300万円、過年度未組入に係る組入(未払金支払)は7,200万円となり、一方で施設や設備の更新による当期除却高は43億9,000万円、過年度に組入れた第2号基本金からの振替額は77億9,900万円、未払金計上による未組入額の増加は5,500万円となっています。

■ **第2号基本金組入額**
57億円(+39億円)
将来に教学施設設備などを取得するため、大学で教学施設設備整備資金51億円、情報基盤整備資金2億円、女子大学で教育施設設備環境整備資金2億円、国際中学校・高等学校および女子中学校・高等学校で教学施設整備資金1億円を計画に基づき組み入れました。

■ **第3号基本金組入額**
7億円(+1億円)
大学で組入計画に基づく基金組入6億円及び疋田幸治郎奨学基金組入1億円を行いました。

■ **第4号基本金組入額**
0円(△2,300万円)

5 当年度収支差額

△5億7,300万円(+20億5,500万円)
予算では26億2,800万円の支出超過でしたが、事業活動収入が大幅に増加する一方、事業活動支出はやや予算を上回った程度に収まったことにより、予算に対して20億5,500万円収支が改善しました。

6 基本金取崩額

5億8,900万円(△4億5,300万円)
一部の学校において、固定資産取得額が予算額から減少したことにより、基本金取崩額が発生することになりました。

7 翌年度繰越収支差額

△160億4,600万円

表4 2025年度 法人総合事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目			予算	決算	差異
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	49,881	51,071	△ 1,190
		手数料	1,997	2,274	△ 277
		寄付金	479	1,022	△ 543
		経常費等補助金	6,940	10,015	△ 3,075
		付随事業収入	1,218	1,490	△ 272
		雑収入	1,231	1,338	△ 107
		教育活動収入計	61,746	67,210	△ 5,464
	支出の部	人件費	32,977	32,962	15
		教育研究経費	24,626	26,388	△ 1,762
		うち 減価償却額	4,795	4,813	△ 18
		管理経費	3,277	3,566	△ 289
		うち 減価償却額	391	394	△ 3
		徴収不能額等	12	29	△ 17
		教育活動支出計	60,892	62,945	△ 2,053
	教育活動収支差額		854	4,265	△ 3,411
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	630	1,102	△ 472
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	630	1,102	△ 472
	支出の部	借入金利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額		630	1,102	△ 472
経常収支差額			1,484	5,367	△ 3,883

科目			予算	決算	差異
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	2,086	△ 2,086
		その他の特別収入	259	1,370	△ 1,111
		うち 施設設備寄付金・現物寄付	259	203	56
		うち 施設設備補助金	0	1,127	△ 1,127
		特別収入計	259	3,456	△ 3,197
	支出の部	資産処分差額	39	120	△ 81
		その他の特別支出	0	1,145	△ 1,145
		特別支出計	39	1,265	△ 1,226
	特別収支差額		220	2,191	△ 1,971
予備費			391	0	391
基本金組入前当年度収支差額			1,313	7,558	△ 6,245
基本金組入額合計			△ 3,941	△ 8,131	4,190
第1号基本金組入額			△ 1,518	△ 1,731	213
第2号基本金組入額			△ 1,800	△ 5,700	3,900
第3号基本金組入額			△ 600	△ 700	100
第4号基本金組入額			△ 23	0	△ 23
当年度収支差額			△ 2,628	△ 573	△ 2,055
前年度繰越収支差額			△ 16,062	△ 16,062	0
基本金取崩額			136	589	△ 453
翌年度繰越収支差額			△ 18,554	△ 16,046	△ 2,508
(参考)					
事業活動収入計			62,635	71,768	△ 9,133
事業活動支出計			61,322	64,210	△ 2,888

表5 事業活動収支の推移(2016~2025年度)

(単位:百万円)

科目	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金	48,462	48,504	48,680	48,381	48,456	48,291	48,668	49,137	50,063	51,071
手数料	2,416	2,501	2,328	2,197	1,986	2,024	2,102	2,105	2,183	2,274
寄付金	798	1,093	823	1,265	970	1,285	905	947	1,022	1,225
補助金	4,969	5,315	5,105	5,029	6,392	6,281	6,764	7,152	8,023	11,142
受取利息・配当金	508	445	411	339	377	390	477	582	823	1,102
付随事業収入	1,243	1,348	1,157	1,088	1,132	1,304	1,294	1,578	1,596	1,490
その他の収入	1,080	1,770	1,460	1,665	1,266	1,757	1,415	1,686	1,545	3,464
事業活動収入合計	59,476	60,976	59,964	59,964	60,579	61,332	61,625	63,187	65,255	71,768
人件費	31,138	32,014	31,525	32,084	31,588	31,333	32,394	32,460	32,995	32,962
教育研究経費	22,435	22,124	22,012	21,272	21,004	21,453	22,966	23,858	23,296	26,388
管理経費	2,793	2,908	3,122	2,847	2,989	3,132	3,144	3,183	3,228	3,566
その他の支出	529	375	215	567	461	595	121	415	280	1,294
事業活動支出計	56,895	57,421	56,874	56,770	56,042	56,513	58,625	59,916	59,799	64,210
基本金組入前当年度収支差額	2,581	3,555	3,090	3,194	4,537	4,819	3,000	3,271	5,456	7,558
基本金組入額合計	△ 3,378	△ 1,760	△ 2,109	△ 3,664	△ 4,133	△ 4,122	△ 2,641	△ 2,786	△ 2,660	△ 8,131
当年度収支差額	△ 797	1,795	981	△ 470	404	697	359	485	2,796	△ 573
前年度繰越収支差額	△ 31,072	△ 31,465	△ 29,652	△ 28,264	△ 28,136	△ 27,072	△ 23,611	△ 21,475	△ 19,078	△ 16,062
基本金取崩額	404	18	407	598	660	2,764	1,777	1,912	220	589
翌年度繰越収支差額	△ 31,465	△ 29,652	△ 28,264	△ 28,136	△ 27,072	△ 23,611	△ 21,475	△ 19,078	△ 16,062	△ 16,046

財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。
以下の表は本学と全国平均の比較です。

表6 事業活動収支計算書関係比率の推移(2016~2025年度)

事業活動収支計算書関係比率について、本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、寄付金比率は低めで、学費への依存度が高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低い方がよいとされる人件費比率および管理経費比率は全国平均をやや下回っています。また、教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高いほうが望ましいとされており、本学は全国平均とほぼ同じ水準です。
学校法人は事業活動収支差額の中から基本金組入額を賄うため、事業活動収支差額比率がプラスで大きいほど自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながるものとされています。本学では、2020年度の7.5%、2021年度の7.9%を除いては、5%前後で推移していましたが、2024年度は8.4%、2025年度は10.5%となりました。

(単位:%)

	算式(×100)	評価指標	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	全国平均
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	–	82.5	80.7	81.6	81.0	80.5	80.3	79.6	78.2	77.7	74.8	72.0
寄付金比率	寄付金 / 事業活動収入	↑	1.3	1.8	1.4	2.1	1.6	2.1	1.5	1.5	1.6	1.7	2.0
補助金比率	補助金 / 事業活動収入	↑	8.4	8.7	8.5	8.4	10.6	10.2	11.0	11.3	12.3	15.5	15.0
人件費比率	人件費 / 経常収入	↓	53.0	53.3	52.9	53.7	52.5	52.1	53.0	51.7	51.2	48.3	50.9
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	↑	38.2	36.8	36.9	35.6	34.9	35.7	37.6	38.0	36.2	38.6	37.3
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	↓	4.8	4.8	5.2	4.8	5.0	5.2	5.1	5.1	5.0	5.2	8.9
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入	↑	4.3	5.8	5.2	5.3	7.5	7.9	4.9	5.2	8.4	10.5	3.3

評価指標:↑高い方が良い ↓低い方が良い

全国平均:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2024年度数値

資金収支計算書・活動区分資金収支計算書

表7　2025年度　法人総合資金収支計算書

(単位:百万円)

資金収支計算書は当該年度の支払資金の顛末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	49,880	**51,071**	△ 1,191	人件費支出	33,050	**32,861**	189
手数料収入	1,997	**2,274**	△ 277	教育研究経費支出	19,831	**21,575**	△ 1,744
寄付金収入	738	**1,158**	△ 420	管理経費支出	2,886	**3,194**	△ 308
補助金収入	6,940	**11,142**	△ 4,202	借入金等利息支出	0	**0**	0
資産売却収入	0	**3,200**	△ 3,200	借入金等返済支出	0	**0**	0
付随事業・収益事業収入	1,219	**1,490**	△ 271	施設関係支出	9,922	**11,174**	△ 1,252
受取利息・配当金収入	630	**1,102**	△ 472	設備関係支出	2,155	**2,663**	△ 508
雑収入	1,231	**1,335**	△ 104	資産運用支出	5,400	**43,412**	△ 38,012
借入金等収入	0	**0**	0	その他の支出	1,858	**1,784**	74
前受金収入	9,611	**10,586**	△ 975	予備費	392	**0**	392
その他の収入	9,118	**43,594**	△ 34,476				
資金収入調整勘定	△ 10,848	**△ 14,110**	3,262	資金支出調整勘定	△ 2,080	**△ 1,900**	△ 180
前年度繰越支払資金	28,075	**28,075**	0	翌年度繰越支払資金	25,177	**26,154**	△ 977
収入の部合計	98,591	**140,917**	△ 42,326	支出の部合計	98,591	**140,917**	△ 42,326

表8　2025年度　法人総合活動区分資金収支計算書

(単位:百万円)

活動区分資金収支計算書は資金収支計算書を3つの活動区分(教育活動、施設整備等活動、その他の活動)ごとの収支に組み替えて、各々の活動の資金の流れを表したものです。教育活動による資金収支は、キャッシュベースによる本業の教育研究活動の収支状況です。施設整備等活動による資金収支は、当年度の施設設備の整備にかかる支出とその財源を表しています。その他の活動による資金収支は、借入金や資金運用などの財務活動です。

科目		金額
教育活動による資金収支	収入 学生生徒等納付金収入	51,071
	収入 手数料収入	2,274
	収入 特別寄付金収入	987
	収入 一般寄付金収入	35
	収入 経常費等補助金収入	10,015
	収入 付随事業収入	1,490
	収入 雑収入	1,294
	収入 教育活動資金収入計	67,166
	支出 人件費支出	32,861
	支出 教育研究経費支出	21,575
	支出 管理経費支出	3,173
	支出 教育活動資金支出計	57,609
	差引	9,557
	調整勘定等	△ 1,169
	教育活動資金収支差額(A)	8,388

科目		金額
施設整備等活動による資金収支	収入 施設設備寄付金収入	136
	収入 施設設備補助金収入	1,127
	収入 施設設備売却収入	3,200
	収入 第2号基本金引当特定資産取崩収入	7,799
	収入 減価償却引当特定資産取崩収入	29,600
	収入 施設整備等活動資金収入計	41,862
	支出 施設関係支出	11,173
	支出 設備関係支出	2,663
	支出 第2号基本金引当特定資産繰入支出	5,700
	支出 減価償却引当特定資産繰入支出	32,600
	支出 施設整備等活動資金支出計	52,136
	差引	△ 10,274
	調整勘定等	△ 637
	施設整備等活動資金収支差額(B)	△ 10,911
小計　(A)+(B)		△ 2,523

科目		金額
その他の活動による資金収支	収入 第3号基本金引当特定資産取崩収入	1,912
	収入 退職給与引当特定資産取崩収入	2,428
	収入 受取利息・配当金収入	1,102
	収入 その他の収入	360
	収入 その他の活動資金収入計	5,802
	支出 金銭信託購入支出	0
	支出 第3号基本金引当特定資産繰入支出	2,612
	支出 退職給与引当特定資産繰入支出	2,500
	支出 その他の支出	88
	支出 その他の活動資金支出計	5,200
	差引	602
	調整勘定等	0
	その他の活動資金収支差額(C)	602
小計+(C)		△ 1,921
前年度繰越支払資金		28,075
翌年度繰越支払資金		26,154

表9　資金収支計算書の推移(2021～2025年度)

(単位:百万円)

収入の部 科目	2021	2022	2023	2024	2025
学生生徒等納付金収入	48,291	48,668	49,137	50,063	51,071
手数料収入	2,024	2,102	2,104	2,182	2,274
寄付金収入	767	806	846	839	1,158
補助金収入	6,281	6,764	7,152	8,023	11,142
資産売却収入	2,100	0	0	0	3,200
付随事業・収益事業収入	1,304	1,294	1,578	1,596	1,490
受取利息・配当金収入	390	477	582	824	1,102
雑収入	1,007	1,361	1,654	1,509	1,335
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	10,273	10,037	9,941	10,349	10,586
その他の収入	26,453	26,295	26,777	21,951	43,594
資金収入調整勘定	△ 10,641	△ 11,440	△ 11,262	△ 11,506	△ 14,110
前年度繰越支払資金	24,893	26,735	25,761	29,156	28,075
収入の部合計	113,142	113,099	114,270	114,986	140,917
支出の部 科目	**2021**	**2022**	**2023**	**2024**	**2025**
人件費支出	31,315	32,563	32,658	33,068	32,861
教育研究経費支出	15,872	17,444	18,736	18,259	21,575
管理経費支出	2,775	2,790	2,821	2,872	3,194
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	3,497	3,857	2,315	3,640	11,174
設備関係支出	1,071	963	1,395	1,454	2,663
資産運用支出	31,750	29,418	27,902	27,015	43,412
その他の支出	1,575	1,623	1,496	2,301	1,784
予備費	0	0	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 1,448	△ 1,320	△ 2,209	△ 1,698	△ 1,900
翌年度繰越支払資金	26,735	25,761	29,156	28,075	26,154
支出の部合計	113,142	113,099	114,270	114,986	140,917

表10　活動区分資金収支計算書の推移(2021～2025年度)

(単位:百万円)

科目		2021	2022	2023	2024	2025
教育活動による資金収支	収入 学生生徒等納付金収入	48,291	48,668	49,137	50,063	51,071
	収入 手数料収入	2,024	2,102	2,105	2,182	2,274
	収入 特別寄付金収入	659	658	715	701	987
	収入 一般寄付金収入	37	33	33	34	35
	収入 経常費等補助金収入	6,169	6,537	7,010	7,494	10,015
	収入 付随事業収入	1,304	1,294	1,578	1,596	1,490
	収入 雑収入	896	1,334	1,616	1,481	1,294
	収入 教育活動資金収入計	59,380	60,626	62,194	63,551	67,166
	支出 人件費支出	31,315	32,563	32,658	33,069	32,861
	支出 教育研究経費支出	15,872	17,444	18,736	18,259	21,575
	支出 管理経費支出	2,751	2,750	2,799	2,840	3,173
	支出 教育活動資金支出計	49,938	52,757	54,193	54,168	57,609
	差引	9,442	7,869	8,001	9,383	9,557
	調整勘定等	562	△ 715	500	△ 181	△ 1,169
	教育活動資金収支差額(A)	10,004	7,154	8,501	9,202	8,388
施設整備等活動による資金収支	収入 施設設備寄付金収入	71	115	98	104	136
	収入 施設設備補助金収入	112	227	142	529	1,127
	収入 施設設備売却収入	2,100	0	0	0	3,200
	収入 第2号基本金引当特定資産取崩収入	1,770	2,760	1,445	1,570	7,799
	収入 減価償却引当特定資産取崩収入	16,399	19,100	20,300	17,800	29,600
	収入 施設整備等活動資金収入計	20,452	22,202	21,985	20,003	41,862
	支出 施設関係支出	3,497	3,857	2,315	3,640	11,173
	支出 設備関係支出	1,071	963	1,395	1,454	2,663
	支出 第2号基本金引当特定資産繰入支出	3,500	1,800	1,800	1,800	5,700
	支出 減価償却引当特定資産繰入支出	20,399	23,100	21,300	23,800	32,600
	支出 施設整備等活動資金支出計	28,467	29,720	26,810	30,694	52,136
	差引	△ 8,015	△ 7,518	△ 4,825	△ 10,691	△ 10,274
	調整勘定等	58	△ 174	93	△ 336	△ 637
	施設整備等活動資金収支差額(B)	△ 7,957	△ 7,692	△ 4,732	△ 11,027	△ 10,911
小計　(A)+(B)		2,047	△ 538	3,769	△ 1,825	△ 2,523
その他の活動による資金収支	収入 第3号基本金引当特定資産取崩収入	4,222	1,898	2,100	88	1,912
	収入 退職給与引当特定資産取崩収入	2,600	1,269	1,400	900	2,428
	収入 受取利息・配当金収入	390	477	582	824	1,102
	収入 その他の収入	575	565	437	426	360
	収入 その他の活動資金収入計	7,787	4,209	4,519	2,238	5,802
	支出 金銭信託購入支出	1,000	1,000	1,000	0	0
	支出 第3号基本金引当特定資産繰入支出	4,233	2,418	2,600	588	2,612
	支出 退職給与引当特定資産繰入支出	2,618	1,100	1,202	826	2,500
	支出 その他の支出	141	127	92	79	88
	支出 その他の活動資金支出計	7,992	4,645	4,894	1,493	5,200
	差引	△ 205	△ 436	△ 375	745	602
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額(C)	△ 205	△ 436	△ 375	745	602
小計+(C)		1,842	△ 974	3,394	△ 1,080	△ 1,921
前年度繰越支払資金		24,893	26,735	25,761	29,155	28,075
翌年度繰越支払資金		26,735	25,761	29,155	28,075	26,154

資金運用の状況

資金運用については、法人内に資金運用委員会を設置し、資金運用関連規程に従って行っており、中・長期的な資金運用の指針として「同志社資金運用基本方針」を、年度ごとに「資金運用計画」を、それぞれ定めています。基本方針では、資金運用は、安定的な財政基盤を構築し、建学の精神に基づいた「良心教育」を基軸に教育研究活動を継続的に展開していくため、中長期財政計画に基づく所要の運用収入の確保を目的とすることとしています。特に、第3号基本金引当特定資産と減価償却引当特定資産については運用利回り目標を定め、自家運用に加えて一部に委託運用を導入するとともに、資金の運用および管理を適切に行うことができるよう、意思決定プロセスの透明化に配慮した、具体的な運用方法や管理体制等を定めています。

2025年度は、第3号基本金引当特定資産運用収入は2億7,900万円、年度末時点の委託運用全体の評価損益は46億3,500万円のプラスとなりました。また、新たな資金運用中期計画を策定し、情勢の変化に対応した資金運用が可能となるよう各種の見直しを行いました。

なお、資金運用委員会においては、運用助言会社の助言も得ながら、運用計画の立案、運用状況の管理および運用成果の点検を行い、その内容を理事会に報告しています。引き続き、短期的な市場の動向に左右されることなく、適正なリスク管理に基づく資金運用を進めます。

表11 寄付金の状況 (単位:千円)

	2021	2022	2023	2024	2025
特別寄付金	658,960	657,924	715,353	701,399	987,142
一般寄付金	36,802	33,700	33,066	33,759	34,916
施設設備寄付金	71,311	115,067	97,554	103,582	135,603
合　計	767,073	806,691	845,973	838,740	1,157,661

表12 補助金の状況 (単位:千円)

	2021	2022	2023	2024	2025
国庫補助金	4,136,269	4,461,577	4,900,994	5,203,155	7,630,304
地方公共団体補助金	2,029,389	2,073,909	2,108,293	2,290,188	2,384,056
若手・女性研究者奨励金	3,400	1,200	400	800	400
施設設備補助金	111,513	227,240	142,435	529,072	1,127,053
合　計	6,280,571	6,763,926	7,152,122	8,023,215	11,141,813

中期財政目標および中期財政計画ならびにその達成状況

本法人では、中期財政目標および中期財政計画を定め、これに単年度の予算編成を組み合わせ、財政運営を行い、財政基盤の安定化に努めます。また、中期財政計画の達成状況については、毎年、点検・評価を行い、必要な見直しを行うとともに、次年度の予算編成に繋げていきます。

中期財政目標

本法人では、2025年度までの財政目標を次のとおり設定しています。

1）事業活動収支差額比率
（基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入）
事業収支差額比率は、8%を目標とします。収入の拡大、支出の抑制等により、事業活動収支差額を確保し、将来は10%以上を目指します。

2）減価償却額の累計額に対する自己資金（減価償却引当特定資産等）の充足率
（自己資金（減価償却額の累計額+翌年度繰越収支差額）÷減価償却額の累計額）
減価償却額の累計額に対する自己資金の充足率について、80%以上を目標とします。これまで、充足率を高めてきましたが、引き続き向上させ、将来は繰越支出超過額の解消を目指します。

中期財政計画

1）収支均衡予算の編成
収入の多様化および支出抑制を進め、収支均衡した予算編成を行い、財政目標の達成を目指します。

2）収入の多様化
①学生生徒等納付金収入については、入学定員どおりの学生、生徒、児童、園児数を見込みます。
②寄付金収入については、大学の「同志社大学 2025 ALL DOSHISHA 募金」、女子大学の「同志社女子大学サポーターズ募金“ぶどうの樹”」、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の父母を対象とした募金を積極的に展開するとともに募金活動の見直し、点検、評価を行い、さらに効果的な募金活動を追求し、寄付金比率3%以上を目指します。
③補助金収入については、大学および女子大学を中心に近年の補助金動向を見据え、増収に取組み、補助金比率10%以上を目指します。
④付随事業・収益事業収入については、大学および女子大学において、産学連携活動を積極的展開し、受託事業の拡大に繋げます。
⑤受取利息・配当金収入については、効率的な資金運用を行い、資金運用計画で定める利回りの確保を目指します。

3）支出の抑制
①人件費については、人事制度の継続的な検討、見直しを行うとともに株式会社同志社エンタープライズの活用、業務委託の拡大等を進め、人件費比率について、全国平均以下を維持するように努めます。
②事業経費については、過年度の執行状況等を勘案し、効果や実績等を勘案して、メリハリのある予算を維持します。
③施設設備整備（基本金組入）については、第2号基本金への組入や特定支出準備金への繰入を行い、計画的な整備を推進します。なお、借入は行いません。

今期の達成状況

1）事業活動収支差額比率
2025年度は8%以上を目標としていたところ、10.5%となりました（2023年度5.2%、2024年度8.4%）。

2）減価償却額の累計額に対する自己資金（減価償却引当特定資産等）の充足率
2025年度は引き続き80%以上を目標としていたところ、85.3%となり、目標を達成することができました（2023年度81.9%、2024年度85.1%）。

2026年度事業計画

学校法人同志社（以下「法人」という。）は、創立以来、建学の精神を高く掲げ、良心を手腕に運用する人物を社会に送り出してきました。将来への不確実性が高まる中、豊かさと幸福を実感できる持続可能な社会の実現には、社会の維持・発展を担う人物の養成が不可欠であり、本法人が果たすべき役割は重要性を増しています。

法人は2025年11月29日に創立150周年を迎え、2026年度は、女子大学では創立150周年、小学校では創立20周年を迎える節目の時期でもあり、法人として、次なる200年へ向けての第一歩を力強く踏み出していく重要な1年となります。2025年度に「学校法人同志社中期計画（2026年度～2030年度）を策定し、これらの計画を着実に実行していく必要があります。

同志社大学、同志社女子大学、同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園（以下「各学校」という。）では、教育の質向上だけではなく、クラウド環境や生成AIの活用等による教育DXを推進しながらも、探究的・文理横断的・実践的な学びを実現し、地域・社会と連携しつつ、学生・生徒・児童・園児のみならず教職員を含めたウェルビーイングの向上を進めます。

今後も、法人は、挑戦を続け、変革を起こす高い「志」を持ち、「地の塩、世の光」として社会で活躍する人物を養成すべく、建学の精神に基づいた良心教育を基軸に教育研究活動のさらなる高度化、深化を目指します。

2026年度に法人及び各学校が実施する主な事業を説明します。

【キリスト教主義・自由主義・国際主義】

法人では、各学校及び関係部課と調整を図り、同志社礼拝堂、神学館礼拝堂、クラーク記念館礼拝堂、京田辺会堂言館、栄光館、新島記念講堂、各学校礼拝堂等を活用した、各学校のキリスト教関連行事（祈祷会、礼拝、チャペルアワー等）、式典、結婚式等を通じて、同志社のキリスト教主義を学生、教職員はもちろん保護者、卒業生及び社会に向けて積極的に発信します。また、本年度は「同志社新島スカラー」の募集が行われない年度（隔年）に実施する「新島スカラー」の募集を行い、大学又は女子大学の学生1名をアーモスト大学へ派遣します。大学国際教養教育院及びAKP（Associated Kyoto Program）の海外からの外国人留学生を、幼稚園及び小中高での英語授業・クラブ活動へ派遣する事業も引き続き実施します。

同志社大学では、150周年記念事業を通じ、友誼と絆を再確認したアーモスト大学及びテュービンゲン大学との更なる連携事業を推進します。これまでアーモスト大学の支援により法人が実施してきた新島スカラーに加え、同大学からの新たな提案により、本学予算で支援していた同志社新島スカラーについても無償化されることを受け、学生派遣の一層の強化を進めます。合わせて、同大学からの交換留学生の受入数の倍増等、交流活動を活発化し、充実します。6月にはプロボストの本学訪問が計画されており、次段階に向けた交流の深化に繋げます。テュービンゲン大学の同志社大学テュービンゲンEUキャンパスでは、試行段階の研究交流（特に若手研究者育成）をさらに推進し、持続可能性のある事業として確立させます。また、欧州を中心としたエンジニアリング教育・研究分野の交流組織であり、選ばれた大学のみが加盟を許されるT.I.M.E(Top International Managers in Engineering)の年次総会を本学で開催します。これにより、本学のエンジニアリング教育・研究が世界水準の格にあることを広く知らしめ、国内外の教育・研究の発展に寄与します。その他、アジアの海外拠点となる韓国・台湾各オフィスの事業の再構築に向けた分析を行い、いまだ交流基盤の脆弱なインド・東南アジア地域における事業展開の可能性を探る調査分析を開始します。

また、国際的なリベラルアーツ教育の機能強化、共修関係の充実を図る新たな活動を行います。具体的には、従来カリキュラムの改善策の検討、隣人愛に基づく国際主義を反映するサービスラーニング科目・海外フィールドワーク科目の開発・運営方法の策定があげられます。協定大学や支援団体等との関係をゆるぎなく構築しながら、段階的に進めます。

共修環境の整備に向けては、外国人留学生を安定的に確保するため、入試制度（特に海外指定校推薦制度）の見直しを進めるとともに、生活支援については現状と課題を踏まえた実情に即した見直しを行い、必要な施策を着実に実行します。

同志社女子大学では、キリスト教主義教育の具現化を図るために、正課の講義として全学部全学科に「聖書」を必修科目として開講し、「チャペル・アワー」を毎日実施しています。また、海外研修、日本語指導実習、セメスター語学留学、正規留学、留学生受入れ、語学学習・留学支援、そして卒業後の留学といった7つのカテゴリーに亘る、40以上の国際交流プログラムを展開しています。さらに私費外国人留学生の受入れを推進するため、外国人留学生入試の見直しとともに、留学生受入体制の整備に努めます。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、授業や礼拝の時間、各種行事を通じてキリスト教主義教育への理解を深めるとともに、それぞれの学校の特色を生かした留学プログラムや留学生の受け入れにより、国際交流をより促進します。

【教育研究】

法人では、同志社一貫教育探求センターの下に、同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー実行部会を新設し、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の次世代科学技術プログラム（2025年度～2029年度）に採択された同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミーを充実させつつ実行します。加えて、同志社英語大会―立石杯-、同志社英語プレゼンテーション大会-立石杯-、国際交流に関するエッセイコンテスト、同志社ゴルフアカデミー、同志社宇宙科学セミナー、同志社研修・交流会、同志社台同学校説明会等の事業を実施し、教職員の自主的な研究会への支援を行うなど、各学校間の連携をより一層推進し、同志社一貫教育のさらなる進展を目指します。

同志社大学では、「智徳並行」教育の今日的実践として、基礎的・俯瞰的な教養と専門知を組み合わせ、新たな価値を生み出す総合知を育むとともに、その基盤としてのキリスト教主義教育や「良心」を本学の強みとして活かす全学的教育に取り組みます。ビジョン「共に知る、共に変わる －With a Good Conscience」に掲げる中期計画2030の初年度にあたる2026年度は、学生自らが学びを深め、その成長を自覚できることを重視しながら、教育の質の向上に資する取組を進めます。例えば、総合知の基盤形成としての「同志社データサイエンス・AI教育プログラム（DDASH）の強化」、総合知の実践としての「サービスラーニング型教育の開発」、総合知の定着としての「同志社イノベーション・ゲートウェイ（DIG）の深化」に取り組みます。さらに、学修成果の把握・可視化の推進と個別最適化支援に向けても取り組みます。加えて、全学的な学部教育として、社会人としての基礎力の養成を目的とする「ライフスキル・ベーシック」及び「キャリアリテラシーとジョブトライアル」を新設します。

大学院教育については、2025年度に引き続き、複数の研究科が協力して教育体制を構築する研究科等連係課程の開設計画を進めます。さらに、リカレント・リスキリング教育にあたっては、学内外の組織的連携を強化し、本学を生涯にわたり学び続けることのできる場として機能させます。

研究については、2026年4月に研究開発推進機構をリサーチ・イノベーション推進機構に改組し、新たに、研究の推進・支援を担う研究推進部とリエゾンオフィスを統合したイノベーション創出クラスターを設けます。個人研究や共同研究を基盤として多様な研究分野が融合するプロジェクト型研究を創出する環境の醸成を図るため、まず本学が注力する社会課題を設定し、課題解決のアイデアを持つ研究者が集積する仕組みを構築します。また、事務組織を再編し、改組した産官学連携推進課に起業支援係を設置し、大学発スタートアップ創出のための支援体制を強化します。引き続き、アントレプレナー教育や啓発セミナー等の実施に取組むとともに、インパクトファンドの創設を含む各種支援策の検討を加速させます。

同志社女子大学では、2025年9月に新教務システム「Doujo passport（D-pass）」の運用を開始しました。新たに導入したD-passでは履修登録や成績管理だけではなく、学修管理システム（LMS）や出席管理、更には学生ポータルサイトや学修ポートフォリオの充実を図り、学生個々の成長をサポートする情報環境基盤として整備していく予定です。

2025年度からは、佛教大学との小学校教諭免許状課程に関する協定及び特別支援学校免許状課程履修に関する協定に基づき、教職課程を設置する学科では、小学校教諭一種免許状、小学校教諭二種免許状及び特別支援学校一種免許状の取得が可能となりました。教職課程以外においても2025年6月に全学部学科を対象として、国家資格「登録日本語教員」養成の課程に係る登録申請を行い、2025年10月末に「登録を相当とする」との審査結果を受け、2026年度入学生より「同志社女子大学登録日本語教員養成課程」が開始されることとなりました。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、学習指導要領に基づきつつ、各学校の特色を活かしながら、魅力ある教育活動を展開します。また、ICTを活用し、教育DXを進め、学修者本位の教育の更なる向上を目指します。

【学生・生徒・児童・園児の支援】

法人では、近年の経済情勢を踏まえ、コロナ禍を機に開始した在学生支援募金の募集を継続し、同志社教育を受けることを希望し入学した在学生が経済的な事情によって失意のうちに学校生活を終えることがないよう、各学校を通じて支援金を給付します。また、同志社一貫教育探求センターに設置したダイバーシティ推進に関する検討部会において、在学生の成長段階に応じた支援体制の充実を図ります。

同志社大学及び同志社女子大学では、2020年度から開始された国の「高等教育の修学支援新制度」に基づく支援に加え、各大学独自の奨学事業を継続します。同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校及び同志社国際学院では、生徒・児童が安心して勉学に専念できるよう、それぞれの学校独自の修学支援のための奨学金制度を継続します。

ダイバーシティ対応については、関連する法律が整備される中、同志社大学では、学生支援センターの下に設置していた「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室」を「スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援センター」とする独立した組織に改組し、スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援課も新設するなど、障がい学生支援及び性的マイノリティ学生への支援をさらに強化します。また、全学共通教養教育センターと連携し、ライフデザイン科目に「ライフスキル・ベーシック（社会人基礎力養成講座）」を設置します。人生全体における大学生活の位置付けを考え、大学生活を充実させるために必要な基礎知識（自己理解、コミュニケーション、健康管理、キャリア設計など）を理解し、日常生活や学びに活用できることを目指します。

2026年度事業計画

同志社女子大学では、障がいのある学生の支援窓口として2020年度に設置、2024年度に名称変更した「スチューデントサポートセンター」において、更なる学内連携の強化、学外リソースの活用、コーディネーターのスキルアップなど、安定した支援体制の構築に努めます。また、教育上の合理的配慮について、教職員の理解を深め、適切な支援を行うための学内啓発活動を引き続き積極的に取り組みます。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、それぞれの学校の事情に応じて、特別支援教育コーディネーターやカウンセラーを効果的に配置し、生徒、児童、園児を支援します。

【学生・生徒・児童・園児の受け入れ】

法人では、同志社一貫教育探求センターの下に、法人内高校生の大学・女子大学開設科目履修制度に関する検討部会を新設します。現在、法人内高校生が大学の開設科目「データサイエンス概論」を科目履修生として履修していますが、他科目及び女子大学との発展性について検討します。

同志社大学では、入学志願者の志望動向の多様化をふまえ、授業公開等により本学の学びに触れる機会の増大を図り、大学での学びへの関心や本学での学びへの関心を高めていく取り組みを検討・実施します。さらに本学への関心を志願へと結びつけられるよう、本学でのオープンキャンパス・全国各地での入試説明会等の実施や資料請求者への新たなアプローチ等により、本学を第一志望とする層や志願者の拡大に向けて取り組みます。また、引き続き、多様な人材の獲得等に向けて、入試のあり方を様々な視点から検討します。

同志社女子大学では、受験生の志願動向が年内の入試へシフトしている状況及び女子大学への志願者が多様化している状況等に鑑み、2023年度より総合型選抜の募集学科や公募制推薦入試の募集人員を拡大、2024年度は公募制推薦入試の試験地の拡大や一般入試の試験科目と入試方式の見直しを行い、2025年度は英語外部試験や共通テストのスコア等を活用できる入試制度を拡大しました。2026年度は多様な人材の獲得等に向けて外国人留学生入試を含めた入試制度の一部をさらに見直すとともに、高大連携事業の一層の強化、広報展開による対面接触イベントへの誘導などにより、専願の入試を含めた安定的な入学者の確保に努めます。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、それぞれの学校ならではの教育の特色を前面に打ち出した対面による入試説明会等の開催機会を中心に、ライブ配信を併用したオープンキャンパスやオンライン進学相談会等、受験生がアクセスしやすい環境を整備し、受検者層の拡大に繋げます。

【社会連携・社会貢献】

法人では、地域社会の発展に寄与することを目的に、各地の自治体及び企業等との間で包括連携協定を締結し、積極的に社会との連携を図っています。2026年度は、教育、文化、スポーツの振興・発展、人材育成、まちづくりを目的に群馬県安中市と法人との間で締結した連携協定に基づき、7月に安中・同志社新島講演会、会津若松市で講演会を開催します。引き続き、法人及び各学校が協力して社会連携と社会貢献に取り組み、社会及び地域のコミュニティと共存共栄できる環境を築きます。

同志社大学では、2024年7月に同志社大学、日産自動車、京田辺市の三者連携協定を締結して2年目となった2025年度において、京田辺市の「まちづくりビジョン」を起点として具体的な検討を行いました。京田辺市北部地域のバス交通における減便や路線廃止の対応として、AIオンデマンド交通「たなモビ」の実証事業を実施し、導入・運用の際に行った市民への意識調査等をもとに、「市全体の公共交通 リ・デザインを目指した研究活動」を行いました。第2回連携プロジェクト推進協議会においては、京田辺市の交通政策の取組みのほか、日産自動車との「インフラ協調型自動運転」に関する共同研究の方向性や、「キャンパス脱炭素化」を実現する京田辺モデルの進捗状況を可視化しました。また、2025年10月には、京都日産自動車株式会社を加えた四者で「電気自動車を活用した脱炭素化及び強靭化に関する連携協定」を締結しました。災害発生時に電気自動車や電気自動車用充電スタンドを避難所に設置し活用するほか、電気自動車に関する啓発・普及活動に取組むこととしています。以上の実績を踏まえ、2026年度以降も大学が産官学連携のハブとしての役割を担い、ゼロカーボンの未来と住み続けたいまちづくりの実現に近づけるため、四者による包括連携の取組みを一層強化します。

同志社女子大学では、京田辺市、京都府等の自治体や医療法人社団石鎚会等の医療福祉機関、奈良県立医科大学、奈良先端科学技術大学院大学等の大学や研究機関、株式会社ANA総合研究所等企業と広く包括協定を締結し、相互の教育研究活動及び地域・社会の一層の発展に寄与することをめざし、連携事業を行っています。また、京田辺キャンパスを拠点とする「同志社女子大学まちづくり委員会」では学生が主体となり、地域の特産品PRや児童・高齢者との交流、地域イベントへの参加などを行っています。これらの活動を継続させながら、より充実した社会連携・社会貢献活動を今後も推進します。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、包括協定を締結している自治体、医療福祉機関、研究所、企業等と、相互の教育研究活動及び地域社会の発展のために、引き続き連携事業を実施します。

【危機管理及びリスク管理】

危機管理については、法人及び各学校でそれぞれに「緊急対策本部規程（又は内規）」を制定し、緊急かつ重大な事態が発生した場合は、それぞれで直ちに「緊急対策本部」を設置し、理事長の下で各学校長が必要な措置がとれるよう、危機管理体制を整えています。事案を問わず緊急事態はいつでも起こりうるとの認識の下、法人全体としてより迅速かつ適切に対応することができるよう、法人と各学校との間で課題を共有します。

リスク管理については、法人及び各学校でそれぞれに「リスク管理本部規程（又は内規）」を制定し、教育研究と管理運営を阻害する事態の発生を未然に防ぐために「リスク管理本部」を設置しています。また、法人のリスク管理本部と各学校長との間で「リスク管理連絡会」を組織しています。特に、自然災害への対応については、危機管理担当の常務理事を中心に各学校における防災マニュアルの整備状況、備品・備蓄品の整備状況、防火・防災訓練の実施状況に関する情報を収集し、各学校との情報交換を密にし、法人全体の危機管理体制及びリスク管理体制を強化します。

同志社大学では、2021年度から実施している全学防災訓練を、2026年度は昨年度とは曜日を変えて10月29日に今出川、京田辺校地それぞれ2つの建物（神学館・寒梅館、有徳館西館・訪知館）で実施します。全学防災訓練のうち避難訓練の対象は、当該建物に滞在する学生及び教職員ですが、加えて全ての学生及び教職員を対象として、同志社大学ポータルによる安否確認訓練を行います。また、全学防災訓練とは別途、企業との連携協定による具体的取組みとして、災害時の避難後の対応を体験する催しについて、2025年度に引き続き実施します。

同志社女子大学では、今出川、京田辺両キャンパスにおいて、学生及び教職員を対象とした全学防災避難訓練を実施し、防災意識の向上を図ります。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、従来から行ってきた全校生徒、児童、園児を対象とした避難訓練を実施すると同時に、大規模災害発生時の備蓄品を準備します。

【人事厚生】

学校法人同志社中期人事計画に基づき、各学校の教育活動、研究活動、社会貢献活動及び管理運営業務等を安定的かつ継続的に支えるとともに、さらなる高度化、複雑化や効率化に対応するため、時代の要請に即した組織・制度を整備し、必要な人材の確保、養成する人事戦略を展開し、人事に関する諸課題に対応します。

勤務管理については、2023年度から開始した、小学校、中学校、高等学校の専任教員のWEB勤務管理システムによる労働時間の適正な把握を進め、また、嘱託講師についても、中学校、高等学校において労働時間把握を進めます。さらに、大学では、裁量労働制を採用している有期雇用研究員の労働時間の把握について、厚生労働省が定める「労働時間の適正な把握のために使用者が講ずべき措置に関するガイドライン」に基づいて、客観的な方法により労働時間の状況の把握を実施するとともに、専任教員の労働時間の適正な把握についても、検討を加速化します。女子大学では、専任教員全員の出勤時刻及び退勤時刻の把握とともに、教員の労働時間を適正に把握するために、教員の労働の実態に係る調査を引き続き検討します。加えて、大学から幼稚園までのすべての専任教職員（期間の定めのない労働者）に対して、書面の交付等による労働条件の明示を徹底し、社員の就業状況を適正に把握するとともに人事労務管理に係るコンプライアンスを遵守します。

育児・介護休業法改正（2025年10月施行）に伴い導入が求められている柔軟な働き方を実現するための措置については、保育施設の設置運営及び短時間勤務制度を選択するとともに、柔軟な働き方を実現するための措置の個別の周知・意向確認を進めます。障害者の雇用についても、本年度から雇用率が引き上げられるため、ハローワークを通じた雇用促進や障害者手帳を持っている教職員への呼びかけを通じて、引き続き、法定雇用率の充足を目指します。

教職員の健康の維持については、メンタルヘルス対策として導入しているEAPサービス（Employee Assistance Program）等を通じて、心身の健康からモチベーションの向上、職場環境の改善まで、幅広く社員を支援します。具体的には、相談窓口の設置、専門家によるカウンセリング、メンタルヘルスケアやハラスメント対策、ストレスチェックの実施、研修サービスの提供等を通じて、働きやすい職場づくりを実現します。

職員については、これまで、採用、異動、研修、評価等について、各学校において独自に行っていましたが、業務の高度化、複雑化、多様化等が進み、情報システムの整備・維持等、新たな業務も発生していることから、本年度より、大学及び香里中学校・高等学校の職員の採用、異動、研修、評価等の一元化を実施します。業務の標準化、効率化を通じて、法人全体の職員力の向上にも繋げます。

人事業務や福利厚生業務については、円滑な運営を目指して、業務の外部委託を進めるとともに、専任職員が担うべき本来業務、教職員の満足度向上、生産性向上の取組み、各学校の業務の統合等を進めます。

人事計画については、各学校において、新規採用・補充人事を中長期の財政計画のもとに慎重に行い、必要な人件費を計上して、運営にあたります。大学及び女子大学では、大学運営におけるデジタル化、ペーパーレス化を推進し、ワークフローシステムの対象の拡大にも取り組むとともに、大学では、人事情報を管理するツールとしてタレントマネジメントシステムを活用し、最適な人事配置、次世代人材の育成、さらには人事戦略、経営戦略に役立てます。中学校・高等学校では、引き続き、制度を改正した部活動指導員制度等を活用し、安定した学校運営と適正な労働環境構築の両立に取り組みます。

これらの取組みを通じて、学校法人同志社次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の達成に取り組みます。

【施設設備】

法人では、各学校等に存在する歴史的・文化的価値を有する遺跡・遺構の説明案内板（大学今出川・京田辺、女子大学今出川、女子中高、小学校）をリニューアルします。

同志社大学では、創立150周年記念事業（大学建設事業）である今出川キャンパスの新図書館建設事業、京田辺キャンパスのキャンパスリニューアル事業及びスポーツ・コンプレックス建設事業を継続します。また、キャンパスと調和のとれた周辺環境の整備やサステナブル・キャンパスも視野に入れた施設整備のため、空調及び照明器具（LED化）等の設備更新を計画通り行うとともに、今出川キャンパスでは啓明館の耐震改修にむけた計画準備、京田辺キャンパスでは体育施設更新工事や特別高圧受変電設備の改修工事を進めます。

同志社女子大学では、京田辺キャンパス憩水館吸収式冷温水機及びコージェネレーション更新工事を実施します。また、同志社女子大学創立150周年事業の一つとして「開かれた図書館、人が集う図書館」を基本理念とした、今出川図書館の改修工事（2025年度～2026年度）を実施します。その他、2025年度に策定した「キャンパス営繕計画」に基づく各種改修・更新工事、省エネ対策としてLED化推進事業にも引き続き取り組みます。

同志社中学校・高等学校では、中高統合後十数年を経て、交換や修繕が必要な教育設備の点検を行い迅速に対応します。また、電子黒板の設置等、ICT教育の更なる前進を図ります。

同志社香里中学校・高等学校では、長期修繕・改修計画に基づき、ICT教育を支える設備整備、自然災害で被害をうけたプール屋根の修繕を実施する他、防災設備の点検を開始します。

同志社女子中学校・高等学校では、より安全で快適な教育環境を保つため、新生館等の既存校舎の改修を計画的に行います。また、女子部150周年記念事業の一環として行っている静和館の内装工事を継続し、空調設備の刷新などに着手します。さらに、ICT教育を推進するため、パソコン、タブレット、電子黒板を増設します。

同志社国際中学校・高等学校では、開校50年を迎える2030年に向けて、校舎、既存施設の老朽化への対応として、キャンパスのハード面での整備を図るとともに、新しい時代に対応した教育機器の導入など、生徒、教職員がストレスなく学習できる環境を目指します。

同志社小学校では、2024年度から3年計画で進めている明心館空調更新工事を実施します。

同志社国際学院では、開校16年目を迎えて老朽化した各施設設備等について、順次適切に更新、修繕等を行います。2026年度は空調予防保全工事、緊急通報装置更新工事を実施します。

幼稚園では、園舎の維持管理を適切に進めます。

【財政】

法人では、中期財政目標及び中期財政計画を定め、これに単年度の予算編成を組み合わせて財政運営を行い、財政基盤の安定化を図ります。また、中期財政計画の達成状況については、毎年、点検・評価を行い、必要な見直しを実施して、次年度の予算編成に繋げます。

1. 2026年度財政目標

本法人では、財政基盤の強化を図るため、「学校法人同志社の中期財政計画」を策定しており、2026年度は、事業活動収支差額比率は8%以上、また、減価償却額の累計額に対する自己資金の充足率については、90%以上を目標とする。

2. 2026年度予算

2026年度予算は、経理規程第93条に基づき、収支均衡を得るよう編成する。

2−1　重点事項

各学校では、安定的な財源確保を図るため、入学定員どおりの学生・生徒・児童・園児数を確保する。

2−2　経常勘定

①寄付金については、父母を対象とした募金を含め、各学校において、募金事業を推進する。
②補助金については、大学及び女子大学の私立大学等経常費補助金、高等学校等の運営費補助金の増収に積極的に取り組む。
③受取利息・配当金については、委託運用の活用を含め、効率的な資金運用を推進し、収入の拡大に努める。特に、第3号基本金引当特定資産運用収入については、運用利回り1%以上を確保する。
④付随事業・収益事業収入については、産官学連携活動を積極的に展開し、受託事業の拡大に繋げる。
⑤人件費については、総人件費の適正化のため、新規採用・補充人事を中長期の財政計画のもとに慎重に行う。
⑥事業費については、2024年度事業を対象にして実施した事業計画の成果の検証結果も踏まえて、各事業は効率的な支出で成果が確保できるよう工夫を加える。また、新たな事業については、既存事業の廃止、縮小も含め見直しを行い、必要な財源を確保できる見通しを立てて事業計画を具体化する。さらに、株式会社同志社エンタープライズの活用を含め、最適な物件調達方法によりコスト削減にも努める。
法人においては、引き続きコンプライアンスの徹底とそれを貫徹するガバナンスの強化に取り組む。
⑦第3号基本金による事業については、第3号基本金引当特定資産運用収入の配分見込額で実施可能な計画を策定するものとし、配分見込額を超えても実施すべきと判断する事業については、必要な財源を確保する。また、安定的かつ充実した事業実施に向け、計画的に基金の増額も図る。
⑧将来計画を確実に遂行するため、第2号基本金や準備金の設定・増額を図りつつ、収支均衡に努める。

2−3　建設勘定

①新たな建設事業については、事業費の50%程度を目標に自己資金を事前に確保することに努め、建設費高騰の情勢にも留意の上、確実な資金計画に基づく事業計画を策定のうえ実施する。
②施設・設備の整備に際しては、安全、防災、環境保全等の対策強化のための予算を計上する。なお、校舎の耐震補強については、耐震診断の結果を踏まえて引き続き整備計画を進める。
③将来における施設・設備の再取得資金の着実な確保に向けて、中長期的な財政計画の中で繰越支出超過額の解消に努める。

【広報】

法人では、法人部及び各学校からの教職員で構成する同志社広報委員会及び同志社広報小委員会の下、その主軸となる「同志社時報」を中心に各学校の広報計画を共有しつつ、広報活動を展開します。

同志社大学では、引き続き、公式ホームページでの情報発信を基本にオウンドメディア「"D"iscover」のコンテンツの充実や公式SNS等での動画コンテンツによる発信を強化し、従来の紙媒体の新聞紙や冊子とも相互連携を図ることで、大学における諸活動の発信を拡大します。また、様々なメディア媒体を効果的に活用すると共に、大学公式YouTubeチャンネルからの学長との対談動画の配信や京田辺キャンパス開校40周年記念事業の広報などを通じて、さらなるブランディングの強化やプレゼンスの向上を図ります。

同志社女子大学では、動画配信などマス媒体による幅広い層をターゲットとした広報と、対面広報・Webサイト・SNSを活用した直接的な広報を併せて実施し、それぞれが連携する形の広報を展開することにより、対面接触イベントへの誘導、特にオープンキャンパス（年間8回）への誘導を図り、これまで培ってきた接触対応スキルを活かして受験生及び保護者の満足度を高め、志願者獲得へと繋げます。また、本学Webサイトや広報誌のほか、公開講座やワークショップ等のイベント開催の機会を通して、受験生だけでなく一般の方へも本学に対する理解を深めるべく、教員の教育研究の成果や社会貢献活動、在学生や卒業生の活躍の様子などを幅広く発信することで、本学の認知度やブランド力の向上に努めていきます。

同志社中学校・高等学校、同志社香里中学校・高等学校、同志社女子中学校・高等学校、同志社国際中学校・高等学校、同志社小学校、同志社国際学院及び同志社幼稚園では、入試広報を中心に、それぞれの学校独自の魅力を発信し、イベントへの誘導を図るべく、ステークホルダーに響く広報活動をより一層推進します。

【記念事業】

法人では、2026年度は、女子部の150周年を記念して、「同志社女子部創立150周年記念ツアー～"同志社女子部のはじまり"を訪ねて～」を実施します。8月17～23日の日程でアメリカのサンディエゴやクレアモントを訪問し、サンディエゴでは、女学校の創設に力を尽したスタークウェザーの墓碑の前で記念礼拝を行います。また、同志社が包括協定を締結している会津若松市、安中市で講演会を開催し、完成した新島襄に関するアニメーションの上映を行います。『同志社百五十年史』については、『通史Ⅰ』は2027年12月の刊行を、『通史Ⅱ』は2028年3月の刊行を目指して編纂事業に取り組みます。

同志社女子大学では2026年度の創立150周年に向けて、同志社女子大学創立150周年記念事業委員会、下部組織である『同志社女子大学のはじまり』編纂委員会及び創立150周年記念行事等実施委員会において様々な記念事業を実施しています。両キャンパスに創立150周年記念フラッグの掲出、本学のあゆみを振り返るパネル展実施、創立150周年記念特設サイト内における卒業生らからのメッセージ掲載、フェイラー社とのコラボによる本学限定デザインハンカチ販売などにより、創立150周年への機運を盛り上げています。さらに、竣工から50年近く経過している今出川図書館改修工事に夏より着手しました。『開かれた図書館、人が集う図書館』をコンセプトに、2026年秋の竣工をめざし、学修・研究環境の向上と学びの活性化を図ります。これらを実施しながら、女子大学が創立150周年を迎える2026年度は創立記念日である10月24日の創立記念式典をはじめ、創立150周年記念特別事業などさらに様々な事業を実施します。

学校法人 同志社

学校法人 同志社 事業報告書2025

The Doshisha Social Responsibility Report 2025

発行日：2026年6月27日
学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
https://www.doshisha.ed.jp/